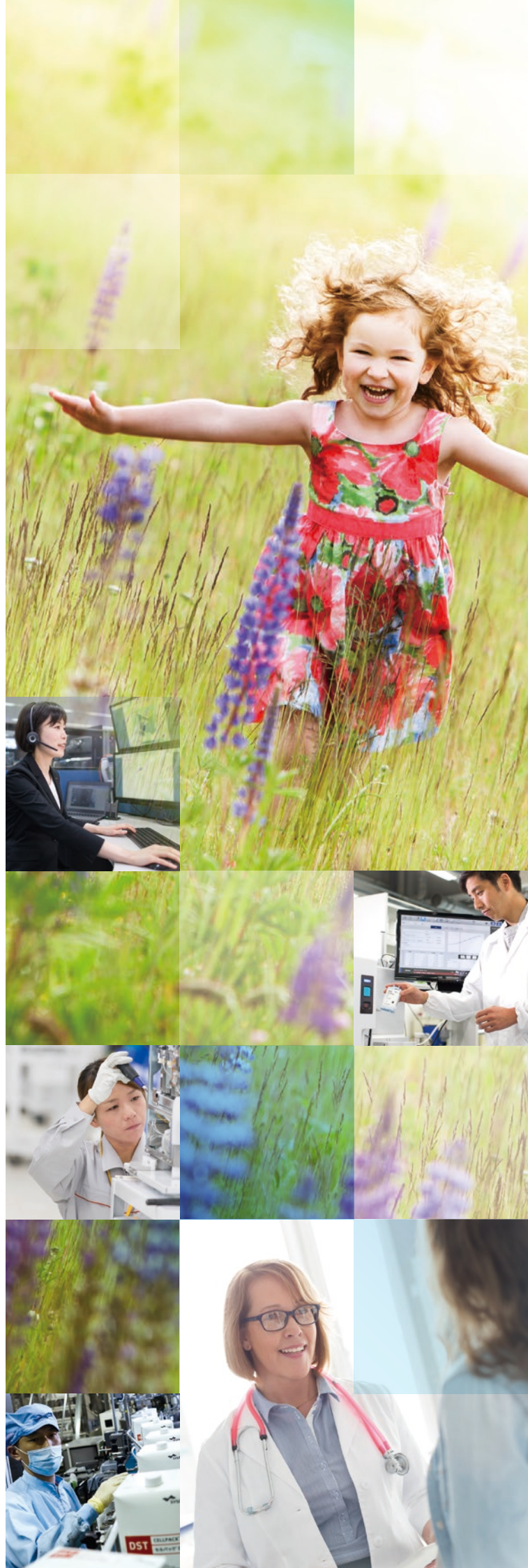


シスメックス あんしんレポート 2016

CSR報告書 詳細版





目次

- 1 目次／編集方針
- 2 企業理念・行動基準
- 3 社長メッセージ
- 5 シスメックスについて
- 7 特集1 社内外の知と技術を結集し
ヘルスケアの進化を加速
- 9 特集2 新しい価値の創造に向けた
グローバルな人材育成・交流
- 11 シスメックスのCSR
 - 12 CSRマネジメント
 - 14 CSR中期計画
 - 17 ステークホルダーとの対話実績
 - 19 CSRデータ一覧
 - 24 社外からのCSR評価
- 29 コンプライアンスの取り組み
- 36 リスクマネジメント
- 38 ステークホルダーとの関わり
 - 39 お客様との関わり
 - 40 品質・安全性の確保
 - 43 サービス&サポート/学術活動
 - 48 安定的な供給
 - 50 お客様満足度・社外評価の向上
 - 51 医療課題解決への貢献
 - 54 株主様との関わり
 - 56 取引先との関わり
 - 59 従業員との関わり
 - 60 人権の尊重
 - 62 評価・処遇・人材育成
 - 67 ダイバーシティ推進
 - 74 労働者の権利の尊重
 - 75 安全と健康への配慮
- 79 社会貢献活動
 - 80 社会貢献方針
 - 81 健康社会づくり活動
 - 86 地域社会への貢献
 - 90 従業員の社会貢献活動の推進
- 91 環境保全活動
 - 92 環境マネジメントの取り組み
 - 97 製品・サービスのライフサイクルにおける環境配慮
 - 100 事業所活動の環境配慮
 - 104 その他の環境活動
 - 106 グリーン調達
 - 108 パフォーマンスデータ集
- 119 会社情報／ウェブ掲載情報

編集方針

シスメックスは、企業としての社会的責任(CSR)に関する考え方とその活動をステークホルダーの皆様にお伝えし、皆様との対話を深めることを目的として、毎年、CSR報告書「シスメックスあんしんレポート」を発行しています。

ダイジェスト版では、当社のCSRの考え方および当該年度の主な取り組みを特集や地域別のトピックスとして紹介しています。CSRサイトおよび「シスメックスあんしんレポート詳細版(PDF)」では、詳細な情報を開示しており、GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第4版」の「中核」に準拠しています。

参考にしたガイドライン

- GRI(Global Reporting Initiative)
「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第4版」
- 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

対象組織

原則としてシスメックスグループ(シスメックス株式会社および国内・海外グループ会社)を対象としています。本報告書中の「シスメックス」はシスメックスグループを、「シスメックス株式会社」は、シスメックス株式会社単体を指します。

対象期間

2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日)を中心に、一部それ以外の期間の活動についても記載しています。

発行時期

2016年7月(2016年9月改訂)
(前回の発行は2015年7月)

本報告書に関するお問い合わせ先

シスメックス株式会社 CSR・環境推進部
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1
Tel 078-265-0500(代表) Fax 078-265-0524

将来に関する予測・計画について

本報告書には、シスメックス株式会社とそのグループ会社に関する過去の事実だけでなく、将来の予測・計画なども記載しています。これらの予測・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、不確実性が含まれています。したがって、将来の事業活動の結果や将来に起こる事象が本報告書に記載した予測・計画とは異なったものとなる可能性があります。読者の皆様には、以上をご承知いただきますようお願いいたします。

シスメックスグループ企業理念

Sysmex Way

Mission

ヘルスケアの進化をデザインする。

Value

私たちは、独創性あふれる新しい価値の創造と、
人々への安心を追求し続けます。

Mind

私たちは、情熱としなやかさをもって、
自らの強みと最高のチームワークを発揮します。

行動基準

お客様に対して

常にお客様の視点で行動し、確かな品質ときめ細やかなサポートにより、お客様に安心を届けます。
常にお客様が真に求めるものが何かを追求し、お客様の期待を超える新しい価値を提案します。

従業員に対して

多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にすると共に、
安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。
自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。

取引先に対して

公平・公正を基本とした幅広い取引により、取引先の皆様に安心を届けます。
相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業をめざします。

株主様に対して

経営の健全性と透明性を高め、積極的な情報開示とコミュニケーションで、株主の皆様に安心を届けます。
堅実かつ革新的な経営を推進し、持続的な成長と株主価値の向上に努めます。

社会に対して

法令遵守はもとより、常に高い倫理観にもとづいた事業活動を推進し、社会の全ての皆様に安心を届けます。
環境問題をはじめ地球や社会が抱える様々な問題の解決に、社会と共に取り組みます。



世界中の人々に「安心」をお届けしたい—— 創業以来大切にしてきたこの想いのもと、 医療の発展や人々の健やかな暮らしに 貢献していきます

価値の高い検査・診断技術を創出し、医療の発展に貢献

シスメックスは、グループ企業理念「Sysmex Way」において「ヘルスケアの進化をデザインする。」をミッションに掲げ、医療の発展と人々の健やかな暮らしに貢献することを目指しています。

近年、先進国では高齢化や医療ニーズの多様化、新興国では人口の増加、医療インフラの整備が急速に進んでいます。また、開発途上国においては、HIV/AIDS、マラリア、結核などの三大感染症に加えて、エボラ出血熱などの新たな感染症への対応が重要な課題となっています。このような環境変化の中、疾病の予防や早期発見、治療方針の決定に重要な役割を果たす「検査」に対する期待はますます高まっています。

シスメックスは、創業以来、高度化・多様化する検査ニーズにお応えし、現在ではヘマトロジーをはじめとする検体検査分野における製品・サービス&サポートを世界190カ国以上にお届けしています。また個別化医療の実現に向けた研究開発の取り組みを加速させるために、研究機関や大学、病院、企業との共同研究を進め、身体的負担の少ない血液を用いたがんの早期発見、患者さん一人ひとりに合った最適な治療の選択など先進的で価値の高い検査・診断技術の創出を目指します。さらに、これまで培ってきたノウハウやネットワークを活かして、認知症の次世代診断薬の共同開発にも着手しました。これからは環境変化にスピード豊かに対応していくとともに、ヘルスケアの進化に貢献する新しい価値の創出に努め、世界中の人々の「健康でありたい」という願いに応えていきます。

ステークホルダーの皆様へ「安心」を提供

シスメックスは、企業理念と行動基準の実践を通じてステークホルダーの皆様へ「安心」をお届けするという考え方を大切にしています。医療の発展への貢献はもとより、お客様、従業員、取引先、株主様、環境を含む社会に対して、どのように「安心」をお届けするかを行動基準で具体的に示し、事業活動に取り組んでいます。

また、2011年2月より、国連グローバル・コンパクト(GC)に参加し、2015年度に策定した「CSR中期計画(2015～2017年度)」では、GCが定める「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」に関する10原則などを参照しています。今後は、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」なども考慮したうえで、シスメックスにとって重要な取り組み課題を明確にし、グローバル企業としてCSR活動をさらに積極的に進めていきます。

シスメックスはこれからも、事業活動を通じた豊かな健康社会づくりをはじめ、環境活動や社会貢献活動などにも積極的に取り組み、世界中の人々に「安心」をお届けし続けることで、皆様からの期待に応えられるよう努めてまいります。ステークホルダーの皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2016年7月

代表取締役会長兼社長

冢 次 恒

検査を通じて健康社会の実現に貢献しています

病院の診療や定期健康診断で受ける「検査」には2つの種類があります。一つは、レントゲンなどで身体を直接調べる「生体検査」。もう一つが、患者さんから採取した血液や尿、細胞などを調べる「検体検査」です。シスメックスは、「検体検査」の分野で事業を展開しており、検体検査に必要な機器・試薬・ソフトウェアの研究開発から生産、販売・サービス&サポートを一貫して行う総合メーカーです。世界190カ国以上のお客様に製品やサービス&サポートをお届けし、迅速な診断や治療方針の選択、そして患者さんの負担軽減に貢献しています。

シスメックスの事業プロセス

価値の高い検査・診断技術を創出



研究開発

品質を確保し、製品を安定的に供給



生産

190カ国以上に製品・サービスを提供



販売

お問い合わせにきめ細かく対応



サービス&
サポート

シスメックスの製品



多項目自動血球分析装置
XNシリーズ「XN-2000」

この装置でわかる主な病気
**貧血、白血病、
血小板減少症など**



全自動尿中有形成成分分析装置
「UF-5000」

この装置でわかる主な病気
腎疾患、尿路疾患など



全自動血液凝固測定装置
「CS-5100」

この装置でわかる主な病気
**血栓症、血栓性疾患（心筋
梗塞、脳梗塞）、血友病など**



全自動免疫測定装置
「HISCL-5000」

この装置でわかる主な病気
**感染症（肝炎、エイズ）、
がん、アレルギーなど**



遺伝子増幅検出装置
「RD-100/i」

この装置でわかること
**乳がん、大腸がん、胃がんの
リンパ節への転移有無**



健康モニタリング装置
「ASTRIM FIT」

この装置でわかること
血液中の酸素運搬能力



専用試薬

当社製品で使用する希釈液
や染色液など



動物用多項目自動血球計数装置
「pocH-100/VDiff」

この装置でわかること
**動物の健康状態
（精密検査の必要性判断）**

身近なところでシスメックスの製品が活躍

病院

1 [検査室] 患者さんから採取した血液・尿などを当社製品で調べることで、身体の各器官・各組織の機能低下や異常を発見することができ、病気の早期発見や治療方針の確定、治療効果の確認に活用されています。

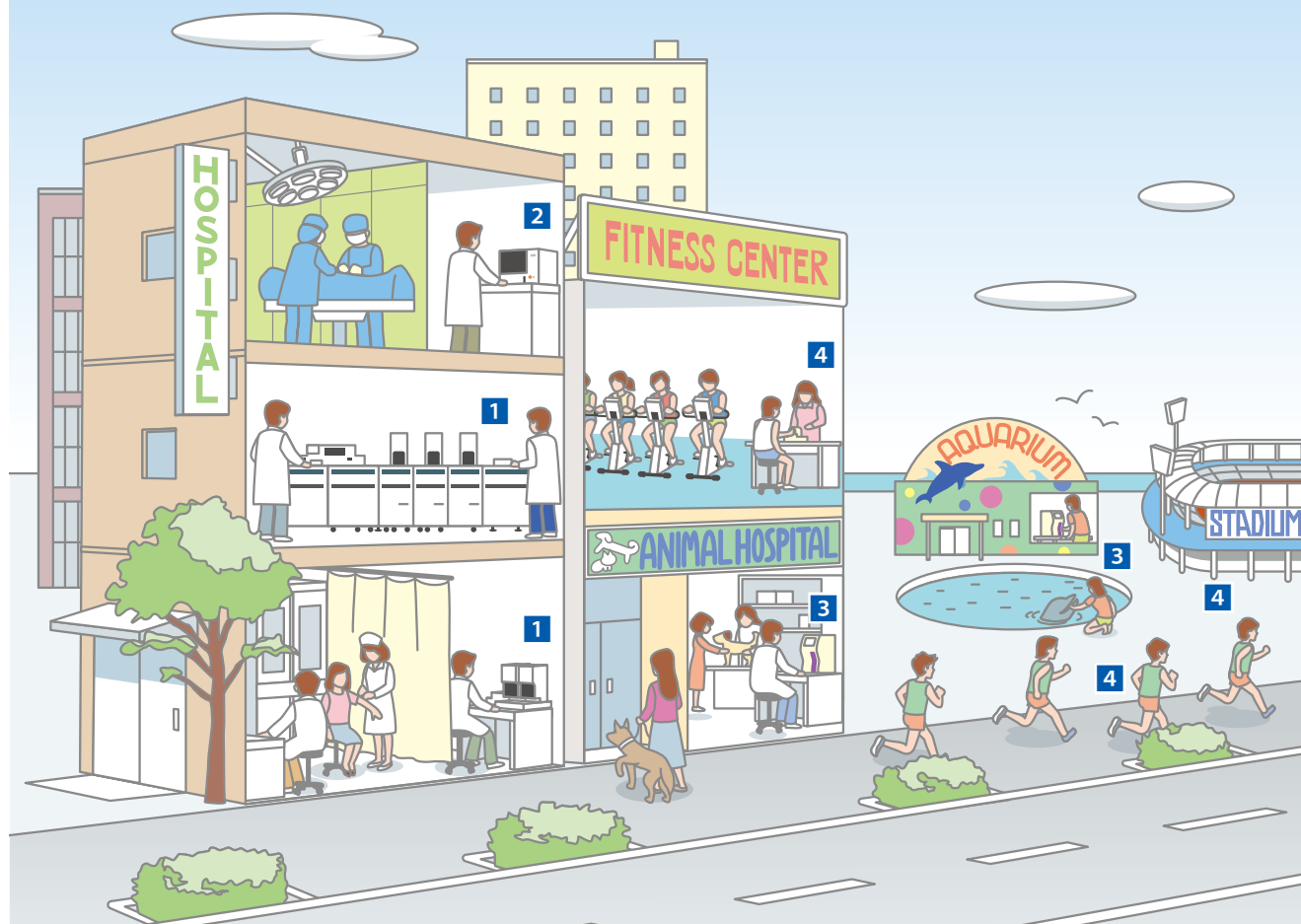
2 [手術室] 乳がん・大腸がん・胃がんの手術中にリンパ節転移の有無を調べることができる当社製品は、患者さんの負担を考慮した縮小手術の方針決定に活用されています。

動物病院・水族館

3 犬や猫などをはじめ、水族館のイルカや動物園の動物たちの血液を当社製品で調べることで、精密検査の必要性を判断するなど、健康管理に活用されています。

スポーツ施設

4 採血せずに指をかざすだけでヘモグロビン推定値を測定できる当社製品は、スポーツのプロチーム、実業団・大学・高校の陸上部、ジムなどでコンディション管理に活用されています。



1

特集

1 社内外の知と技術を結集し ヘルスケアの進化を加速

2

3

4

Sysmex Open Innovation Lab.(SOLA)の概要

イノベーションエリア：
最先端・高機能の分析機器を備え、新たな技術シーズ
を研究・検証するエリア (1・2)

シスメックスエリア：
当社の最先端検査機器を設置し、当社技術と新たな
技術を融合させ、製品の実用化を推進するエリア

コミュニケーションエリア：
新たな発想を得るために研究者が交流するエリア (3)

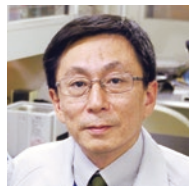
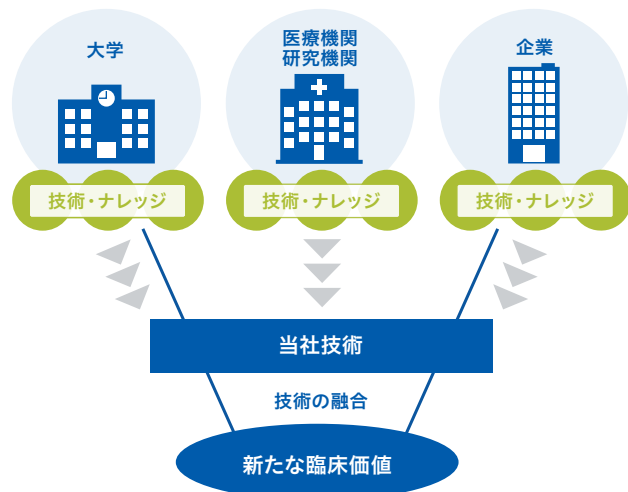
ICTエリア：
スーパーコンピューターにアクセスできる環境が
整えられたエリア (4)

個別化医療の実現に向けて オープンイノベーションラボを開設

同じ病気であっても、患者さんごとに投薬効果や副作用は異なります。近年では、遺伝子やタンパク質の解析技術が進歩したことで、疾患の理由やメカニズムが明らかになりつつあり、患者さん一人ひとりに合った治療方法を選ぶことで治療効果やQOLの向上につなげる「個別化医療」への期待が高まっています。シスメックスは、個別化医療の実現に向けた研究開発の取り組みを加速すべく、2015年10月にオープンイノベーションラボ「Sysmex Open Innovation Lab. (SOLA)」を開設し、社外研究者とのコラボレーションを開始しました。

一例として、株式会社JVCケンウッドと、「エクソソーム」を対象とした診断機器の共同開発を進めています。エクソソームは、血液、唾液、尿などの体液中に存在し、そこに含まれる種々の物質が、がんや中枢神経疾患などのバイオマーカー※になると期待されています。本共同開発を通して、現在では難しいがんの早期発見や、治療効果のモニタリングに貢献する画期的な検査・診断技術の創出に取り組んでいます。

Sysmex Open Innovation Lab.(SOLA)の狙い



株式会社JVCケンウッド
メディカルシステム開発
タスクフォース
参事

辻田 公二 様

ステークホルダーの声

最先端の分析機器と設備が機能的に配置されたSOLAのイノベーションエリアの環境は素晴らしく、ゆとりあるコミュニケーションエリアと支援スタッフの配慮で、充実した研究を効率良く快適に進めることができます。それにも増して最も刺激的で有意義なことは、シスメックスの研究者とお互いの技術・知見を活かした議論や共同実験をFace to Faceで行えることです。SOLAの魅力はそこにあると思います。

個別化医療をはじめとした最先端医療を支える先進的な技術を融合し、新たな臨床価値を生み出すために、今後は、国内外の大学研究者によって組織されるグローバルリサーチユニットや企業ワーキンググループなどの利用も予定しています。
※ 特定の病状などの指標となる物質。

国立がん研究センター内に 共同研究ラボを設置

シスメックスと国立がん研究センターは、2013年9月にがんの診断薬開発に向けた包括提携契約を締結し、これまでに7件の共同開発を推進してきました。2015年10月には、ゲノム医療※1の実現に向けて、がん診断分野における研究開発をさらに加速させるために、臨床検査室に関する国際規格 ISO 15189※2に準拠したラボ「Sysmex Cancer Innovation Laboratory (SCI-Lab)」を国立がん研究センター中央病院内に開設しました。

SCI-Labでは、さまざまながんに関係するとされる100種類程度の遺伝子を次世代シーケンサーで網羅的に測定する「網羅的遺伝子検査」を用いた臨床研究を実施しており、適切な治療方針や投薬の判断などへの活用が期待されています。また、同ラボは、シスメックスグループの中で遺伝子解析に豊富な経験を有する株式会社理研ジェネシスとも連携して運営しています。

新たながん診断法を一日も早く実現するために、今後も国立がん研究センターや理研ジェネシスと密に連携し、研究開発を推進していきます。

※1 遺伝子情報と病気の関係を解析し、発症リスクのある疾患の予防や、より効果的な治療の選択を可能とする医療。

※2 臨床検査室の品質と能力に関する要求事項を定めた国際規格。



Sysmex Cancer Innovation Laboratory (SCI-Lab)



国立がん研究センター
先端医療開発センター
先端医療開発
センター長

落合 淳志 様

ステークホルダーの声

SCI-Labにより、院内の症例に関して、検体採取、ゲノム検査、患者さんへの情報提供、治療法の選択など、実際の診療を行うシステムを構築・運用できるようになりました。今回のSCI-Labで行われるゲノム診断は、我が国における新しいゲノム医療の先駆けであり、日本のゲノム医療構築に大きく貢献すると期待されます。今後は、SCI-Labを発展させ、ゲノム医療のみならず次世代の医療技術・診断の実臨床への導入・推進を目指したいと考えます。

1



特集 2 新しい価値の創造に向けた グローバルな人材育成・交流

2



3



4



5



6



グローバルコミュニケーションセンターでの
研修風景

グローバルエクスチェンジプログラム
(日本と海外の従業員同士の交流を促し、
互いに理解を深めることで関係強化を図る
プログラム) (1 2 3)

新入社員研修 (4)

グローバルアプレントイス プログラムの様子

シスメックス パルテック (5)

シスメックス 上海 (6)

グループ全体で人材育成・交流を推進

グローバルに事業を展開するシスメックスのグループ従業員総数は7,000名(2016年3月末時点)を超え、うち海外従業員比率は50%を超えています。このような状況において、グループ企業理念「Sysmex Way」を実践し、世界中の人々に安心をお届けしていくためには、個々の人材の能力向上はもちろんのこと、多様な人材同士がコミュニケーションを通じて、互いに価値観を共有し、気づきを得ることで、新たな価値や文化を探索・創造していくことが重要であると考えています。

そこで、シスメックスは2014年度にグループ共通の人材開発体系「グローバル人材開発体系」を制定し、「グループ一体感の強化」「次世代人材の育成」「グループ間ネットワークの強化、異文化理解」を狙いとした取り組みを推進しています。

2011年度に導入した、若手従業員を対象とした「グローバル アプレンティス プログラム」もその取り組みの一つです。このプログラムでは、明確な課題意識を持ち、グローバルでの活躍を希望する従業員を公募し、早期に海外業務経験

グローバル アプレンティス プログラムの主な実績(2015年度)

〈シスメックス アメリカ〉

インターネットを活用した顧客向け統合情報ツール「My Sysmex」用インターフェイスプログラムの開発

〈シスメックス アメリカ/シスメックス ブラジル〉
南アメリカサービス拠点立ち上げのサポート

〈シスメックス リージェンツ・アメリカ〉
次世代工場建築に向けた、
現地工場のオペレーション・現地需要などの調査

〈シスメックス ヨーロッパ〉
ICTのグローバル標準化に向けた、
EMEA※地域とシスメックス株式会社の連携強化
大腸がん関連事業のEMEA※地域・日本地域での共同推進

※ 欧州・中東・アフリカ地域。



生産統括本部
生産技術部
成瀬 一

グローバル アプレンティス プログラムに参加した従業員の声

私は、過去の新工場建設プロジェクトでの経験を、新たに拡張される米州工場で活かしたいと思い、グローバル アプレンティス プログラムに応募しました。現地での経験は、私自身を成長させただけでなく、現地とのネットワークが強化され、帰国後の仕事も進めやすくなりました。

の機会を提供することによって将来のグローバル人材を育成しています。また、帰国した従業員が報告会を開き、現地の課題や状況などを伝える手段としても役立っています。2015年度末までに、計38名がこのプログラムを利用しました。

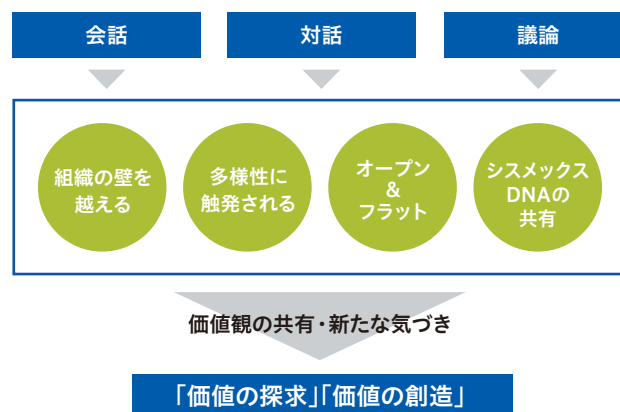
人材育成および交流の新拠点「グローバル コミュニケーション センター(GCC)」を開設

2015年4月には、宿泊設備も備えた人材育成および交流の新拠点「グローバル コミュニケーション センター」を開設しました。多様な文化や価値観を持つ人々が自由闊達に議論をし、ネットワークの拡大を図る場とするため、用途に応じてフレキシブルにレイアウトできるディスカッションエリアや、車座になって語り合うオープンスペースなどを設置しています。

新入社員研修などの人材開発体系に基づく研修や、グローバルベースの部門横断型の勉強会・合宿などに活用することはもちろん、社内外のさまざまな価値観を持つ人々が集い、コミュニケーションを図る場としても利用しています。

シスメックスでは、今後もグローバルな人材育成・交流を活性化し、「Sysmex Way」の実践に向けてチームワークを高め、新たな価値を創造していきます。

グローバル コミュニケーション センター



UB-PE本部
事業企画部
Liyana Binti
Mohd Yazid

GCCを利用した従業員の声

私は、新入社員研修でGCCを利用しました。GCCには自然と人が集まってくるような、研修の受講者同士が話しやすい雰囲気がありました。また、卓球ができる場所があり、研修時間外は皆で和気あいあいとリフレッシュできたのもよい思い出です。GCC周辺は景色がよく、朝からジョギングしている受講者もいました。

シスメックスのCSR

＞ CSRマネジメント

グループ企業理念や国連グローバル・コンパクトの10原則などに基づいてCSR活動に取り組んでいます。

＞ ステークホルダーとの対話実績

ステークホルダーの皆様と直接対話する機会を大切にし、いただいたご意見・ご要望をCSR活動に活かしています。

＞ 社外からのCSR評価

代表的なサステナビリティインデックスに選定されています。また、さまざま外部団体から、評価・表彰をいただいています。

＞ CSR中期計画

CSR中期計画（2015～2017年度）を策定し、CSR活動を推進しています。

＞ CSRデータ一覧

ステークホルダーや社会貢献活動、環境保全活動に関連するさまざまなデータをご紹介します。

CSRマネジメント

基本的な考え方

シスメックスのCSRは「Sysmex Way」の実践を通じて皆様に「安心」をお届けすること

シスメックスのCSRとは、シスメックスグループ企業理念「Sysmex Way」の実践を通じて、ステークホルダーの皆様に「安心」をお届けすることと考えています。

「Sysmex Way」は、企業活動の最も基本的なあり方を示したもので、シスメックスが社会に貢献し、そして成長し続けるために必要なMission、Value、Mindの3つの要素で構成しています。Missionでは、創業から取り組んできた検体検査分野を事業の核としながら、より広く、より深く人々の健康に関わるヘルスケアの領域での進化に挑戦し、豊かで、健やかな、歓びに満ちた社会づくりに貢献していくことを表明しています。

さらに「行動基準」では、お客様、従業員、取引先、株主様、社会というステークホルダーの皆様に対する具体的な提供価値を明確にしています。たとえば、社会に対しては、法令遵守はもとより、常に高い倫理観に基づいた事業活動を推進し、社会のすべての皆様に安心をお届けしていくことや、環境問題をはじめ地球や社会が抱えるさまざまな問題の解決に、社会とともに取り組んでいくことを大切にしています。

このような考え方に基づき、コンプライアンスやリスクマネジメント、環境などのCSRに関する主要テーマについては役員を委員長とする各種委員会を設置して活動を推進しています。また、CSR活動の企画・立案および推進、社内外へのCSR情報発信などを行う専任部署としてCSR・環境推進部を設置しています。

国連グローバル・コンパクトに参加

シスメックスは、CSRへの取り組みをさらに積極化するために、2011年2月以降、国連グローバル・コンパクトに参加し、10原則の支持を表明しています。

人権	1. 企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重すべきである。 2. 企業は、自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。
労働	3. 企業は、結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持すべきである。 4. 企業は、あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持すべきである。 5. 企業は、児童労働の実効的な廃止を支持すべきである。 6. 企業は、雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。
環境	7. 企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持すべきである。 8. 企業は、環境に関するより大きな責任を率先して引き受けるべきである。 9. 企業は、環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。
腐敗防止	10. 企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。



CSR中期計画

ステークホルダーの要請・期待を踏まえて新たなCSR中期計画を策定

事業のグローバル化や社会からの要請・期待の多様化・高度化を受け、2015年5月に新たなCSR中期計画（2015～2017年度）を策定しました。同計画には、国連グローバル・コンパクトの10原則や社会的責任の国際規格ISO 26000、さらには、ステークホルダーの皆様のさまざまな要請・期待を考慮し、当社が取り組むべき重要な課題と、これらの解決に向けた施策を明記しています。

現在は、次期CSR中期計画（2017～2019年度）策定に向けて、あらためてステークホルダーの皆様にとっての重要度、シスメックスグループにとっての重要度を踏まえたうえで、CSR重要側面の整理を進めています。

また、環境に関しては環境行動計画「シスメックス・エコビジョン2020」のもと、事業活動における環境負荷低減に向けてグループで取り組んでいます。

CSR中期課題

- グローバルリスクマネジメント体制の強化
- コンプライアンス体制の強化
- 多様な人材の育成・登用
- 魅力的かつ働きやすい職場環境の維持・向上
- 製品・サービスおよび事業所活動の環境負荷の低減（グループ目標値エコビジョン2020の目標達成を含む）
- CSR調達の推進
- 顧客満足度の向上
- 社会貢献活動の推進

CSR中期計画(2015～2017年度)の進捗

区分	CSR中期課題	施策	2015年度の計画	
組織統治	グローバルリスクマネジメント体制の強化	グローバルリスクマネジメント体制の浸透	・リスクマネジメント体制基盤の強化	
		グループの重要リスクへの対応強化	・情報漏えい対策の強化 ・グローバルな公正取引の推進 ・事業継続対策のグローバル展開	
	コンプライアンス体制の強化	コンプライアンスの徹底および適用拡大	・公正な取引に関する苦情管理体制の整備 ・コンプライアンス方針の適用範囲拡大	
		グローバルコンプライアンス体制の強化	・外部専門家評価に基づく改善策の立案・実施	
人権・労働慣行	多様な人材の育成・登用	女性の活躍促進	・女性採用比率の向上 ・女性のキャリアアップ研修実施	
		多様なグローバル人材の獲得	・外国人材採用比率の向上	
		グローバルタレントマネジメントの推進	・グローバル人材育成プログラムの実施	
	魅力的かつ働きやすい職場環境の維持・向上	従業員満足度の向上	・各種制度の活用に向けた啓蒙活動の推進	
環境	製品・サービスおよび事業所活動の環境負荷の低減 (グループ目標値エコビジョン2020の目標達成を含む)	製品・サービスの環境配慮推進	・製品・サービスの温室効果ガス排出削減	
		事業活動の環境負荷の低減	・エネルギー・廃棄物・水資源の使用の低減	
公正な事業慣行	CSR調達の推進	CSR調達の継続的推進	・新しい調達方針に基づく新規取引先の選定と既存取引先への啓蒙活動実施	
消費者課題	顧客満足度の向上	グローバルな顧客満足度評価体制の整備	・グローバルでの顧客満足度調査の実施	
コミュニティへの参画・発展	社会貢献活動の推進	社会貢献方針に基づく企業市民活動の実施	・社会貢献活動の継続実施 ・社会貢献ポイント制度の推進による従業員ボランティアの拡大	

注) CSR中期課題のうち、「グローバルリスクマネジメント体制の強化」「コンプライアンス体制の強化」「製品・サービスおよび事業所活動の環境負荷の低減」「顧客満足度の向上」の対象範囲は、シスメックス株式会社および国内外グループ会社。その他のCSR中期課題の対象範囲は、シスメックス株式会社および国内グループ会社。

2015年度の結果	進捗状況※1	2016年度の計画	対応するG4※2の側面
・リスク・コンプライアンスの実務者会議、グローバル定例会議を新たに開始	○	・グローバルリスクマネジメント体制の評価・見直し	・経済：間接的な経済影響 ・社会：腐敗防止
・グローバル企業秘密管理規程の制定 ・情報漏えい対策訓練の実施 ・サンシャイン法、透明性ガイドラインへの対応実施 ・国内試薬工場の設備の耐震化完了 ・BCP訓練および周知教育の実施	○	・グループの重要リスク(情報漏えい、公正な取引、事業継続)への対応継続 ・リスクアセスメントによる新たな重要リスクの選定と対策推進	
・公正な取引に関する苦情管理体制の再整備を実施 ・海外との契約内容に法令順守条項を付加	○	・法令順守条項付き契約の適用範囲の拡大	
・2014年度の外部専門家評価結果に基づき、海外グループ会社とコンプライアンスの改善策を立案・推進	○	・2015年度の外部専門家評価結果に基づく改善策の立案・実施	・社会：腐敗防止 ・社会：コンプライアンス ・社会：社会への影響に関する苦情処理制度
・新卒女性採用比率：シスメックス(株)37.8% ・女性管理職(課長級以上)比率：グループ14.3%、シスメックス(株)8.3% ・女性活躍推進法の行動計画策定 ・女性向けキャリア・働き方を考えるセミナー・交流会の実施	○	・女性の働きがい・活躍促進環境の整備(在宅勤務制度の試行、キャリア動機付け支援施策の実施等)	・労働慣行とディーセントワーク：雇用 ・労働慣行とディーセントワーク：研修および教育 ・労働慣行とディーセントワーク：多様性と機会均等
・外国籍社員採用比率：13.6%	○	・外国人材採用の継続(2015年度採用比率の継続)	
・マネジメント強化研修、英語スキル研修の体系的な取り組みを開始 ・若手中堅社員向け海外研修の継続実施	○	・グローバル人材育成プログラムの継続実施	
・男性従業員への育児休暇制度の啓蒙活動実施 ・福利厚生制度の紹介や手続きなどを掲載した社内ポータルサイトの充実 ・グループ従業員への企業風土調査を実施	○	・企業風土調査結果に基づく施策の立案・実施	・労働慣行とディーセントワーク：雇用
・物流CO ₂ 排出量は、輸送効率の向上により、対基準年48%(単体売上高原単位)削減 ・機器製品の新製品開発において、省電力、小型化の取り組みを継続 ・サービス依頼へのリモート対応および電話対応の能力向上を継続(車両出張サービスの低減)	○	・製品・サービスの温室効果ガス排出削減の継続推進	・環境：エネルギー ・環境：大気への放出 ・環境：製品およびサービス ・環境：輸送・移動
・生産効率の改善、電力監視システムの導入、再生可能エネルギーによる電力購入、太陽光発電の利用等により、温室効果ガス排出量は対基準年28%(連結売上高原単位)削減 ・廃棄物処理方法の見直しにより、廃棄物リサイクル率は93%に向上 ・水使用量は、試薬出荷量の増加により、対基準年121%(生産量原単位と未達)	△	・エネルギー・廃棄物・水資源使用の継続的低減	・環境：エネルギー ・環境：水 ・環境：大気への放出 ・環境：排水および廃棄物
・新規取引先候補へのCSR調査および評価の実施 ・サプライヤー説明会でのCSR調達の啓蒙	○	・取引先に対する紛争鉱物調査の実施	・環境：サプライヤーの環境評価 ・労働慣行とディーセントワーク：サプライヤーの労働慣行評価 ・人権：サプライヤーの人権評価 ・社会：サプライヤーの社会への影響評価
・日本および海外統括現地法人(中国除く)での顧客満足度調査を実施	○	・中国での顧客満足度調査の実施 ・2015年度に実施した顧客満足度調査結果に基づく対応実施	・製品責任：製品およびサービスのラベリング
・地域貢献活動の継続実施(シスメックスの森、みなと異人館の公開、神戸マラソン協賛、献血、地域清掃など) ・社会貢献ポイント制度への従業員参加率31%。社会貢献ポイント制度による126万円分の医療・食糧・教育への寄付実施	○	・社会貢献活動の継続実施 ・社会貢献ポイント制度の推進による従業員ボランティアの拡大	・社会：地域コミュニティ

※1「進捗状況」は、2015年度の計画に対する状況を示す。(○=計画通り △=一部未達)

※2 GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第4版」。

ステークホルダーとの対話実績

2015年度の主な対話実績

お客様との対話

- 地域担当役員によるお客様との意見交換を実施（シスメックス株式会社）
- 各地域で顧客満足度調査を実施（シスメックス株式会社と海外各地域のグループ会社）
- 学術セミナーを各地域で開催（シスメックス株式会社と海外各地域のグループ会社）
- お客様のフィードバックを取り入れたカスタマートレーニングプログラムを各地域で継続的に実施（シスメックス株式会社と海外各地域のグループ会社）
- 製品への正しい知識を伝えるユーザーグループミーティングを開催（シスメックス ベトナム、シスメックス マレーシア）



第38回学術セミナー

従業員との対話

- 全社員を対象とした自己申告制度により、海外勤務の希望の有無や職種の変更を含むキャリア設計に関する希望を調査し、人事ローテーションを行うための情報として活用（シスメックス株式会社）
- 多様な文化や価値観を持つ人々が集い、日常業務や立場を離れて議論を深め、ネットワークを広げる場として、兵庫県芦屋市の「グローバル コミュニケーション センター」を活用（シスメックス株式会社）
- 各事業所で人材開発体系に関する説明会や意見交換会を実施（シスメックス株式会社）
- 労働組合との団体交渉や、労働環境改善などについて議論する労使協議会を開催（シスメックス株式会社）
- 労働組合との対話を実施（済南シスメックス、シスメックス 無錫、シスメックス ベトナム、シスメックス タイランド、ハイフェンバイオメド）
- 従業員アンケートやインタビューを実施し意見を収集（シスメックス株式会社と海外各地域のグループ会社）



グローバル コミュニケーション センターでの研修風景

取引先との対話

- 国内取引先を対象とする「サプライヤー説明会」を開催し、CSR調達への理解を呼びかけ（シスメックス株式会社）
- 部品の品質保証に関する取引先向け説明会を開催（シスメックス株式会社）
- 体外診断用医療機器（IVD）へのRoHS適用対応について、「取引先への環境調査説明会」で説明（シスメックス株式会社）
- 代理店会議を開催し、シスメックスの事業計画などについて説明（シスメックス ロシア）
- ビジネスパートナー・ミーティングを開催（シスメックス アジア・パシフィック）



サプライヤー説明会

株主・投資家との対話

- 定時株主総会および株主懇談会を開催（シスメックス株式会社）
- 機関投資家・アナリスト向けの技術説明会を開催（シスメックス株式会社）
- 個人投資家向けの会社説明会を開催（シスメックス株式会社）



株主懇談会

地域住民との対話

- 研究開発拠点「テクノパーク」で地域交流イベントを開催（シスメックス株式会社）
- 「グローバル コミュニケーション センター」で内覧会を実施（シスメックス株式会社）
- 高校生向け理数系教育イベント「サイエンスフェアin兵庫」に参加（シスメックス株式会社）
- 世界各地での社会貢献活動を通じて地域住民との対話を実施（海外各地域のグループ会社）



テクノパークでの地域交流イベント

CSRデータ一覧

コンプライアンス関連

医療機関等への資金提供等に関する情報

米国 サンシャイン法

種類		2014年	2015年
金銭または金銭的価値のある物品	件数	450	444
	金額	US \$186,645	US \$195,638
研究	件数	8	3
	金額	US \$194,150	US \$27,065

フランス サンシャイン法

種類		2014年	2015年
金銭または金銭的価値のある物品	件数	365	226
	金額	€ 42,856	€ 14,367
契約	件数	3	4

フランスのサンシャイン法では、契約金額は公開対象ではありません。

▶ 国内については「医療機関等との関係の透明性確保」P35をご覧ください。

お客様関連

項目	2013年度	2014年度	2015年度	関連記事
シスメックス株式会社ものづくりトレーニングセンターでの教育受講者数（延べ人数）	709	942	1,031	P65
シスメックス株式会社カスタマーサポートセンターへのお問い合わせ（件）	97,085	95,767	95,929	P43
シスメックス株式会社カスタマーサポートセンターに対するお客様満足度※（％） ※ シスメックス株式会社による調査。	85.3	91.6	93.7	P50
米国のお客様満足度※（点/10点満点） ※ シスメックス アメリカによる調査。	9.1	9.1	9.1	P50
米国のお客様満足度※（点/10点満点） ※ IMV ServiceTrackによる調査。	8.95	9.18	9.09	P50

従業員関連（すべてシスメックス株式会社の実績数値）

項目		2013年度	2014年度	2015年度	関連記事
新卒採用	合計（名）	68	61	59	P67
	うち男性（名）	43	40	40	
	うち女性（名）	25	21	19	
	うち外国人（名）	7	12	12	
中途採用	合計（名）	42	69	70	P67
	うち男性（名）	31	47	50	
	うち女性（名）	11	22	20	
	うち外国人（名）	1	1	1	
離職※ ※ 正社員のみ、定年退職を除く。	離職者（名）	29	42	40	—
	離職率（%）	1.4	1.96	1.97	
障がい者雇用	雇用者数（名）	47	47	50	P68
	雇用率（%）	1.94	1.86	1.82	
定年退職者再雇用	希望者（名）	16	20	25	P68
	再雇用者（名）	16	20	25	
	再雇用率（%）	100	100	100	
育児・介護理由の退職者再雇用	新規登録者（名）	3	5	6	P71
	再雇用者（名）	0	1	1	
	再雇用率（%）	0	20	17	

正社員への登用実績	契約社員 (名)	6	15	17	P63
	派遣社員 (名)	3	4	2	
	合計 (名)	9	19	19	
労働災害	労災による 死亡 (名)	0	0	0	P75
	労災による けが (名)	2	3	7	
	労働災害 度数率	0.41	0.58	1.27	
	労働災害 強度率	0.00	0.00	0.07	
	延べ労働損失 日数 (日)	2	20	386	
	延べ実労働 時間数 (時間)	4,895,594.75	5,129,491.25	5,499,593.25	
有給休暇	付与日数 (日)	45,348	47,000	49,534	P69
	取得日数 (日)	22,335.5	22,255.5	27,605.5	
	取得率 (%)	49.3	47.4	55.7	
産前産後休職利用者	女性 (名)	29	48	39	
	男性 (名)	0	0	0	
育児休業利用者	女性 (名)	31	41	32	
	男性 (名)	1	3	2	
育児のための勤務時間短 縮制度利用者	女性 (名)	51	50	50	
	男性 (名)	0	0	0	
介護休業利用者	女性 (名)	2	1	1	
	男性 (名)	1	0	1	
育児休業からの復帰率	女性 (%)	100	100	100	
	男性 (%)	100	100	100	
積立有給休暇利用者 (名)		62	26	77	
フレックスタイム利用者 (名)		1,618	1,678	1,742	
社内託児所利用児童	年間延べ (名)	33	34	33	
	年度末時点 (名)	28	23	28	

研修実績 ※ 2013年度分より派遣社員・ アルバイト・役員などを除く。	従業員1人当たり費用 (円)	122,396	157,789	179,000	P64
	従業員1人当たり時間 (時間)	10.9	28.2	22.6	
	研修プログラム数 (個)	12	22	23	
インターンシップ生受け入れ人数	合計 (名)	29	124	157	P67
	うち外国人 (名)	6	3	5	

注) 定義の変更にともない、過去の開示データから一部修正しています。

項目		2013年度	2014年度	2015年度	関連記事
女性管理職比率 (課長級以上)	シスメックス株式会社 (%)	5.3	6.5	8.3	P68
	グループ全体 (%)	10.6	11.6	14.3	

項目	2015年度			
グループ男女比率	日本	男性 (%)	59.7	正社員、受入出向者、有期雇用 (派遣社員除く)
		女性 (%)	40.3	
	米州	男性 (%)	65.0	正社員、受入出向者、有期雇用、役員
		女性 (%)	35.0	
	EMEA	男性 (%)	55.5	正社員、受入出向者、有期雇用、役員
		女性 (%)	44.5	
	中国	男性 (%)	68.9	正社員、受入出向者、有期雇用、役員
		女性 (%)	31.1	
	アジア・パシフィック	男性 (%)	61.4	正社員、受入出向者、有期雇用、役員
		女性 (%)	38.6	

項目	2015年度			
グループ従業員数	日本	男性 (名)	1,993	正社員、受入出向者、有期雇用 (派遣社員除く)
		女性 (名)	1,346	
	米州	男性 (名)	669	正社員、受入出向者、有期雇用、役員
		女性 (名)	360	
	EMEA	男性 (名)	1,114	正社員、受入出向者、有期雇用、役員
		女性 (名)	892	

	中国	男性（名）	339	正社員、受入出向者、有期雇用、役員
		女性（名）	153	
	アジア・ パシフィック	男性（名）	356	正社員、受入出向者、有期雇用、役員
		女性（名）	224	

※ 欧州・中東・アフリカ地域。

社会貢献活動関連

項目	2015年度
社会貢献支出額（シスメックス株式会社）	約4億3,000万円

項目	2014年度～2015年度
世界がん研究基金への寄付額 （EMEA※の各グループ会社） ※ 欧州・中東・アフリカ地域。	約3,150万円

項目	2013年度	2014年度	2015年度	関連記事
がん関連団体への寄付額 （シスメックス アメリカ）（ドル）	約100,000	約79,000	約80,000	P81

環境保全活動関連（集計範囲については各関連記事に記載）

シスメックスグループ環境行動計画（シスメックス・エコビジョン2020）実績

項目	2013年度	2014年度	2015年度	関連記事
物流におけるCO ₂ 排出量 単体売上高原単位※（t-CO ₂ /億円）	5.348	4.170	3.794	P97
事業所での温室効果ガス排出量 連結売上高原単位（t-CO ₂ /億円）	7.98	7.28	7.26	P100
事業所のリサイクル率（%）	88.9	90.3	89.0	P100
試薬工場での水使用量 生産量原単位（m ³ /千箱）	22.0	21.4	25.9	P100

※ 物流におけるCO₂排出量単体売上高原単位については原単位の見直しにともない、昨年度の報告数値から一部修正しています。

社外からのCSR評価

CSR関連インデックスなどへの組み入れ

世界的なサステナビリティインデックスに選定

財務的な視点に加え、環境・社会・ガバナンス（ESG）の非財務の視点から企業の持続可能性（サステナビリティ）を評価し、長期的視点で投資を行う責任投資が拡大しています。その責任投資の指標として、世界では様々なサステナビリティインデックスが利用されています。シスメックス株式会社は持続可能性が高い企業として、多くのサステナビリティに関連するインデックスに選定されています。

- Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index^{※1}（2012年度より）
- FTSE4Good Index^{※2}（2008年度より）
- MSCI Global Sustainability Index^{※3}（2011年度より）
- MSCI Global Socially Responsible Indexes^{※3}（2013年度より）
- Ethibel Excellence^{※4}（2011年度より）
- Ethibel Pioneer^{※5}（2014年度より）
- Ethibel Sustainability Index（ESI）^{※6}（2015年度より）
- Global 100（世界で最も持続可能な100社）^{※7}（2015年度2回目）

※1 米国のS&P Dow Jones Indices社とスイスのRobeco SAM社が共同開発した「Dow Jones Sustainability Indexes」のアジア・パシフィック版

※2 英国のFTSE社が開発したインデックス

※3 米国のMSCI社（モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社）が開発したインデックス

※4 ベルギーの非営利団体Forum Ethibelが開発したインデックス

※5 Ethibel Excellenceに選ばれた企業の中から、さらに優れた企業のみが組み入れられるインデックス

※6 Ethibel Excellenceの組み入れ企業から構成されるインデックス

※7 カナダのコロポレート・ナイツ社が選出する、持続可能性の高い企業上位100社。世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）にあわせて毎年発表される。

MEMBER OF
**Dow Jones
Sustainability Indices**

In Collaboration with RobecoSAM



FTSE4Good



MSCI



2016 Constituent
MSCI Global
Sustainability Indexes

外部からの評価、表彰

外部からの評価、表彰

2016年

- 5月 ● Confirmit社「ACE-Award」(Voice of Customer部門、Contact Center部門)を受賞(シスメックス アメリカ)
- 3月 ● 働きがいのある会社「Great Place to Work」に選定(シスメックス ヨーロッパ)
- 3月 ● 「Companies That Care Honor Roll[※] 2016」に選出(シスメックス アメリカ)
[※] 従業員とその家族、地域社会の幸福に寄与している企業を選出する企業ランキング。NPO「Center for Companies That Care」の調査による

2015年

- 12月 ● 台湾FDAが法制化を進めるIVD(体外診断用医薬品)業界における「Good Distribution Practice(GDP)[※]」の体制整備の取り組みが模範であるとして表彰(シスメックス 台湾)
[※] 製造業者で生産され、流通・保管を通して顧客に届けられる医薬品が、生産されたときの品質(有効性・安全性)を維持し続けることを保証し、また盗難、事故を避け、偽薬や改竄された製品が供給ルート中で混入することを防止するため規範。
- 11月 ● 日本IR協議会 第20回「IR優良企業大賞」を受賞
- 10月 ● 日本証券アナリスト協会「「ディスクロージャー優良企業」および「個人投資家向け情報提供における優良企業」に選定
- 10月 ● 近畿地方発明表彰において特許庁長官奨励賞(1件)と発明奨励賞(3件)を受賞
- 10月 ● アイスクエアが、加古川市「景観まちづくり賞」デザイン部門で表彰
- 10月 ● 日経「人を活かす会社」ランキング 総合24位/454社
- 8月 ● 米国「2014ビジョン・アワード」のヘルスケア(機器)部門において「アニュアルレポート2014」がゴールド賞を受賞
- 7月 ● アジアの働きやすい会社「HR Asia Best Companies to Work for in Asia 2015」に選定(シスメックス アジア・パシフィック)
- 6月 ● 「血液凝固分析装置」と「作業手順表示方法および作業手順表示システム」が平成27年度兵庫県発明賞を受賞
- 5月 ● Confirmit社「ACE-Award」を受賞(シスメックス アメリカ)
- 4月 ● 働きがいのある会社「Great Place to Work Brazil」に選定(シスメックス ブラジル)
- 3月 ● 第18回環境コミュニケーション大賞において「シスメックスあんしんレポート2014」が優良賞を受賞
- 3月 ● 東洋経済『新入社員に優しい「ホワイト企業」トップ300』1位に選出
- 3月 ● 「Companies That Care Honor Roll 2015」に選出(シスメックス アメリカ)

2014年

- 12月 ● 日経「NICES」総合ランキング73位/538社
- 10月 ● 近畿地方発明表彰において文部科学大臣発明奨励賞（1件）と発明奨励賞（3件）を受賞
- 10月 ● 日経「人を活かす会社」ランキング総合30位/439社
- 10月 ● 日本証券アナリスト協会「個人投資家向け情報提供における優良企業」に選定
- 8月 ● 「自動血球計数装置CC-1001」が「第3回分析機器・科学機器遺産」に認定
- 7月 ● 「市民の健康増進・栄養改善思想の向上に寄与」したとして神戸市より表彰
- 6月 ● 「直接核酸増幅法の発明」と「液体吸引監視方法」が平成26年度兵庫県発明賞を受賞
- 5月 ● Confermit社「ACE-Award」を受賞（シスメックス アメリカ）
- 4月 ● 「尿中有形成成分分析方法の開発」が平成26年度文部科学大臣表彰の科学技術賞（開発部門）を受賞
- 4月 ● バディ工場が地元の環境表彰で1位を受賞（シスメックス インド）
- 3月 ● 「Companies That Care Honor Roll 2014」に選出（シスメックス アメリカ）
- 3月 ● 働きがいのある会社「Great Place to Work」 50位/100社（シスメックス ヨーロッパ）

2013年

- 12月 ● 多項目自動血球分析装置XN-2000とXN用診断薬が、ドイツのデザイン賞「German Design Award」（The German Design Council主催）を受賞
- 11月 ● 近畿地方発明表彰において兵庫県発明協会会長賞（1件）と発明奨励賞（3件）を受賞
- 11月 ● シカゴトリビューン紙が地域の優れた職場を表彰する「Top Workplaces」の1社に選定（シスメックス アメリカ）
- 10月 ● 日本証券アナリスト協会「個人投資家向け情報提供における優良企業」に選定
- 10月 ● 健康モニタリング装置「ASTRIM FIT」が日本デザイン振興会主催のグッドデザイン賞を受賞
- 7月 ● オンラインネットワークサポートサービスSNCS（Sysmex Network Communication Systems）が日経コンピュータ（日経BP社）主催の「IT Japan Award 2013」のグランプリ賞を受賞
- 6月 ● 「検体分析装置」と「白血球分類計数方法及び白血球分類計数キット」が兵庫県発明賞を受賞
- 5月 ● Confermit社「ACE-Award」を受賞（シスメックス アメリカ）
- 4月 ● 「多項目自動血球分析装置における粒子分類計数方法の開発」が平成25年度文部科学大臣表彰の科学技術賞（開発部門）を受賞
- 3月 ● 「Companies That Care Honor Roll 2013」に選出（シスメックス アメリカ）
- 1月 ● 多項目自動血球分析装置XN-2000とXN用診断薬がドイツのデザイン賞「iF product design award 2013」（International Forum Design GmbH主催）を受賞

2012年

- 11月 ● 近畿地方発明表彰において日本弁理士会会長奨励賞（1件）、発明奨励賞（3件）を受賞
- 10月 ● 日本証券アナリスト協会「個人投資家向け情報提供における優良企業」に選定
- 10月 ● 高い従業員満足度が評価され、「2012 Best Places to Work in Healthcare[※]」に選出（シスメックス アメリカ）
[※] Best Places to Work in Healthcare: 医療業界から従業員にとって働きがいのある会社を選出・表彰する企業ランキング。業界誌「Modern Healthcare」の調査による
- 8月 ● シスメックスアニュアルレポート2011がアニュアルレポートコンテスト「第26回International ARC Awards」（米国MerComm社主催）で「Bronze 賞」（ヘルスケア・テクノロジー部門）を受賞
- 8月 ● 売上の急成長が評価され、「Healthcare's Hottest Award[※]」に選出（シスメックス アメリカ）
[※] Healthcare's Hottest Award: 医療業界において、2000万ドル以上の年間売上と、継続した成長がある企業が選出される。業界誌「Modern Healthcare」の調査による
- 5月 ● 神戸商工会議所での取り組みや地域産業の活性化に貢献されたとして兵庫県功労者表彰（産業振興功労）を受賞
- 5月 ● 「自動分析装置の分注ピペット洗浄方法」と「自動標本作製装置」が兵庫県発明賞を受賞
- 3月 ● 働きがいのある会社「Great Place to Work」に選定（シスメックス ヨーロッパ）
- 3月 ● 「Companies That Care Honor Roll 2012」に選出（シスメックス アメリカ）
- 2月 ● サービス品質の高さが評価され、「Achievement in Customer Excellence Award[※]」を受賞（シスメックス アメリカ）
[※] 米国MarketTools社による、顧客、従業員、およびパートナー満足について優れた実績を認定するプログラム
- 1月 ● Global 100（世界で最も持続可能な100社）に選出

2011年

- 12月 ● 「2011 Best Places to Work in Healthcare」に選出（シスメックス アメリカ）
- 11月 ● シスメックスの新たなデザインコンセプト「サイレントデザインR」を適用した臨床検査システムが高く評価され、「2011年度グッドデザイン金賞」を受賞
- 8月 ● 「抗ヒトミトコンドリアCK 活性阻害抗体を用いたCK-MB 活性測定試薬『エルシステム・CK-MB』の概要」という内容で、日本臨床化学会から学会賞（技術賞）を受賞
- 5月 ● 白血球分類計数方法および試薬に関する技術が、平成23年度全国発明表彰「発明賞」を受賞
- 3月 ● 機器生産における取り組みが、社団法人兵庫工業会が主催する「第3回ひょうごものづくり技術大賞」の「兵庫県知事賞」を受賞
- 3月 ● 「Companies That Care Honor Roll 2011」に選出（シスメックス アメリカ）
- 2月 ● シスメックステクノパークR&DタワーがCASBEE建築賞（第1回神戸市都市デザイン賞CASBEE建築部門）を受賞
- 1月 ● 日経アニュアルリポートアワード2010（日本経済新聞社主催）にて、当社リポートが「構成・デザインともきれいに仕上がったバランスのとれたリポート」として評価していただき、「入賞」を受賞

2010年

- 11月 ● 近畿地方発明表彰において特許庁長官奨励賞（1件）、発明奨励賞（3件）を受賞
- 11月 ● OSNA法がスペインで「Best Ideas in healthcare 2010[※]」（Diario Médico主催）を受賞
[※] 医療専門の日刊紙Diario Medicoが2002年から実施している賞で、医療に関する優れた取り組み・製品・プロジェクトに与えられる。2010年には、506のアイデアの中からシスメックスのOSNA法が「研究・薬理学」領域における「Best Ideas in healthcare 2010」に選ばれた
- 10月 ● 知財功労賞経済産業大臣表彰を受賞
- 10月 ● 神戸市環境功労賞を受賞
- 8月 ● シスメックスアニュアルレポート2009が「2009ビジョン・アワード」ヘルスケア部門ゴールド賞を受賞
- 7月 ● 全国発明表彰において発明賞を受賞
- 4月 ● 兵庫県発明賞を受賞
- 3月 ● 「Companies That Care Honor Roll 2010」に選出（シスメックス アメリカ）
- 2月 ● 「食品廃棄物によるたい肥製造」の取り組みが、「ひょうごバイオマスecoモデル[※]」として認定（兵庫県主催）
[※] 兵庫県下でバイオマスを先導的に利用している取り組みが認定される

2009年

- 10月 ● 研究開発拠点テクノパークが「緑の都市賞[※]」において奨励賞を受賞（財団法人都市緑化基金主催）
[※] 緑豊かな都市づくり・街づくりを目指し、樹木や花などの「みどり」を用いた環境の改善などに成果を上げている企業などが表彰される
- 9月 ● 研究開発拠点テクノパークが「日経ニューオフィス賞[※]」において推進賞を受賞
[※] 創意と工夫にあふれ、快適かつ機能的、また感性を刺激し創造性を高めるオフィスが表彰される
- 9月 ● 外部精度管理調査サポート活動などが評価され、モンゴル国厚生省から名誉表彰を受章
- 4月 ● IRサイトが大和インベスターリレーションズ「インターネットIRサイトの優秀企業580社」に選定
- 3月 ● IRサイトがゴメス「IRサイト総合ランキング」で優良企業賞を受賞
- 3月 ● 「Companies That Care Honor Roll 2009」に選出（シスメックス アメリカ）

2008年

- 12月 ● 研究開発拠点テクノパークが神戸市CASBEE[※]で初めての最高Sクラスの評価
[※] CASBEE: 地球環境をはじめ、耐震性、バリアフリー、景観などに配慮した建物に対して評価する制度（建築物総合環境性能評価制度）
- 11月 ● 平成20年度近畿地方発明表彰にて「特許庁長官奨励賞」1件と「発明奨励賞」3件を受賞（財団法人発明協会主催）
- 10月 ● 「平成20年度こうべ男女いきいき事業所表彰」を受賞（神戸市主催）
- 3月 ● あんしんレポート2007が「環境コミュニケーション大賞」にて奨励賞を受賞（環境省主催）

2007年

- 12月 ● アニュアルレポートが「日経アニュアルリポートアワード2007」にて特別賞を受賞
- 11月 ● 平成19年度近畿地方発明表彰にて「支部長賞」1件と「発明奨励賞」2件を受賞（財団法人発明協会主催）
- 4月 ● 「血液中の幼若細胞測定用試薬に関する技術」が、平成19年度文部科学大臣表彰を受賞（文部科学省主催）

コンプライアンスの取り組み

コンプライアンス体制

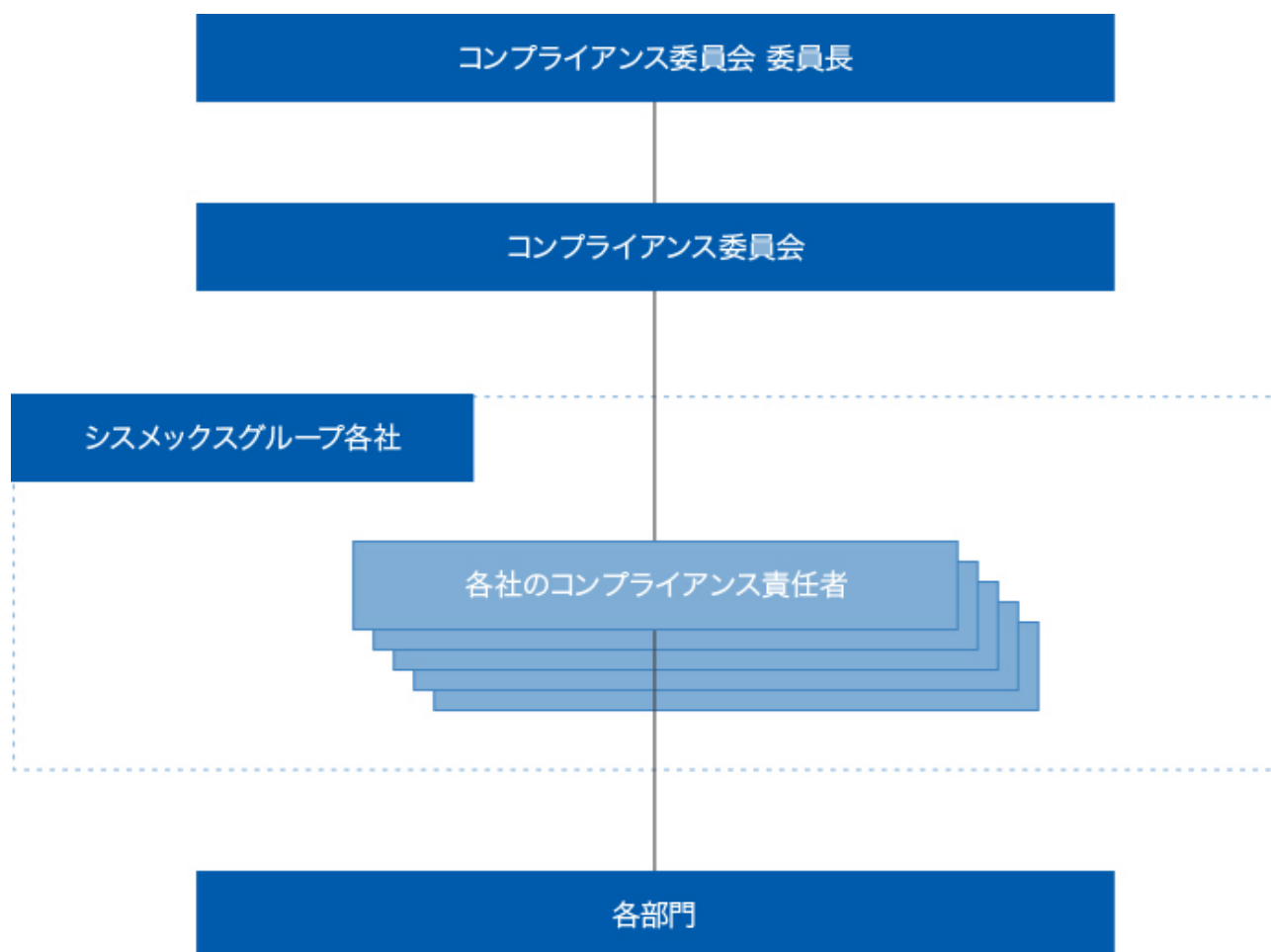
「正々堂々とした事業活動」を追求

シスメックスは、グループ企業理念である「Sysmex Way」に基づき、コンプライアンスを「法令遵守とともに高い倫理観にもとづいた正々堂々とした事業活動を行うこと」と定義し、グループの全役員・従業員が遵守すべき特に重要なルールや行動のガイドラインをまとめた「グローバルコンプライアンスコード」を制定しています。

社内外の環境変化などに対応するため、原則として2年に一度見直しを行うことを附則に明記しています。

なお、グローバルコンプライアンスコードの「2. 公正な取引と自由な競争の促進」は、マーケティングにおけるグローバルな倫理コードに該当します。さらに、日本におけるプロモーション活動については、より詳細かつ具体的な規則を定めた「シスメックスプロモーションコード」も制定しています。

コンプライアンス体制



グローバルコンプライアンスコード

1. お客様への安全と安心の提供

私たちは、全ての企業活動において、お客様への安全と安心の提供を優先して行動します。

2. 公正な取引と自由な競争の推進

私たちは、公正で自由な競争の推進に関する各国・地域の法令等を遵守し、お客様をはじめとした全ての取引先と公平かつ公正に接し、適切な条件で取引を行います。また、同業他社との関係においては、相互間での不当な取引制限や相手を貶める不正な行為を行いません。

3. 公平・適正な情報開示と情報管理の徹底

私たちは、グループの経営状況や事業活動などの企業情報を、各国・地域の関連する法令等に従い、公平、迅速、正確に、かつわかりやすく開示するとともに、事業活動を通じて収集された営業秘密は、第三者に不利益を与えることのないように厳重に管理します。

4. 適正な研究開発活動の実施

私たちは、研究開発を行うにあたっては、被験者の尊厳及び人権を守るとともに、遺伝子や他の研究におけるプライバシーを保護し、各国・地域の関連する法令等を遵守するとともに高い倫理観をもって活動を行います。

5. 知的財産権の尊重

私たちは、自社の知的財産権と同様に第三者の知的財産権を尊重し、不正な方法で第三者の成果や営業秘密を入手したり、自らの業務に利用したりいたしません。

6. 国際的な平和と安全の維持

私たちは、各国・地域の輸出関連法令等を遵守し、国際的な平和と安全の維持を阻害する恐れのある取引には関与しません。

7. 適正な会計処理と納税の実施

私たちは、租税に関連する法令その他各国・地域の経理関連法令等を遵守し、常に適切な税務処理と適正な会計処理を行います。

8. 人権の尊重と安全・衛生の向上

私たちは、世界人権宣言、ILO中核的労働基準等の人権に関する国際基準を支持し、一人ひとりの基本的人権を尊重し、差別や嫌がらせ等の行為を行いません。また、各国・地域の労働関連法令等を遵守し、職場の安全・衛生に努めるとともに、不当な労働を強制しません。

9. 公私のけじめと利益相反行為の禁止

私たちは、職務遂行において自己の利益を図ることはもちろん、グループの資産や物品ならびに情報などの不正利用や、グループの事業活動に不利益を及ぼす個人的な行為を行いません。

10. 社会との健全な関係の保持

私たちは、贈収賄禁止に関連する各国・地域の法令等を遵守するとともに、政治献金を行う際は、関連法令等を遵守し厳正に対応します。また、反社会的な活動や勢力に対しては毅然とした態度で臨み、一切関係を持ちません。

11. 地球環境の保護

私たちは、環境関連法令等を遵守するとともに、各国・地域の環境に関する国際基準等にもとづき、事業活動全般において環境に配慮した取り組みを行い、地球環境の保護と向上に努めます。

2014年5月改定

グループのコンプライアンス推進体制と運用状況について外部機関による評価を実施

社会情勢や各種の法規制を踏まえて、コンプライアンスに関する取り組みや規程の妥当性を確かめ、必要に応じて内容の見直しなどを行っています。2014年度には、コンプライアンス推進体制の強化を目的として、取り組みの基本となる「グローバルコンプライアンス規程」を改訂しました。また、グループのコンプライアンス推進体制と運用状況について、外部機関による評価を実施しました。

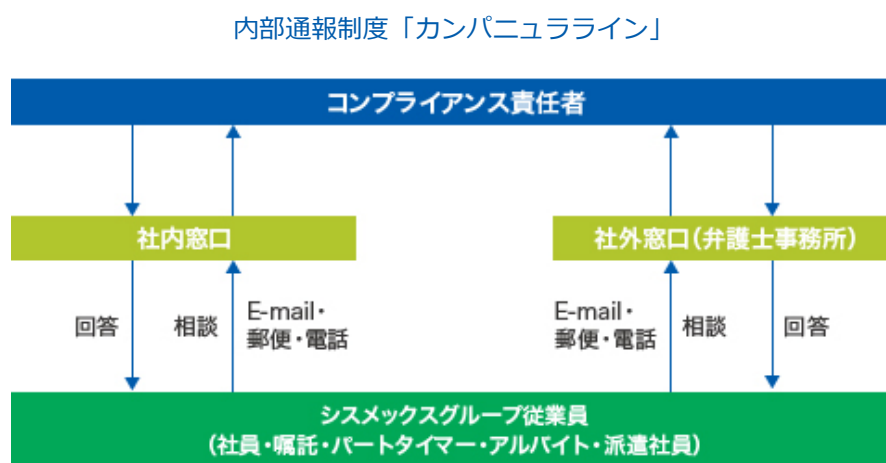
この結果をもとに2015年度は、主として海外グループ会社の内部通報制度の改善・拡充を行いました。今後も外部機関による評価を実施し、改善を行っていきます。

内部通報制度を設置

コンプライアンス上の問題があれば原則として職制で解決することとしています。職制での解決が難しい場合は「カンパニユライン」を利用し、早期に解決を図るようにしています。「カンパニユライン」では、社内・社外の2つの窓口で、電子メール、郵便、電話による相談や通報を受け付けています。

寄せられた情報は匿名で取り扱い、相談・通報者が不利益を受けないよう保護しています。また、海外グループ会社でも内部通報制度を設置しています。

なお、国内グループ会社において、2015年度は12件の相談が寄せられました。それぞれの相談案件に対し、事実調査を行った上で適切に対処しました。



コンプライアンス教育

コンプライアンス教育を継続して実施

グループ各社にコンプライアンス責任者を設置し、コンプライアンス教育を実施しています。国内グループ会社では、入社した従業員に「コンプライアンスハンドブック」を配付し、全従業員への周知・浸透を図っています。国内グループ会社では、定期的なコンプライアンス教育に加え、毎年重点テーマを設定し、各テーマに関連する部門に対して教育を実施しています。2015年度は、「マイナンバー制度」や「医療機関等との関係の透明性確保」などに関する教育を実施しました。また、グローバルコンプライアンスコードについては、理解促進を図るべく新たに動画教材を作成し、社内教育の場で利用しています。

一方、海外グループ会社については、各国の状況に合わせてコンプライアンス教育を実施しています。2015年度は、日本語・英語で作成した競争法に関する教材を用いて、各社において教育を実施しました。

2015年度の主なコンプライアンス教育実績（国内）

- 「マイナンバー制度」関連：eラーニングを実施
- 「医療機関等との関係の透明性確保」関連：透明性ガイドラインに関するeラーニングを実施
- 「公正な取引推進」関連：下請法に関するeラーニングを実施
- 「グローバルコンプライアンスコード」関連：すべての入社者に導入教育として実施
- 「派遣社員の業務遂行」関連：部門責任者および派遣社員への指揮命令者を対象に実施

2015年度の主なコンプライアンス教育実績（海外）

- 競争法、反贈収賄、サンシャイン法、コンプライアンス全般

欧州の環境関連法規制に関する勉強会を開催

グローバルにコンプライアンスを推進していくためには、製品の販売先である海外各国の法規制について知ること重要です。

シスメックスでは、2015年6月、欧州の環境関連法規制に関する勉強会を実施しました。開発部門、調達部門などから80名以上が参加。RoHS指令やREACH規則などの法的要求事項と当社の取り組みについての講話を聴講したあと、質疑応答で活発に意見を交わしました。



勉強会の様子

安全保障貿易

安全保障貿易の管理体制を整備

シスメックスは、社内管理規程を制定し、管轄官庁である経済産業省に承認登録されています。さらにコンプライアンス委員会の下部組織として安全保障貿易管理委員会を設け、その社内管理規程に基づいた、貿易管理の強化と輸出先や貿易貨物・技術の使用用途の確認を徹底しています。

講習会やeラーニングを実施することで、安全保障貿易ならびに米国再輸出規制に対する意識向上を図り、さらに監査を実施し、管理を徹底しています。また、グループ全体の安全保障管理体制を強化するために、海外の統括現地法人にERPシステム（統合基幹業務システム）と連携する管理システムを導入し、管理の徹底と効率化を推進しています。

第1回グローバルSTC（安全保障貿易管理）会議を開催

近年、シスメックスでは、海外の拠点間で製品の輸出を行う機会が増えており、複雑化する物流に対応できる安全保障貿易体制の再構築が求められています。そこで2015年10月、本社と海外現地法人の安全保障貿易管理の責任者・担当者がドイツのハンブルクに集合し、「第1回グローバルSTC（安全保障貿易管理）会議」を開催しました。

会議では各地域の取り組みや課題について情報交換・ディスカッションを行い、地域ごとに、今後の改善計画を立案しました。今後もこのような取り組みを継続し、貿易管理の徹底と効率化を推進していきます。



会議の様子

該非判定実務者研修を実施

輸出する貨物や技術が、輸出貿易管理令および外国為替令で規制されているものかどうかを判断する「該非判定」は、安全保障貿易管理の基本といえるプロセスです。シスメックスでは毎年、担当者を集めて、該非判定に関する研修を実施しています。

2015年度は、これまで年に1回としていた開催回数を2回に増やし、8月と1月に研修を実施しました。研修では、2015年度に新しく導入した該非判定システムの使用上の注意事項の説明や、機器・試薬・ソフトウェアそれぞれの判定時に気をつけるべきポイントや間違い事例の紹介、日頃の該非判定業務での疑問を解消する分野別Q&A会などを実施しました。



研修の様子

知的財産管理

知的財産権の尊重

シスメックスは、自社の知的財産権と同様に第三者の知的財産権を尊重しています。

自社の知的財産を確保するための出願活動や第三者の知的財産権に対する対応について、新製品の開発プロジェクトごとに、知的財産部門、研究開発部門、事業企画部門などのメンバーがパテントレビューを実施し、審議しています。この活動を通じて、保護すべき自社権利が確実に確保できること、また、尊重すべき第三者の知的財産権に対して適切な対応が取れていることを確認しています。

研究倫理

適正な研究開発活動の実施

シスメックスは、臨床研究開発やヒトゲノム・遺伝子の解析研究に取り組む企業として、「人間の尊厳の尊重」「個人情報の保護の徹底」などを基本方針とする「臨床研究開発及びヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理規程」を定め、法律・科学の専門家などの社外委員をメンバーに含む「研究倫理審査委員会」を設置し、研究内容を審査しています。委員名簿や審査結果は当社ウェブサイトで公開し、透明性を確保しています。

また、動物実験および遺伝子組換え実験に関しても、「実験管理委員会」を設置し、実験計画が関連法規制に準拠しているかを厳格に審議しています。

贈収賄の防止

国内外の関係法令の遵守を推進

シスメックスは、グローバル・コンパクトの10原則の1つである「10. 企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである」に基づき、腐敗防止の実践に努めています。

国内の関係法令だけでなく、米国や英国、中国などの主要国の法令に関する解説書を作成し、周知啓発活動を行っています。また、世界的な腐敗行為撲滅への機運が高まり、贈収賄禁止に関する各国の法整備・執行強化が進むなかで、「グローバル贈収賄防止規程」を2016年4月に制定しました。この規程は、贈収賄防止を実践するためのグループの基本ルールとして、国内外の全てのグループ会社を適用対象としています。

税の透明性

適切な納税を実施し、情報を開示

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコードにおいて「7. 適切な会計処理と納税の実施」について定めています。また、海外のグループ会社間取引価格については、国際的なコンセンサスであるOECDガイドラインなどに従って算定しています。

有価証券報告書などにおいて、グループとしての法人税の納税額を開示するとともに、法定実効税率との差異要因についても開示しています。

グローバルコンプライアンスコード（抜粋）

7. 適正な会計処理と納税の実施

私たちは、租税に関連する法令その他各国・地域の経理関連法令等を遵守し、常に適切な税務処理と適正な会計処理を行います。

7-1 適切な税務処理

国内外の租税や外国為替関連法令等を遵守し、常にその正しい理解に努め、適切な税務処理を行わなければならない。

7-2 適正な会計処理

売上計上や経費の支出等の会計処理は、関連法令や社内規定を遵守して適正に行わなければならない。また、伝票や帳簿その他の会計記録は正確に記載し、虚偽や偽装などの不正な処理を行ってはならない。

7-3 公正・透明な財務諸表の作成

財務諸表は、会社法ならびに関連する法令等を遵守し、公正かつ透明に作成しなければならず、決して粉飾決算等の不正な行為を行ってはならない。

医療機関等との関係の透明性確保

はじめに

シスメックスは、「ヘルスケアの進化をデザインする。」をグループ企業理念に掲げ、お客様をはじめとする、さまざまなステークホルダーの皆様へ安心をお届けすることを目指して事業活動に取り組んでいます。当社では、研究開発から生産、販売、サービス&サポートに至るまでのすべての段階で、医療機関・医療関係者の皆様と連携する機会が増えており、私たちの事業活動が高い倫理観に基づいて行われていることを、広く社会からご理解をいただくことが重要であると考えています。

日本国内の対応

2012年に、一般社団法人日本臨床検査薬協会において企業活動と医療機関等との関係の透明性を確保するためのガイドラインが制定されましたので、会員企業であるシスメックス株式会社、シスメックス国際試薬株式会社もその趣旨に賛同し、医療機関等への資金提供等に関する情報を公開していきます。

公開方法

当社 ウェブサイト等を通じて、各年度の関連情報について公開します。

公開対象

一般社団法人日本臨床検査薬協会「企業活動と医療機関等との関係の透明性ガイドライン」に基づきます。

海外の対応

米国・フランスでは、企業に対し医療機関等との関係の透明性確保を求める法律（サンシャイン法）が制定されました。シスメックスでは、対象となる医療機関等への資金提供等に関する情報を米国・フランス当局に報告・公開しています。

公開方法

米国・フランス当局のウェブサイトで各年度分の関連情報について公開しています。

※当社ウェブサイトにも当局サイトで公開されている情報を公開します。

公開対象

米国

以下相手先に対しての資金提供等（金銭または金銭的価値のある物品および研究）

- ・米国の医師
- ・米国の教育研究病院、医大附属病院

フランス

以下相手先に対しての資金提供等（金銭または金銭的価値のある物品および契約）

- ・フランスの医師、医療専門家、医学生
- ・フランスの医療関連法人（教育機関、企業等）

リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

委員会を設置してリスクマネジメントを推進

グループ全体のリスクマネジメント活動を統括する組織として、最高責任者「リスクマネジメントオフィサー（RMオフィサー）」を委員長とする「リスクマネジメント委員会」（RM委員会）を設置しています。RMオフィサーはシスメックス株式会社の専務執行役員が務めており、RM委員会においてグループとして事業に与える影響が大きい重要リスクの特定や、各部門・関係会社が実施したリスク対策・モニタリング結果を継続して監視しています。

通常のリスクマネジメントに関してはRM委員会以外の各委員会および部門・関係会社が自律的に業務リスクに対応し、RM委員会ではグループの重要リスクに対応するよう、責任と役割を明確にしておき、迅速かつ確実にリスク対応が行われるリスクマネジメント体制になっています。

災害対策

緊急時に迅速に対応できる体制を構築

シスメックスでは、災害などの危機発生時における社会的責任の遂行と安定的な製品供給やサービスの提供を実現するために、生産、調達などの機能ごとに事業継続計画（BCP）を策定しています。また、災害対応に関する規程を制定し、緊急時に迅速に対応できる体制を整えています。

緊急連絡手段としてシスメックス株式会社で導入している「安否確認ツール」を国内関係会社にも導入し、グループ間での安否確認を迅速に行える体制も整えています。国内グループ間の各事業所にはデジタル無線機を設置し、通信途絶の際にも連絡が取れる仕組みを整えています。2015年度には、大規模地震に備え、南海トラフ地震を想定した安否確認訓練や、事業継続訓練として模擬訓練やワークショップをグループ全体で実施し、事業継続計画の実効性向上を図りました。

シスメックス株式会社が運用するグループのIT基幹システムについては、災害などに強い社外データセンターに配置するとともに、万一、災害等の発生時に通常稼働しているシステムがダウンした場合でも、速やかにバックアップシステムへ処理を移行できるように、ITシステム基盤を構築しています。

意識向上とルールの実用定着を目的とする研修を継続的に実施

シスメックスでは、お客様や研究開発などの実験に協力いただいた方々からお預かりしている情報など、重要な企業秘密を保持していることから、企業秘密の漏えいをグループにとって重要なリスクの一つとみなし、その顕在化防止に取り組んでいます。

そのため、シスメックス株式会社と国内関係会社では、本部長以下の全従業員を対象として、情報管理の重要性に対する意識向上と企業秘密管理ルールの実用定着を目的とする研修を継続的に実施しています。2015年度には、企業秘密管理に関するeラーニングを実施したほか、マイナンバーに関するeラーニングを国内グループ全体で行いました。

ステークホルダーとの関わり



> お客様との関わり

常にお客様の視点で行動し、確かな品質ときめ細やかなサポートにより、お客様に安心を届けます。常にお客様が真に求めるものが何かを追求し、お客様の期待を超える新しい価値を提案します。



> 取引先との関わり

公平・公正を基本とした幅広い取引により、取引先の皆様に安心を届けます。相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業をめざします。



> 株主様との関わり

経営の健全性と透明性を高め、積極的な情報開示とコミュニケーションで、株主の皆様に安心を届けます。堅実かつ革新的な経営を推進し、持続的な成長と株主価値の向上に努めます。



> 従業員との関わり

多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にするとともに、安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。

ステークホルダーとの関わり

お客様との関わり

行動基準

常にお客様の視点で行動し、確かな品質ときめ細やかなサポートにより、お客様に安心を届けます。常にお客様が真に求めるものが何かを追求し、お客様の期待を超える新しい価値を提案します。



> 品質・安全性の確保

グローバルなマネジメント体制を構築し、製品・サービスの品質・安全性の確保に取り組んでいます。

> サービス&サポート/学術活動

きめ細やかなサービス&サポートを提供するとともに充実した学術情報を発信し、お客様の業務効率向上を支援しています。

> 安定的な供給

グローバルな検査ニーズの高まりにお応えしていくために、検査機器・試薬の供給体制強化を推進しています。

> お客様満足度・社外評価の向上

お客様満足度調査を実施し、収集したお客様のご意見・ご要望を製品・サービスの開発・改善に活かしています。

> 医療課題解決への貢献

先進の技術をベースとして革新的な製品やサービスを生み出し、さまざまな医療課題の解決に貢献しています。

品質・安全性の確保

品質の確保

品質方針

私たちは、ヘルスケア分野でのグローバルな企業活動を通じて、
豊かな健康社会づくりに貢献します。

行動基準

1. お客様のニーズを把握し、お客様の期待を超える製品やソリューションを提供します。
2. 品質とは顧客満足であるという認識のもと、お客様の立場に立って行動します。
3. お客様に安心していただくために、徹底した品質保証とあらゆる業務における質の向上に努めます。
4. 独創的な新しい技術とナレッジによって、新たな価値を創り続けます。
5. 使用される国または地域の法令、規格等を遵守し、安全な製品を提供します。
6. 品質マネジメントシステムの有効性を維持するとともに継続的な改善を図ります。
7. 品質方針から品質目標を設定し、目標達成に向けて計画的に取り組めます。

2007年5月改定

グローバルな品質マネジメントシステム

シスメックスでは、「品質方針」「行動基準」および「シスメックスコーポレーション品質コンプライアンス方針」に基づき、国際的な法令、規格などを遵守するための体制を整備し、活動しています。

品質マネジメントシステムについては、開発・生産機能を持つほぼすべてのグループ会社で国際規格ISO9001またはISO13485^{※1}に則ったマネジメントシステムを構築しており、グループ全64社中、ISO9001は31社、ISO13485は19社が認証を取得しています。これらのマネジメントシステムが確実に運用されていることを確認するために主要なグループ会社の品質活動についてマネジメントレビューや品質監査を実施しています。

教育については、全従業員を対象とした品質方針教育に加えて、特定の部門・職種を対象とした専門的な品質教育も実施しています。2015年度は、品質苦情処理に関する教育や、中国で適用される法規制に関する教育などを実施しました。



品質教育



グローバルRAQA会議でのセッション

さらに、グループ全体で品質に関する情報を共有し、体制を強化するために、毎年1回、シスメックス株式会社と、米州、EMEA※2、中国、アジア・パシフィックの各統括現地法人や関係会社から品質関連部門の担当者が参加する「グローバルRAQA（レギュラトリーアフェアズ・クオリティアシュアランス）会議」を開催しています。2015年度の会議は9月に日本で実施し、各地域の統括現地法人および海外関連会社の薬事部門、品質保証部門のメンバーが参加しました。会議では、社長からも「品質の重要性」について語られ、参加者の意識を上げることができました。

※1 医療機器産業向けの品質マネジメントシステム規格。

※2 欧州、中東、アフリカ地域。

製品品質を維持・向上するためのしくみを強化

臨床検査で用いられるシスメックスの製品は、人々の生命と健康を守るうえで極めて重要な役割を果たしています。そのため、製品の設計・開発段階において、世界各国の安全規格を満たすことはもちろん、さまざまなしくみを構築して、製品品質の維持・向上を図っています。

製品の開発においては、市場に導入するまでのプロセスにおいて5つの「クオリティ・ゲート」を設けて品質を確認しています。このほか、シスメックスが販売する他社製品についても製造業者への監査や製品の検査を実施し、品質確保に努めています。こうした取り組みに加えて、万一不具合などがあった際には、すぐにそれを把握し、対応できるよう体制を整えています。

2011年4月から導入したグローバル品質苦情処理システムによって、グローバルかつタイムリーに市場から品質情報を収集しています。不具合情報を入手した際は、直ちに原因を究明し不具合品の市場流出を防止しています。また、こうした不具合情報や是正処置・予防処置をグローバルに共有しています。

開発部門への品質教育に注力

シスメックスの3つのビジネスユニットのなかでも、ICH※1ビジネスユニット（ICH-BU）が取り扱う製品には、高度な診断や治療を行うための医療判断に用いられるものが少なくありません。信頼性の高い製品を提供し続けるため、シスメックスでは本ビジネスユニットで働く従業員、なかでも技術者への品質教育を徹底しています。

2015年度には、品質マネジメントシステムの強化に向けた取り組みとして、ICH-BUを対象とした外部コンサルタントによるFDA※2模擬監査を開始しました。



集合教育の様子

※1 Immunochemistry testing: 免疫検査、Clinical chemistry testing: 生化学検査、Hemostasis testing: 血液凝固検査の頭文字。

※2 Food and Drug Administration（食品医薬品局）の略。

品質・安全性に関する情報

お客様からの情報を社内で共有化

シスメックスは、製品の品質と安全性に関する情報を管理する安全性情報部門を設置しています。お客様などから寄せられた品質や安全性に関する情報を調査・分析し、その結果をお客様にお伝えするとともに、当社設計・製造部門などの関連部門と共有することで、品質の改善や新製品の開発などに活かしています。

The diagram illustrates the information management system for medical products, showing the flow of information between various stakeholders:

- 患者さん (Patients):** Provides efficacy and safety information to medical professionals and receives appropriate examinations and diagnoses.
- 検査技師など医療関係者 (Medical Professionals):** Collects efficacy and safety information, provides medical information, and reports directly to the Ministry of Health and the PMDA. They also receive instructions and guidance from the PMDA.
- 厚生労働省 (Ministry of Health, Labour and Welfare):** Oversees the system and receives reports from medical professionals and the PMDA.
- 医薬品医療機器総合機構 (PMDA):** Provides instructions and guidance to medical professionals and reports to the Ministry of Health. It also manages information sharing and collaboration with domestic and overseas entities.
- 国内外の提携先 (Domestic and Overseas Partners):** Engage in information sharing and collaboration with the PMDA.
- 情報担当者 (Information Manager):** Collects efficacy and safety information from the inquiry window and provides it to the safety information department.
- お問い合わせ窓口 (Inquiry Window):** Collects efficacy and safety information and provides it to the information manager.
- 安全性情報部門 (Safety Information Department):** Collects information from overseas group companies and provides it to the inquiry window and the information manager. It also manages information sharing and collaboration with domestic and overseas partners.
- 海外グループ会社 (Overseas Group Companies):** Collect information and provide it to the safety information department. They also engage in information sharing and collaboration with the PMDA.

The system is managed by **シスメックスグループ (Sismex Group)**.

シスメックスでは、製品の回収・改修などの情報を「製品に関する重要なお知らせ」としウェブサイトに掲載しています。

シスメックスでは、正確な検査結果を確保するために、医療機関のお客様には純正の装置と試薬のセットで使用いただくようお願いしています。近年、一部の地域でシスメックス製試薬を偽装した試薬の流通が発見されています。これら偽装試薬を使用した場合、検査結果の信頼性が確保できず、場合によっては患者様に健康被害をもたらす危険性もあります。

こうした偽装試薬の市場流通状況を継続的に監視しており、偽装試薬を発見した場合は、現地の行政機関や司法機関を通じて徹底的に取締まりを実施しています。また現地の新聞に広告を掲載し、医療機関が偽装試薬を使用しないよう注意喚起しています。

海外事例（台湾）：現地食品医薬品局がシスメックス 台湾のGDP[※] 関連取り組みを表彰

2015年12月、シスメックス 台湾は、現地の食品医薬品局から、GDPに関する取り組みが模範的であるとして表彰を受けました。

※ Good Distribution Practiceの略。製造業者で生産され、流通・保管を通して顧客に届けられる医薬品が、生産されたときの品質（有効性・安全性）を維持し続けることを保証し、また盗難、事故を避け、偽薬や改竄された製品が供給ルート中で混入することを防止するため規範。



表彰式の様子

サービス&サポート/学術活動

サービス&サポート

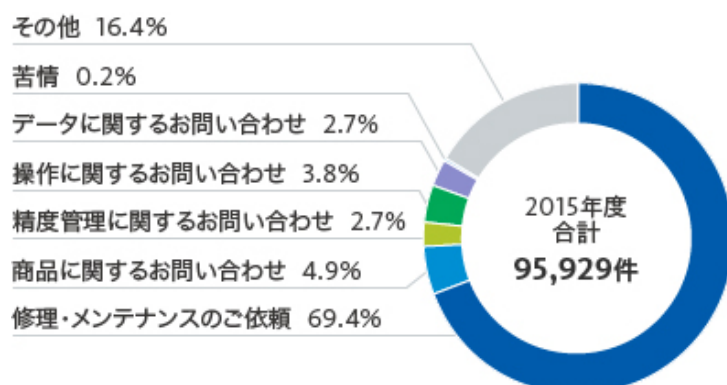
お問い合わせに、迅速・確実にお応えするために

シスメックス株式会社では、日本国内のお客様のための相談窓口「カスタマーサポートセンター」を設置し、豊富な知識を持った専任スタッフが、365日24時間体制（別途契約が必要）でお問い合わせに対応しています。同センターでは、過去のお問い合わせ内容やメンテナンス履歴などを蓄積し、すぐに参照できるようにすることで、お客様からのお問い合わせ・ご要望に迅速・確実にお応えしています。

また、相談窓口などを通じて収集したご要望などは、VOC（Voice of Customer：お客様の声）チームが集約し、さまざまな角度から分析した後、関係部門へフィードバックされ、新たな製品開発や業務改善に活用されています。お客様の声から生まれた新たな機能や装備を搭載した装置は、高い評価をいただいています。

2015年度には、国内市場から約12,500件のお客様の声を収集しました。

カスタマーサポートセンターへのお問い合わせ内容の内訳



カスタマーサポートセンターでの
お問い合わせ対応

お客様の日々の精度管理をサポート

病院などの医療機関では、毎日の検査データの信頼性を確保するために検査装置・試薬の精度を日々管理しています。一般には「コントロール」と呼ばれる専用の試料を測定し、その結果を参考値ならびに日々の測定結果と比較することによって、検査装置・試薬の状態をチェックします。シスメックスは、このコントロールを提供してお客様の精度管理をサポートしています。さらに、お客様のもとにある検査装置と、当社のカスタマーサポートセンターをオンラインで結ぶSNCS（Sysmex Network Communication Systems）を構築しています。カスタマーサポートセンターでは、このSNCSを通じてお客様の検査装置から送られてくるコントロールの測定値を受信し、同じ検査装置の結果の集計や比較を行い、データ異常の予兆を察知・判定して結果を返信するサービスを提供しています。これに加えて、SNCSを通じてお客様と双方向コミュニケーションが可能なりモートサービスによって、データ処理画面の共有や、ウェブカメラで装置の状態確認などを実施しています。

また、動作回数やメンテナンス時期、装置各部のセンサー情報をベースに、トラブル発生を予防するサービスも提供しています。

サービス&サポートグローバルミーティングを開催

シスメックスは、サービス&サポートにおける課題や考え方をグローバルで共有することを目的として、昨年に引き続き「サービス&サポートグローバルミーティング」を2015年11月に開催しました。

今回は海外統括現地法人を含む9地域から、実務責任者32名が参加。学術セッションと技術セッションに分かれて専門的かつ活発な議論を行いました。学術セッションでは、主要製品をとりまく各地域トピックスの共有や、分野横断的なクリニカルバリュー（臨床価値）の創出に向けた意見交換などを実施しました。また、技術セッションでは、より質の高い製品サポートを提供していく上で欠かせない技術資料やトレーニングコンテンツなどを題材に、いかに効率よく上質な資料を制作しグループ全体で活用していくかについて、ワークショップ形式で活発に議論を交わしました。今後も地域を越えた密接なコミュニケーションを続け、グループ全体でサービス&サポートの質向上を図っていきます。



ミーティングの様子

臨床検査の質を向上するため、ISOを活用

シスメックス株式会社は、2013年度に、当社が提供している血球分析装置の校正サービスについてISO/IEC 17025^{※1}の認定を取得しました。また、SNCS^{※2}およびeQAPi^{※3}において、一般検査、血液学的検査、生化学的検査、免疫学的検査、その他の検査における外部精度管理サービスを提供していますが、こちらは臨床検査分野のみならず全産業分野で国内初となるISO/IEC 17043^{※4}の認定を取得しています。国際規格に準拠した校正機関および外部精度管理（技能試験）提供者として、お客様により価値の高いサービスを提供しています。さらに2014年度には、臨床検査の基準測定検査室に関する国際規格・ISO15195の認定を取得しました。これにより、臨床検査のさらなる標準化、質の向上に向けた取り組みを強化していきます（詳細は下記を参照下さい）。

2015年度には、約650台の血球分析装置に対してISO/IEC17025に基づく校正を実施し、国際基準測定法に対してトレーサブル^{※5}であることを保証する認定シンボルマーク付き校正証明書を発行しました。また、ISO/IEC 17043の認定エリアは2016年3月時点で、日本国内とヨーロッパ、アフリカ、中東、台湾となっており、さらなるエリア拡大に取り組んでいます。

※1 ISO/IEC 17025:「試験所及び校正機関の能力に関する一般要求事項」の国際規格。

※2 SNCS: 上記記事「お客様の日々の精度管理をサポート」参照。

※3 eQAPi: 大規模なリアルタイム外部精度管理サービス。リアルタイムに測定データの判定結果が得られ、日常検査の精度向上に役立てられる。

※4 ISO/IEC 17043:「適合性評価-技能試験に対する一般要求事項」の国際規格。

※5 トレーサブル:「ある計測器を校正する際に用いる計測器や実量器は、より上位の計量標準に基づいて校正されている」ということを前提にして、その校正の過程を一次標準である国家標準や国際基準まで明確にさかのぼることができる状態。

血球計数分野で国内初のISO15195認定取得

2015年3月、シスメックスの学術本部は、臨床検査の基準測定検査室に関する国際規格であるISO15195の認定を取得しました。血球計数分野では国内初の認定取得です。

血球計数分野では、ICSH（国際検査血液標準化委員会）やCLSI（米国臨床検査標準委員会）による基準測定操作法※を正確に実行できる技術力を有していることが、トレーサビリティの証明となります。

今回の認定取得で、シスメックスが、ISOの定める基準に則って正確に基準測定操作法を実行できることが国際的に証明されました。これにより、自動血球分析装置に対する校正サービスの品質保証がより確かなものとなったといえます。

※ 基準測定操作法：国際的な比較においてもっとも誤差のないデータを得られると認定された、一定の測定手法。血球計数分野を含むいくつかの分野では、基準測定操作法に基づいてトレーサビリティ体系を定める。

海外事例（ヨーロッパ）：販売代理店や従業員に対する教育を実施

精度の高い検査を実現するためには、適切な技術や学術知識を身につける必要があります。EMEA※の統括現地法人シスメックス ヨーロッパでは、主に販売代理店や従業員に対する教育を実施する組織「シスメックスアカデミー」を設置しています。また、EMEAの各地に「トレーニングセンター」を設置し、シスメックスアカデミーがこれらを統括することで、同様の教育を行える体制を整えています。



シスメックスアカデミーでの教育風景

※ 欧州・中東・アフリカ地域。

学術活動

医療従事者向けの学術セミナーを開催

シスメックスは、医師や臨床検査技師などの医療従事者の方々を対象としたセミナーや勉強会を開催し、学術情報を発信しています。

2015年6月には、仙台・東京・神戸・福岡の4会場を衛星中継で結び、「～造血器腫瘍診断の未来像～ ゲノム時代に形態学は生き残れるか 形態学vs 遺伝子学」をテーマに第38回シスメックス学術セミナーを開催し、1,320名の方々にご参加いただきました。形態学と遺伝子学の立場から4名の先生にご登壇いただき、初めての試みであるディベート形式で白血病・悪性リンパ腫についてわかりやすくご講演いただきました。



第38回学術セミナー

学術雑誌の発行

シスメックスでは、「シスメックスジャーナル」（日本語版）、「シスメックスジャーナル・インターナショナル」（英語版、中国語版）を、世界100カ国以上の医療機関や大学図書館に配布し、多くの医療関係者の方々に臨床医学および検査に関する最新の情報を発信しています。

海外事例（中国）：医療従事者に最新の学術情報を発信

シスメックスは、経済発展と人口増加を背景として医療と検査に対するニーズが急速に高まる中国において、現地の医療従事者の方々を対象とした学術セミナーを1998年から実施してきました。

2015年10月31日には、上海において第18回シスメックス中国学術セミナーを開催し、中国全土から約1,300名の方々にご参加いただきました。日本と中国の第一線で活躍する著名な先生16名から、当社の全自動免疫測定装置「HISCLシリーズ」の臨床応用に関する最新の知見と、臨床検査の品質と効率化に関する最新情報をご発表いただきました。



第18回シスメックス中国学術セミナー

海外事例（中国）：病院と協力して感染症の早期発見に向けた研究を開始

シスメックスの全自動免疫測定装置「HISCLシリーズ」は、感染症などの診断から治療経過観察まで幅広く利用され、病気の早期発見や治療において重要な役割を担っています。2015年度、シスメックス 上海では、現地の病院などと、HISCLシリーズを用いた梅毒の早期発見に向けた共同研究を開始しました。



共同研究に使用されるHISCL-5000

海外事例（アジア）：フィリピンで学術セミナーを開催

シスメックスは、中国以外のアジア各国でも学術セミナーを開催しています。

2015年度は、9月2日、3日の2日間にわたってフィリピンのマニラで「EXPANDING THE POSSIBILITIES」をテーマとする学術セミナーを開催し、地元フィリピンからはもちろん、シンガポール、インド、タイ、ベトナムなどから延べ900名の方々にご参加いただきました。講師として、アジア・パシフィック地域の国々をはじめ、日本、カナダ、イギリスで活躍する医師を招き、血液、尿、凝固、免疫に関する最新情報を提供しました。



フィリピンのマニラで開催した学術セミナー

海外事例（ミャンマー）：血友病^{※1}治療の改善促進を目指す活動に協力

シスメックス アジア・パシフィックは、新興国において血友病治療の改善促進を目指す「トワイニング活動^{※2}」に協力しています。2015年9月には、ミャンマーのヤンゴンで開催されたワークショップに参加し、当社検査装置のトレーニングなどを実施しました。



ワークショップの様子

※1 血を固めるタンパク質が生まれつき低下・欠乏している病気。

※2 先進国と新興国で活動する血友病関連の団体と治療施設が双方向のパートナーシップを組んで血友病治療の改善を目指す活動。

海外事例（台湾）：ISO15189の推進を図るセミナーを開催

シスメックス 台湾は、臨床検査室の品質と能力に関する国際規格であるISO15189の認証取得を台湾でも普及させるべく、台湾の技師会、台湾の認定機関・日本の認定機関の監査有資格者が交流するセミナーを、2015年10月にシスメックス株式会社 テクノパークで開催しました。

当日は台湾からの70名を含む100名を超える参加者が集まり、同認証の普及状況や、今後の普及推進にむけた課題について、活発な議論が交わされました。



セミナーの様子

海外事例（台湾）：血友病に関する啓発ツールを提供

2015年度、シスメックス 台湾は、台湾の血友病協会と協力して、血友病に関する学術ハンドブックの中国語繁体字版や、血友病に関する治療の最新動向をわかりやすくまとめた資料を作成しました。これらの資料を血友病協会に寄贈し、協会のイベントで配布いただいています。さらに、台湾全土に10数カ所ある血友病センターにも寄贈し、啓発などに活用されています。

現地ニーズに合わせた 啓発ツールの充実



血友病ハンドブック

安定的な供給

検査機器の安定供給

グローバルな需要拡大に備え、工場の新設や設備拡充を推進

シスメックスでは、検査機器に関して、製品ごと・拠点ごとに適正在庫を設定し、これを市場の近くに置くとともに、現地法人などと連携して需要の状況を的確に把握することで、グローバルな需要変動に迅速に対応し、常に安定した供給ができるようにしています。さらに、需要拡大に備え、工場の新設や設備拡充を進めています。

2015年度は免疫・凝固分野の大型機器製品の販売増に対応するため、生産ラインの再設計を実施しました。今後も、グローバルな需要拡大に対し、生産ラインの改革・改善を重ね、製品供給を実現しています。

試薬の安定供給

災害時に備えた対応（BCP）

試薬に関しても、適正在庫の設定など、さまざまな角度から安定供給に努めるとともに、災害時に備えた対応として、海外生産の強化や、主要原材料購買先の複数化によるリスク分散を進めています。

2015年度には、西神工場、小野工場で耐震補強工事を実施しました。小野工場ではさらに非常用電源を設置するとともに、防爆施設や引火性ガス検知システムを整備し、消防法に基づいて少量危険物取扱所の認定を受けました。これにより、法的に許可される製品生産可能量が240万箱と2015年度の約9倍に拡大し、さらなる安定生産が可能となりました。あわせてこれら試薬の原材料入手リスク評価などを実施しました。

グローバルな需要拡大に備え、工場の拡大や設備拡充を推進

今後予測される試薬の需要増加に対応するため、2014年度にはシンガポールの試薬工場を、2015年度にはドイツの試薬工場を拡張しました。また西神工場においては、中国での需要が増加している試薬について製造工程を見直し、製造リードタイムの短縮を図りました。

中国・無錫工場では、2015年度に新たな設備を導入しました。これにより、同工場の主要生産品目である溶血剤とHISCL洗浄液の生産能力が倍増しました。また、中国市場では当面、免疫分野での需要拡大が続くと予測されていることから、設備の追加導入に備えて工場内のレイアウトを変更し、さらなる増産にも迅速に対応できるよう配慮しています。



増強した設備（タンク）

海外事例（ドイツ）：環境に配慮した試薬生産工場の拡張

2015年度、EMEA^{※1}での需要拡大に対応するため、ドイツの試薬生産工場を拡張し、生産能力を従来の1.5倍に増強しました。同工場では、エネルギー使用量・CO₂排出量の削減を目指して、太陽光パネルと、自然エネルギーを利用した季節間蓄熱空調システム「Ice thermal storage system^{※2}」を導入しています。

※1 欧州・中東・アフリカ地域

※2 地中に埋めた水を冬期の外気で製氷し、その氷を夏期の冷房に利用、冬期は外気よりも暖かい地中の水から熱を吸収し、暖房に利用するシステム。



ドイツの試薬生産工場

お客様との関わり

お客様満足度・社外評価の向上

お客様満足度の向上

国内外でお客様満足度調査を実施

シスメックス株式会社では、全国規模の学会や展示会にご来場いただいたお客様に、当社の営業・サービス活動に関するアンケート調査を実施しています。また、ソリューションセンターで開催しているカスタマートレーニングの参加者に対しても、カスタマーサポートセンターに関するアンケート調査を実施しています。2015年は222名にご回答いただき、全体の満足度は93.7%と、昨年から2.1ポイント向上しました。

いただいたご意見・ご要望は各部門にフィードバックし、製品の改善などに役立てています。

海外事例（米州）：教育支援サイト開設によるお客様満足度向上

シスメックス アメリカでは、長年にわたりお客様へのサポート充実に努めてきた結果、血球分析装置メーカーを対象としたお客様満足度調査「IMV Service Track」（IMV社主催）で16年連続No.1を獲得しています。2016年2月には、医療従事者を対象とした教育支援サイトを開設し、患者さんの診断や治療に役立つ最新の臨床情報を提供しています。

16年連続で
お客様満足度 **No.1**



医療従事者を対象とした教育支援サイト
「Clinical Education for Clinicians」

海外事例（中国）：お客様満足度向上に向けた取り組み

2015年度、シスメックス 上海はお客様満足度調査を実施しました。できるだけ多くのお客様の声を集めるため、直接対話に加えてオンラインによる調査も実施し、約1,500名の方のご意見を収集しました。今回の調査により、アフターサービスをはじめ多くの点で高く評価いただいていること、定期保守などについてはさらなる期待・要望があることがわかりました。今後は、この結果を踏まえて、さらなるお客様満足度向上に努めていきます。

直接対話・オンラインを通じて
お客様の声を収集



シスメックス 上海のコールセンター

医療課題解決への貢献

医療課題の解決に貢献する製品・技術の開発

新興国・開発途上国の検査の質向上をサポート

シスメックスは、アジアの新興国・開発途上国の政府や学会とともに外部精度管理※1などを実施し、検査の標準化を進め、現地の医療水準の向上に貢献しています。2015年度は新たにモンゴルで保健・スポーツ省と免疫検査分野（感染症検査）の外部精度管理・基準検査室※2構築支援に関する契約を、さらにカンボジアでは保健省と学術支援活動に関する契約を締結しました。

※1 複数の臨床検査室に同一の試料（人工的に作られた血液など）を配付し、回収された測定結果を統計的手法を用いて解析することにより、各検査室の測定結果の精度を評価する手法のこと。結果は各検査室へフィードバックされ、検査の質向上に役立てられる。

※2 地域や国の臨床検査室のモデルとなり、中核的な役割を果たす検査室のこと。

このほか、アフリカ諸国において、シスメックス サウスアフリカが検査室の業務品質確保に役立つ国際規格ISO15189※3の取得・運用に関連するトレーニングなどを提供しています。2015年度は、新たにジンバブエの検査室を支援しました。

※3 臨床検査室の品質と能力に関する要求事項を定めた国際規格。

外部精度管理を通じた
検査標準化の
実施国

中国、フィリピン、モンゴル、
タイ、カンボジア、ミャンマー
(2016年3月末時点)

6カ国



モンゴル保健・スポーツ省との契約締結式



シスメックス サウスアフリカが支援した
病院の検査室（ジンバブエ）

2015年度のアジアでの主な支援内容

モンゴル	- 血液分野と生化学分野で各2回外部精度管理を実施 - 新たに、モンゴル保健・スポーツ省と、免疫検査分野における外部精度管理・基準検査室構築支援活動に関する契約を締結
タイ	血液分野で外部精度管理を4回実施
フィリピン	外部精度管理を血液分野で1回実施
カンボジア	- カンボジア保健省が定める基準検査室に導入されている、シスメックスの自動血球分析装置について、国際基準に基づき維持・管理を実施 - ヘマトロジー分野の外部精度管理スキームの構築・運用支援を開始
ミャンマー	- 現地関係者に対して、トライアルサーベイの結果報告を実施 - ミャンマー保健省の了承のもと、National Health Laboratoryと外部精度管理支援に関する契約の締結に向けて調整を実施

尿検査関連製品のラインアップを強化

患者さんへの身体的・経済的な負担が比較的少なく、さまざまな身体情報を調べられる尿検査は世界中で需要が増加しています。シスメックスは、2015年9月に、従来品よりも性能を向上させ、検査項目も拡大した全自動尿中有形成成分分析装置「UF-5000/4000/3000」を発売しました。また、2016年1月には、全自動尿中有形成成分撮像ユニット「UD-10」および、栄研化学株式会社と連携し、自社ブランドとしては初となる全自動尿化学分析装置「UC-3500」（海外市場向け）を発売しました。これら製品には、モジュラーコンセプトを採用し、製品を組み合わせることで多様な尿検査のニーズに対応できます。



全自動尿中有形成成分撮像ユニット「UD-10」（左）
全自動尿中有形成成分分析装置「UF-5000」（中）
全自動尿化学分析装置「UC-3500」（右）

シスメックスIMPラボで研究用受託アッセイサービスをスタート

シスメックスは、遺伝子検査に関するアッセイサービスを神戸・ポートアイランド内にある「シスメックスIMPラボ」に集約することで、高機能、効率化を図っています。

2016年4月には同ラボにおいて、乳がん組織を解析して再発予測のための研究用データを提供する「Curebest® 95GC Breastアッセイサービス」※1を開始しました。また、2016年度中には、血中の微量ながん由来DNAを検出できるBEAMing技術を活用して特定のがん種における遺伝子変異を検出する「OncoBEAMラボアッセイサービス」※2も開始する予定です。今後も研究用アッセイサービスの提供を通じて患者さん一人ひとりに最適な医療を提供する「個別化医療」への貢献を目指します。

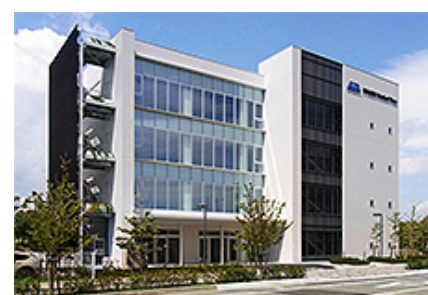
※1 乳がんの予後に関連する95個の遺伝子の発現量を測定する受託解析サービス。

※2 特定のがん種における標的遺伝子の変異を検出するアッセイサービス。

開発途上国の医療課題解決への貢献

シスメックスはこれまで新興国や開発途上国における感染症の診断に寄与するため、HIVやマラリアなどの検査技術の創出、製品の開発に取り組んできました。2015年度には、さらなる貢献を目指し、「開発途上国の人々が感染症による苦難を乗り越え、先進国と同様に繁栄と長寿社会を享受できる世界」の構築を目指す公益社団法人「グローバルヘルス技術振興基金

（GHIT Fund）」に、唯一の診断薬メーカーとして参画しました。今後も事業活動を通じて世界の医療課題解決に取り組んでいきます。



遺伝子検査に関わる受託アッセイサービス拠点「シスメックスIMPラボ」

GHIT Fundの枠組み



世界3大感染症の課題解決を目指して

シスメックスは2013年、研究領域およびHIVやマラリアなど感染症検査市場において高いプレゼンスを有するパルテック社をグループに迎え入れました。パルテック社は、フローサイトメトリー（FCM）法による研究用機器を1968年に世界で初めて製品化したパイオニアです。この技術を活かして開発された新興国・途上国向けの製品は、世界3大感染症の一つであるHIV/AIDSの治療・モニタリングに役立てられています。また、結核、マラリアの検査が可能となる蛍光顕微鏡システムも提供しています。

これらは、医療設備が十分でない環境でも検査が可能な小型のポータブル式で、使用するHIV/AIDS検査用試薬も他社製品の数分の一の低価格です。また、各地で手軽に検査できる移動ラボラトリーを展開しており、特にアフリカのHIV/AIDS検査市場では高いシェアを獲得しています。

今後はシスメックスのグローバルなネットワークを活用することで、アフリカだけでなく、アジアや中南米などでもパルテック社の製品の認知度・普及度を高め、さまざまな新興国・途上国の医療環境改善に貢献していきます。



小型・ポータブル式の感染症検査装置



移動ラボラトリー

慢性骨髄性白血病の治療効果をモニタリングする検査用試薬の製造販売承認を取得

慢性骨髄性白血病（CML）は、血球の元となる細胞の染色体異常によって引き起こされる病気です。この治療に効果的なのが「分子標的治療薬」を用いる方法であり、治療の効果を正確にモニタリングするための遺伝子検査※が日本をはじめ各国における診療ガイドラインで推奨されています。しかし日本にはガイドラインに基づいた遺伝子検査を行える検査試薬として厚生労働省から製造販売承認を受けたものは販売されていませんでした。

そこでシスメックス株式会社は、ガイドラインに基づいた効果的なモニタリングを可能とする検査用試薬の製造販売に着手。2014年8月、日本で初めて、検査用試薬「ipsogen BCR-ABL1 Mbcr IS-MMR DX」の製造販売承認を取得し、さらに2015年4月に保険適用を受けました。今後、国内での市場導入を進めていきます。



ipsogen BCR-ABL1 Mbcr IS-MMR DX試薬

※ 日本血液学会が作成する造血器腫瘍診療ガイドライン（2013年版）は、モニタリングの正確性を期すため、「BCR-ABL1 mRNA検査」を用いて、結果を国際標準値で報告することを求めている。

その他の新製品・サービス（2015年度）

- 心筋梗塞や脳梗塞などの血栓性疾患の検査に用いられる「血小板凝集能キット3試薬」を発売
- 転移性大腸がん患者の最適な治療方法選択に貢献する「血中RAS遺伝子変異検査」が、スペインに続きドイツの病院でも運用開始（研究用）
- 従来方法よりも短時間でリンパ節転移検査の判定結果を得ることができる検査試薬「リノアンプBC」の適応範囲を非小細胞肺癌リンパ節転移検査にも拡大

ステークホルダーとの関わり

株主様との関わり

行動基準

経営の健全性と透明性を高め、積極的な情報開示とコミュニケーションで、株主の皆様に安心を届けます。堅実かつ革新的な経営を推進し、持続的な成長と株主価値の向上に努めます。



情報開示

株主総会・株主懇談会の開催

シスメックスでは、株主の皆様との直接対話の機会を大切にし、できるだけ多くの方々に株主総会に参加していただけるよう努めています。

株主総会後は株主懇談会を開催し、株主の皆様との対話を深めています。当社の研究開発トピックス、機器の供給体制、社会貢献の取り組みやスポーツ活動、そして当社に対する社外評価などについてパネルや映像で説明した後、ご意見・ご質問にお答えしました。

一方、当日、株主総会に出席することが難しい株主の皆様は、書面やインターネットで議決権を行使することができます。さらに、総会の招集通知と決議通知の読みやすさにも配慮しています。いずれも海外の方のために英文版を作成しているほか、カラーの招集通知をお配りし、ウェブサイトでも閲覧できるようにしています。



株主懇談会

さらなる情報開示の充実を目指して

シスメックスでは、証券取引に関する法令や証券取引所の定める適時開示規則などを遵守することはもとより、当社独自の基準を設け、投資判断に影響を与えると判断した情報を積極的に開示するよう努めています。

年2回の決算説明会（期末・第2四半期決算時）に加え、さらなる情報開示の充実を目指し、第1・第3四半期決算発表時に、カンファレンスコールを開催しています。

外部からの評価

「IR優良企業大賞」を初めて受賞

シスメックス株式会社は、2015年11月、日本IR協議会の「IR優良企業賞」において、最高賞である「IR優良企業大賞」を初めて受賞しました。

同賞は、IRの趣旨を深く理解し、積極的に取り組み、市場関係者の高い支持を得るなど優れた成果を上げた企業を表彰するもので、なかでもIR優良企業大賞は、IR優良企業賞を過去に3回受賞していることが受賞の条件となっています。当社は過去にIR優良企業奨励賞（2004年度）、IR優良企業賞（2006年度、2011年度）を受賞しており、長年にわたってレベルの高い取り組みを続けてきたことが認められて、今回の受賞に至りました。

特に評価された点として、経営の透明性が高く、研究・開発の状況がわかりやすいことが挙げられます。経営トップが投資家の視線を踏まえて経営戦略や中期経営計画を説明し、さらに対話の機会も設けていること、IR部門がわかりやすい情報開示に努めるとともに投資家の声のフィードバックを活かしていること、個人投資家向けの説明会や工場見学会、ミーティング、また説明会資料やウェブサイトなどの内容が充実していることが高く評価されました。



授賞式



IR優良企業大賞マーク

「個人投資家向け情報提供における優良企業」に4年連続選定

2015年度、シスメックスは、日本証券アナリスト協会ディスクロージャー研究会が主催する「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」において、業種別部門（医薬品）の評価対象企業19社中、第1位に選定されました。経営陣がIRに積極的に関与し、説明会やアナリストミーティングで有意義なディスカッションを行っていることに加え、決算説明会とその補足資料の内容が充実していること、技術説明会、施設見学会の内容が有益であることなどが高く評価されたものです。

また、同「個人投資家向け情報提供における優良企業」には4年連続で選定され、2015年度は、全業種の評価対象企業213社の中で第1位にランキングされました。個人投資家向け会社説明会は、説明会の内容が動画配信されていること、個人投資家の目線に立って分かりやすい説明を行っていることが高く評価されました。また、個人投資家向けのホームページでは、個人投資家が知りたい情報を見つけやすいようなコンテンツ配置に加え、業績動向をグラフなどを用いて分かりやすく説明している点、株主通信においては、中期経営計画のビジョンや取り組みを分かりやすく説明している点が高く評価されました。

ステークホルダーとの関わり

取引先との関わり

行動基準

公平・公正を基本とした幅広い取引により、取引先の皆様に安心を届けます。相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業をめざします。



バリューチェーンにおけるCSRの推進

CSRに配慮した調達方針の設定

シスメックスでは、取引先の選定や調達取引の基本的な考えを示す「調達方針」を制定し、これに沿ってバリューチェーンの構築を進めてきました。2013年度にはCSRに配慮した調達の推進を目指して本方針を改定し、ヘルスケア分野でグローバルに事業を展開する企業として「BCP（事業継続計画）体制の構築」、「各国の法令や社会規範などを遵守した経営およびCSRの推進」などの項目を追加しました。

取引先でのCSR活動を確認するために、「安全で衛生的な職場環境の提供」「強制労働・児童労働の禁止」「男女・障がい者・人種等に対する差別の排除」「国内外の公務員に対する贈賄禁止」などの項目を含むCSR調査を実施しており、現在の取引先約8割に対して調査済みです。また、新規の取引検討先15社に対しては、CSR調査に加えて経営者との面談も行い、CSRへの取り組み状況を確認しました。このうち海外取引先については、児童労働の防止、安全で衛生的な職場環境の提供などの取り組み状況を、調達担当者が訪問して実際に確認しました。

また、シスメックスは「英国現代奴隷法」の対応を進めており、シスメックス UKのホームページに声明文を公開しています。

調達方針

シスメックスグループ企業理念「Sysmex Way」で定める「ヘルスケアの進化をデザインする」というMissionのもと、公平・公正を基本とした調達活動を行い、取引先の皆様に安心をお届けします。また相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業を目指します。我々は、法令や契約の遵守とともに高い倫理観のもと、ヘルスケア分野で事業展開する企業にふさわしい品質の部品・原材料の安定調達を行い、世界中のお客様に安心してご使用いただく製品をお届けできるよう、本方針に従い活動していきます。取引先の皆様には、下記7項目において、将来の価値の創造、改善につながる取り組みを期待しています。

お取引先様へのお願い

1. ヘルスケアにふさわしい品質
2. 継続的な供給体制の構築
3. ヘルスケアの発展に貢献できる技術力
4. 安定した経営基盤とBCP（事業継続計画）体制の構築
5. 各国の法令や社会規範などを遵守した経営およびCSRの推進
6. 地球環境保全に向けた環境マネジメントの推進
7. 適正価格での供給と積極的な価格低減活動の実施

2014年3月改定

取引先との関係強化に向けて

当社の事業の方向性や調達方針をご理解いただいた上で取引ができるよう、取引先との関係強化に努めています。2016年2月、3月には、検査機器の部品のうち、シスメックス仕様の加工品を供給いただいている国内の取引先を対象とする「サプライヤー説明会」を開催しました。当社の品質管理部門も参加し、シスメックスが調達方針に示す「ヘルスケアにふさわしい品質」をご提供いただくための基準を説明しました。

また、海外関係会社でも、代理店などを対象としてコミュニケーションの機会を設けています。2015年11月には、シスメックス ロシアが代理店会議を初開催し、シスメックスの品質方針や最新のサービスについて説明しました。



サプライヤー説明会

調達部品・原材料の品質向上に向けて

お客様に、高品質の製品を安定的に提供するためには、調達原材料・部品の品質を維持・向上する必要があります。そこで、2009年度から、品質に関する要求事項を明示した品質保証協定書を作成し、その内容への理解を深めていただくための手引き書も準備したうえで、取引先と契約を締結しています。

また、新規の取引先に対しては、もれなく品質監査を実施し、品質マネジメントシステムが適切に運用されているか確認しています。既存の取引先に関しては、納入された部品の品質監視の結果、是正および予防措置の実施が必要と判断された場合に品質監査を実施しています。

取引先への環境調査説明会を開催

2016年7月からの体外診断用医療機器（IVD）へのRoHS指令適用に対応するため、2016年1月に東京、神戸の2会場で計3回取引先への環境調査説明会を開催しました。あわせて245社の取引先に参加いただき、シスメックスの法規制への取り組みと環境対応の重要性について説明したうえでRoHS指令適用への対応のご協力をお願いしました。



取引先への環境調査説明会

取引におけるコンプライアンス・CSRの徹底

調達関連法規制遵守を目指した社内啓発活動

電子調達システム（STM）を構築し、不当な代金減額や返品を防止するとともに、同システムに関する研修を毎年実施しています。

2015年度は、調達部の部員全員を対象として下請法に関する教育を実施するとともに、新規配属者を対象として「調達方針」「CSR」「グリーン調達」「調達リスク」に関する教育を実施しました。また、研究開発資材の注文を依頼する立場にある開発部門の新規配属者に対しても、注文依頼から検収までの注意点に関する教育と、下請法に関する教育を実施しました。

販売代理店にコンプライアンスに関する方針などを説明

シスメックスは、販売代理店と良きパートナーシップを維持するために、コンプライアンスの徹底に取り組んでいます。販売代理店との関係において、従業員が遵守すべきルールとして「優越的地位の濫用禁止」「過剰な接待・贈物の禁止」などを定め、これらを遵守しています。主要な販売代理店に対しては専任の担当者を配置し、定期的な会議等を通じて相互理解に努めております。

ステークホルダーとの関わり

従業員との関わり

行動基準

多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にするとともに、安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。



> 人権の尊重

世界人権宣言とILO中核的労働基準を支持し、人権侵害防止に努めています。

> 評価・処遇・人材育成

従業員に対する公正な処遇に努めるとともに、多彩な人材育成プログラムを設け、自己実現と成長の機会を提供しています。

> ダイバーシティ推進

多様な人材の確保・活用に取り組んでいます。育児支援をはじめとして、従業員のワークライフバランスを支援するためのさまざまな制度を整備しています。

> 労働者の権利の尊重

グローバル・コンパクトの原則とILO中核的労働基準に基づいて組合結成の自由と団体交渉の権利を尊重しています。

> 安全と健康への配慮

各事業所長と従業員代表が参加する安全衛生委員会が中心となって、安心して働ける職場づくりに努めています。

人権の尊重

人権の尊重

世界人権宣言とILO中核的労働基準を支持

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコードの「8. 人権の尊重と安全・衛生の向上」において、世界人権宣言とILO中核的労働基準への支持を表明するとともに、基本的な人権を尊重する上で遵守すべき特に重要なルールや行動のガイドラインを定めています。具体的には、あらゆる差別的取り扱いを行わないこと、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントなどの人格を無視した行為をしないこと、児童労働・強制労働などをさせないこと、安全で快適な職場環境を確保することを明示しています。これらを実践するため、随時研修などを実施しています。

また、ヒトゲノム・遺伝子解析研究および臨床研究を進めるにあたり、被験者の人権尊重を目的とした規程や委員会を設けています。

グローバルコンプライアンスコード（抜粋）

8. 人権の尊重と安全・衛生の向上

私たちは、世界人権宣言、ILO中核的労働基準等の人権に関する国際基準を支持し、一人ひとりの基本的人権を尊重し、差別や嫌がらせ等の行為を行いません。また、各国・地域の労働関連法令等を遵守し、職場の安全・衛生に努めるとともに、不当な労働を強制しません。

8-1 差別および嫌がらせ等の禁止

性別、年齢、国籍、人種、民族、信条、宗教、社会的身分、門地、疾病、障害などに関する差別的言動、ならびにセクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの人格を無視する行為を行ってはならない。

8-2 プライバシーの尊重

個人の多様な価値観を認めあうとともに、一人ひとりのプライバシーを尊重し、知り得た個人情報をみだりに話したり、不必要に知ろうとしてはならない。

8-3 強制労働・児童労働の排除

強制や意思に反しての不当な労働を強制してはならない。また、各国・地域の法令等に定める雇用最低年齢に満たない児童を就業させてはならない。

8-4 職場の安全・衛生の確保

誰もが安心して働けるよう、各国・地域の安全・衛生関連法令等を遵守するとともに、心身の健康の維持向上に取り組み、安全で快適な職場づくりに努めなければならない。

人権に関する相談・通報制度

国内グループ会社向けに内部通報制度「カンパニユラライン」を設置し、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントに関する相談をはじめとする人権相談を受け付けています。また、海外グループ会社でも内部通報制度を整備しています。

シスメックス株式会社では、これに加えて、毎年1回、従業員を対象とする調査を行い、パワーハラスメントやセクシャルハラスメントとを感じるような言動・態度が周囲に存在しないかを確認しています。調査結果は本部長や部長に報告するとともに、これを踏まえたマネジメント向けの研修なども実施しています。

人権侵害防止に向けた教育を実施

シスメックス株式会社は、ハラスメント（いじめ）の防止や、労働に関する正しい知識の浸透などを目的とする教育を実施し、人権侵害の防止に努めています。

2015年度は新任役職者向け研修で、ハラスメント、労務管理、労働者派遣法に関する研修を110名に行ったほか、部長職53名を対象として、これまでに社内が発生したハラスメント事例を踏まえた研修を実施しました。

評価・処遇・人材育成

評価・処遇

能力・成果に基づく公平な人事評価

シスメックス株式会社は自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会を提供するとともに、公正な処遇に努めています。

公正な処遇のベースとなる評価については、「企業価値向上に貢献する能力および成果の発揮に対して報いる」という考え方にに基づき、成果のみの評価ではなく、成果発揮にいたるプロセスの評価（コンピテンシー評価）も行っています。また、公平かつ納得性のある人事評価を目指し、評価結果、上司コメントを各個人に開示しています。

人材マネジメントシステムの考え方

1. 長期的な雇用を実現するために

- 多様な人材が安心して能力を発揮できる複線型の資格等級フレームを整備し、自己実現と成長の機会を提供

2. 多様な人材の能力開発・育成を推進するために

- コンピテンシーを基軸とする資格等級基準を設定し、昇格基準の明確化による人材育成と昇格運用の適正化を促進
- 成果のみではなく、成果発揮に至るプロセス（発揮能力）を評価し、人材育成と企業風土の変革を促進

3. 企業価値向上に貢献する能力および成果の発揮に対して報いるために

- 評価と報酬の関係をシンプルにし、誰にでも分かりやすい制度
- 仕事の貢献度・役割・発揮能力（コンピテンシー）および成果に連動したメリハリのある報酬体系

社員のキャリア設計をサポート

シスメックス株式会社では、全社員を対象とした「自己申告制度」を運用しています。この制度では、毎年個々の社員へのヒアリングを行い、中長期のキャリアや海外勤務、職種についての希望などを聞き取っています。これによって、一人ひとりに自己のキャリアの方向性とライフプランについて考える機会を持ってもらうとともに、申告内容を能力開発や人材配置に活用しています。

2015年度のヒアリングでは、88.9%の社員から申告がありました。

契約社員・派遣社員などの登用・待遇改善

シスメックス株式会社は、契約社員や派遣社員の正社員登用にも積極的に取り組んでいます。契約期限が限られている有期雇用者に対して公平に登用機会を提供することを社内規程において明文化するとともに、イントラネットなどで周知徹底を図っています。また、派遣社員に対しては、個別契約を更新する際、一定の条件を満たしている対象者に直接雇用への切り替えを検討してもらうよう派遣会社へ案内しています。このような取り組みに加えて、契約社員やパート社員が業務管理の改善について気軽に相談できるような専用窓口を設けており、契約書にもその旨を明記しています。これらの取り組みを継続的に実施してきた結果、2015年度には、契約社員・派遣社員あわせて19名を正社員として登用しました。

また、2015年12月には、派遣社員との業務遂行におけるルールや、契約上の禁止事項などについて周知徹底するため、部門の責任者および派遣社員の指揮命令者を対象とした研修を実施しました。

生産量の拡大に伴い、シスメックスでは、パート社員や契約社員の重要性が増しています。2015年度には、約150名のパート社員を新規に採用しています。今後も適宜、制度などの見直しを実施し、従業員の待遇をより良いものにしていきます。

モチベーションアップにつながる社内表彰制度を導入

シスメックスは2011年度から、グループで最も貢献した個人および組織・グループを称える表彰制度「グループCEOアワード」を導入し、1年に1度、グループ企業理念「Sysmex Way」を実践した個人1名、グループ1組を選出して、その功績をたたえ、全社で共有しています。

また、シスメックス株式会社では、研究開発者のモチベーション向上と知的財産に対する意識を高めることを目的とし、「特許大賞・優秀特許賞」、「パテントマイスター」、「出願記念賞」の3つの「特許表彰制度」も導入しています。さらに、品質改善に関する成果を表彰する「品質アワード」も運営しています。

海外事例：各統括現地法人の人事制度

米州、EMEA[※]、中国、アジア・パシフィックの各統括現地法人においては、各地域の法律、文化に対応した人事制度を整備しています。

評価については、基本的に目標管理制度による評価を実施しています。また、米州とEMEA、アジア・パシフィックでは、一部、コンピテンシー評価も実施しています。人材育成については、タレントマネジメント教育、階層別教育のほか、日本のシスメックス株式会社との従業員交換プログラムも実施し、グローバルな人材交流・人材育成を推進しています。

[※] 欧州・中東・アフリカ地域。

人材育成

4つのコンセプトに基づく人材育成

シスメックス株式会社は人材育成の4つのコンセプトに基づき、選抜型研修、階層型研修、自律選択型研修を研修体系の軸とした計画的・段階的な人材育成に取り組んでいます。2015年度の1人当たり平均研修時間は22.6時間、平均研修費用は179,000円※となっています。また、2015年4月には、多様な文化や価値観を持つ人々が集い、日常業務や立場を離れて議論を深め、ネットワークを広げる場として、兵庫県芦屋市に「グローバル コミュニケーション センター」を開設しました。



新入社員研修

※ 人事部門が提供する研修対象とし、自己啓発および実地研修など業務の一部に該当するものは除く。

人材育成の4つのコンセプト

1. 研修と評価と仕事（成果発揮）を接続
2. シスメックスグループのグローバル化の促進
3. 継続的な人材開発投資
4. 人を育て、人が育つ会社

研修体系の3つの軸

研修区分	目的
選抜型研修	● グローバルリーダーの育成 ● 将来的な経営人材の育成
階層型研修	● 階層ごとに最低限必要とするマネジメントや課題解決等の知識・スキルの習得 ● 部門間コミュニケーションの促進
自律選択型研修 (Sysmex College)	● 業務遂行における実践的な知識・ノウハウ・スキル ● ビジネス・マネジメント各種知識

グローバル コミュニケーション センターの概要

所在地:	兵庫県芦屋市
敷地面積:	33,399m ²
総床面積:	2,914m ²
施設内容:	研修室、会議室、コラボレーションスペース、シアター ルーム、宿泊室、カフェテリア など



グローバル コミュニケーション センター
(シアタールーム)

グローバルな人材育成・交流の推進

シスメックスでは、2012年度から、日本と海外グループの従業員同士の交流を促し、互いに理解を深めることで関係強化を図る「グローバル人材交流プログラム」を実施しています。

2015年度は、11月に米州、EMEA※、アジア・パシフィック、中国、日本の13カ国から従業員総勢22名が参加する研修を行い、神戸本社での業務体験やセミナー・ディスカッションへの参加、顧客訪問を通じて交流を深めました。2015年6月、12月には、日本の従業員が、シスメックス・アメリカおよびシスメックス・カナダ、シスメックス ヨーロッパをそれぞれ訪問し、施設見学や業務体験、意見交換などを通して相互理解を図りました。

さらに、海外現地法人へ若手社員を派遣し、実務経験を積ませる「グローバル アプレンティス プログラム」を実施しています。

※ 欧州・中東・アフリカ地域。



異文化体験研修



業務体験を通じた他地域従業員との交流

製造工程で作業する従業員の技術力向上

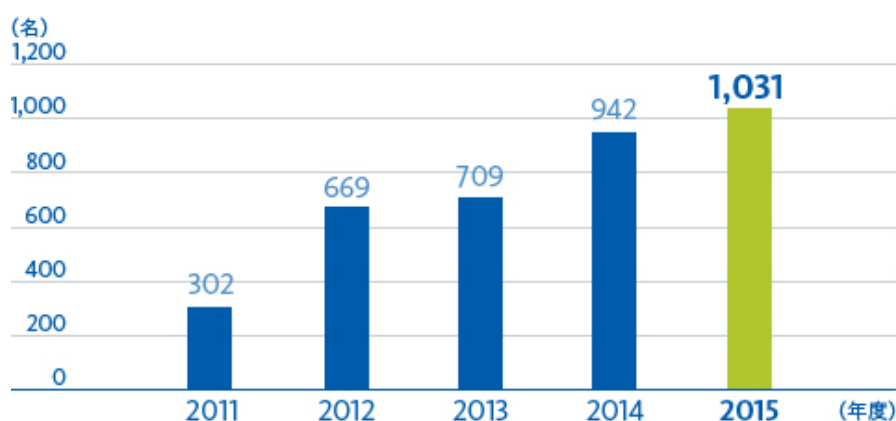
製造工程で作業する従業員の技術力向上は重要な課題です。シスメックス機器製品の製造に関わる知識・技能を習得するための訓練施設「ものづくりトレーニングセンター」では、一年を通じて技術力向上を目的とした研修を実施しています。

2015年度には、教育項目を見直すとともに教育時間を増やしました。また、機器生産グループのシスメックスRAやシスメックスメディカと技術教育項目を共有することにより、製造工程で作業する従業員の人材育成効果の増大を図りました。



ものづくりトレーニングセンターでの研修

ものづくりトレーニングセンターでの教育受講者数（延べ人数）



研究開発者の成長を促す「R&D革新活動」

シスメックス株式会社では、2013年9月から「R&D革新活動」を開始し、研究開発者のチーム力や提案力の強化を促進しています。中央研究所で開始されたこの活動は、2014年4月以降、技術開発本部などにも範囲を拡大しています。

2016年3月には、2015年度の活動総括として成果発表会を開催しました。チーム力や提案力強化の取り組みに加えて、メンバー個人の変化・成長についても報告がなされ、活発に意見が交わされました。また、発表会では、最も変化が大きかったメンバーを表彰することで、活動に対するモチベーション向上も図っています。



成果発表会

海外事例（ドイツ）：従業員の成長を積極的に支援

シスメックス ヨーロッパでは、従業員の専門スキル向上や自己研鑽のほか、語学学習プログラム（日本語・英語）なども用意し、全従業員を対象として定期的な研修を行っています。

「シスメックス・アカデミー」で製品関連の研修を実施しているほか、対面講座とeラーニングの選択式でチームビルディングやリーダーシップ、語学力などのソフトスキル向上を図れる「HRアカデミー」も用意しています。このほか、オンボーディング・トレーニング[※]なども実施し、従業員の成長をサポートしています。



研修風景

[※] オンボーディング・トレーニング: 新たに採用した人材を迅速に組織になじませることを目的とした社内トレーニング手法のひとつ。

海外事例（フランス）：グループ内でのコミュニケーション促進に向けた語学教育を実施

さまざまな言語が使われるヨーロッパにおいても、他地域とのコミュニケーションは大きな課題です。英語はもちろん、各国の公用語を十分に使いこなせることが求められます。

フランスのグループ会社、ハイフェン バイオメッド（HYPHEN BioMed）では、2014年度に、英語・フランス語の外部教師を招いて新たな言語教育プログラムを設定しました。プログラムでは、受講者の語学力やニーズに応じていくつかのグループに分け、それぞれにあわせた講座を実施。DVDなどの教材を用いた講義やロールプレイング、ディスカッションなどを通して語学力の向上を図り、教室外で学んだことを実践するテストも行います。本プログラムを経て、受講者たちからは、グループ内でのコミュニケーションがとりやすくなったとの声があがっています。

海外事例（アジア・パシフィック）：従業員の技能向上に注力

シスメックス アジア・パシフィックは、外部機関の協力を得て、全従業員が利用できるオンライントレーニング「Sysmex University」を運用し、eラーニングのプログラムなどを設けています。また、従業員の能力開発プログラムや、互いに技能向上を促すクロストレーニングなどの制度も導入し、従業員の能力開発を促進しています。

こうした制度を整えるとともに、個々の従業員全員について成長へのプランを策定し、年に1度、その進捗状況を確認しています。

ダイバーシティ推進

多様な人材の確保

多様な人材を受容する「Diversity & Inclusion」

シスメックス株式会社では、単に多様な人材が在籍する「Diversity」から、多様な人材が働きやすい環境を整備し、受容する「Diversity & Inclusion」を目指して、国籍・人種・性別・障がいの有無に関係なく人材を登用し、適材適所の配置を実施しています。

就職機会の均等化を目指して

シスメックス株式会社では、性別・国籍・人種・年齢・職歴・障がいの有無を問わず、人物本位で採用を実施しています。具体的には、就職が不利な状況に置かれている既卒学生や海外留学生などに対する就職機会の均等を図るために、いつでも応募できる通年採用を実施しています。

また、世界中のどこからでも応募できるよう、海外での現地説明会や面接に加え、インターネットを通じたウェブ説明会やウェブ面接も実施しています。2015年度はインターンシップ受け入れ対象地域を拡大し、秋には、中国・浙江大学から約30名の学生を招いたインターンシップを実施するなど（詳細は下記を参照）、海外の人材に当社を知ってもらうための施策を強化しています。こうした活動の結果、2015年度の新卒採用者外国人比率は19.7%※となりました。

※ 女子陸上競技部入社者を除く。

海外事例（中国）：中国・浙江大学からのインターンシップ受け入れ

2015年9月、中国・浙江大学の日本企業訪問プログラムに参画し、約30名の学生に対してインターンシップを実施しました。当日は若手社員との対話を通して、当社の事業や技術についての理解を深めてもらったほか、ヘルスケアの未来について考えるワークも実施しました。

イベントは参加者・大学関係者の双方から好評で、参加者の90%以上から、卒業後シスメックスに入社したいとの声をいただきました。今後も多様な人材の採用に向けて活動していきます。



ディスカッションの様子

障がい者雇用を推進

シスメックス株式会社は、障がい者の方の雇用を進めています。それぞれの適性や能力を活かして、長期的に活躍できる雇用形態で就業いただいています。2015年度の障がい者雇用率は1.82%です。

また、オストメイト（人工肛門・人工膀胱保有者向けのトイレ）などのバリアフリー設備を導入するほか、月に1回安全衛生委員が職場を巡視し、車椅子が通行しやすいように整理されているかを確認するなど、障がい者の方が働きやすい職場環境の整備にも継続的に取り組んでいます。

高齢者雇用——定年退職者再雇用制度

シスメックス株式会社では定年を60歳とし、高齢者雇用を推進するための制度として65歳までの定年退職者再雇用制度を運用しています。2015年度は、定年退職者のうち、社内ルールに基づいて25名を再雇用し、昨年度に比べ増加しました。

女性活躍推進

シスメックス株式会社では、女性の活躍を支援する取り組みの一環として、女性リーダーの育成に取り組んでいます。これまで仕事と育児の両立支援のため、さまざまな休暇制度や社内託児所を設けてきた結果、シスメックス株式会社の女性社員比率は2005年度18.4%から2015年度32.4%まで向上。女性管理職比率※も2005年度2.4%から2015年度8.3%まで向上。また、2015年度のグループ全体の女性管理職比率※は14.3%となりました。

2016年4月の女性活躍推進法施行にともない、今後さらなる女性活躍を推進し、多様な人材が働きやすい環境を整備し、「Diversity & Inclusion」の実現を目指します。

※ 課長級以上の者。

シスメックス株式会社 女性活躍推進 行動計画

1. 計画期間：

平成28年4月1日～平成33年3月31日

2. 目的：

「Sysmex Wayに則り、更なる環境整備を通じて、全ての従業員がやり甲斐をもって働ける多様性を確保し、新たな付加価値向上を実現する」

3. 目標：

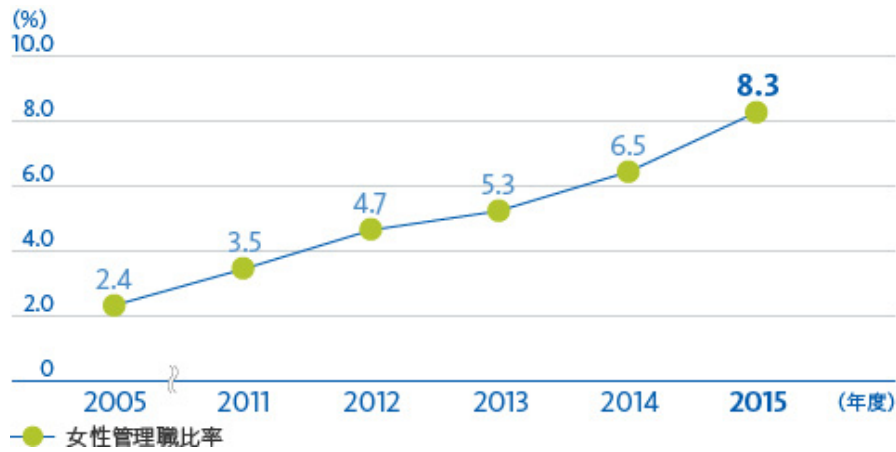
平成29年度末 女性管理職比率10%以上

平成32年度末 女性管理職比率15%以上

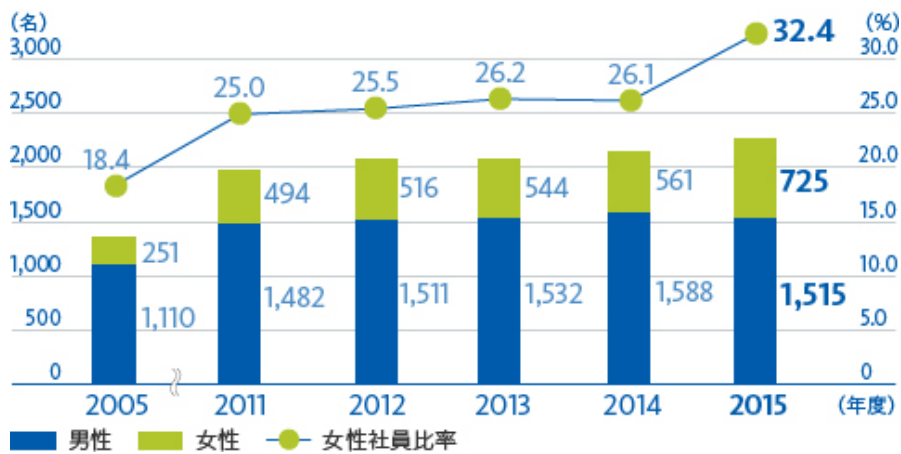
4. 取組内容：

- ・キャリア動機付け支援施策（社内外ネットワークを活用した意識向上等）
- ・女性リーダー候補研修（キャリアアップ志向を更に向上）
- ・多様な働き方促進策（外国人や障がい者など含めた多様な人材の活躍）
- ・ダイバーシティマネジメント研修（多様な人材へのマネジメント力を向上）
- ・在宅勤務制度の導入検討

女性管理職比率（シスメックス株式会社）



女性社員比率（シスメックス株式会社）



海外事例（アメリカ）：アファーマティブアクションプログラムの策定・実行

シスメックス アメリカでは、多様性の実現に向けて、「アファーマティブアクションプログラム（差別撤廃プログラム）」を策定し、実行しています。

仕事と育児の両立支援制度

さまざまな休暇制度や社内託児所で育児を支援

シスメックス株式会社は、出産前から育児までに対応した多様な制度を制定しています。不妊治療や出産前のつわりに対しての休暇制度をはじめ、出産後は子どもが2歳になるまでの育児休業や中学就業前までの勤務時間短縮制度、職種別のフレックスタイム制度が利用できます。さらに、子どもの看護のために会社を休む際、法定休業以外に積立有給休暇を利用できる制度を導入しています。

また、男性社員の育児参加ニーズに合わせ、配偶者出産時の特別休暇を出産の前後1カ月以内に2日取得できるようにし、出産準備にも参加できるように配慮しています。また「育み休暇」として子どもが1歳になるまでの間は育児を理由に連続3日間の特別休暇を設けています。



社内託児所「シスメックスキッズパーク」

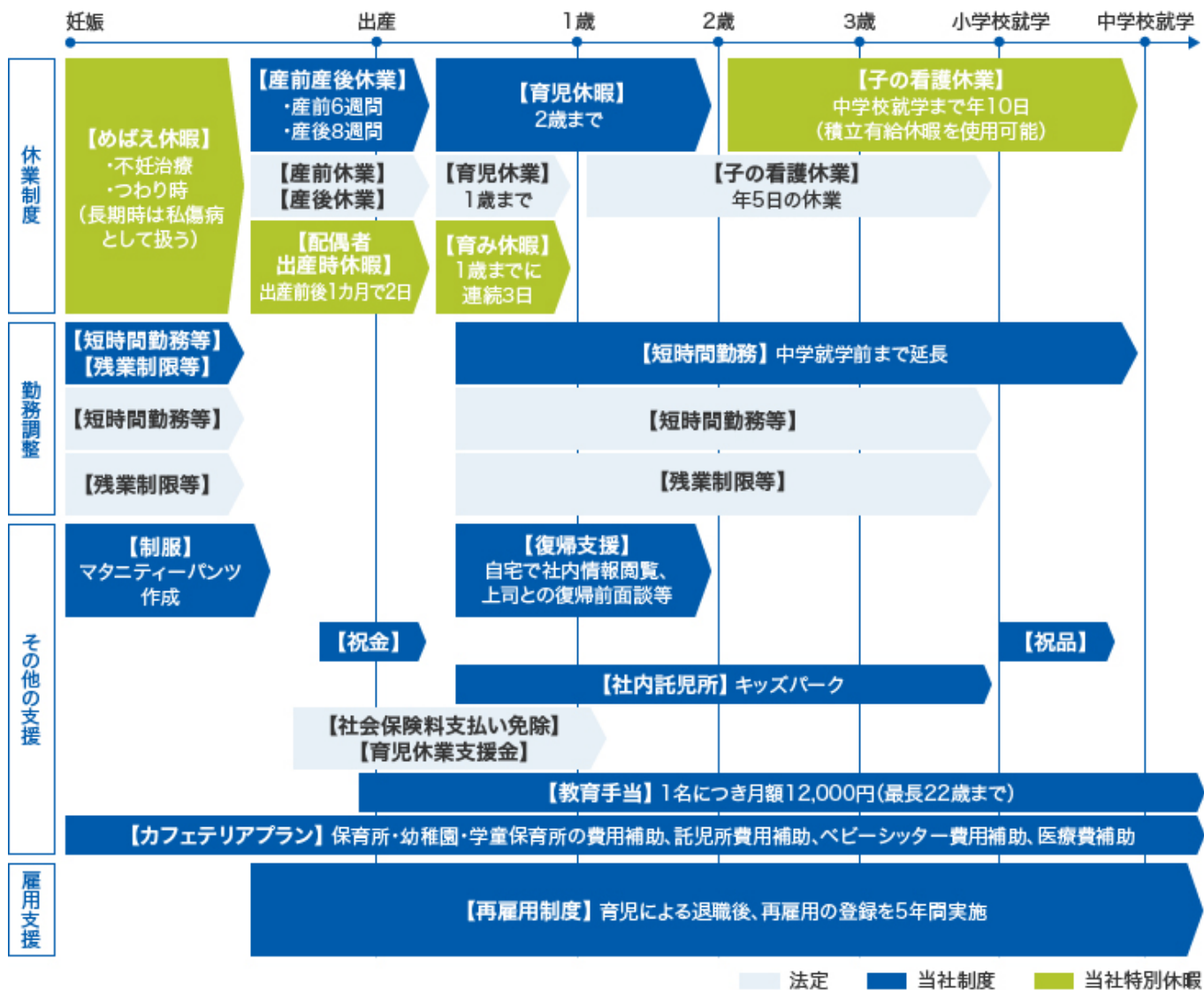
研究開発拠点「テクノパーク」内には、従業員から乳幼児を預かる社内託児所「シスメックスキッズパーク」を設置し、常時保育だけでなく、配偶者が非常勤で働いている場合や、保護者の疾病、弔事などにより家族での保育が困難なときなどの一時的な利用にも対応しています。

さらに、育児を理由にキャリアを中断した社員に再び働く機会を与える再雇用制度も設けています。これらの制度を計画的に整備してきたことが認められ、厚生労働省から次世代認定マーク（愛称「くるみん」）を取得しています。



次世代認定マーク「くるみん」

育児関連制度



主な育児関連制度の利用状況（2015年度）

制度	概要	人数
育児のための勤務時間短縮制度	子どもが小学校6年生を終えるまで利用可能。 （法定：子どもが3歳未満）	利用者50名※1
休業制度（育休・産休）	育児休業は2歳まで取得可能。 （法定：原則として子どもが1歳まで）	利用者73名※1
積立年休制度	家族の看護や介護のために、失効した年次有給休暇を最大10日まで積み立て、利用できる制度。 （法定：1年度につき5日（子どもや対象家族が2人以上の場合は10日））	利用者77名※2
再雇用制度	育児や介護のために退職した社員を再雇用する制度。	登録者6名※2
社内託児所	育児を0歳児から小学校就学前までの乳幼児を預けられる託児所。常時保育だけでなく、一時的な利用も可能。	利用児童28名※1

※1 シスメックス株式会社の正社員、嘱託社員、シニア嘱託社員、パート社員

※2 シスメックス株式会社の正社員

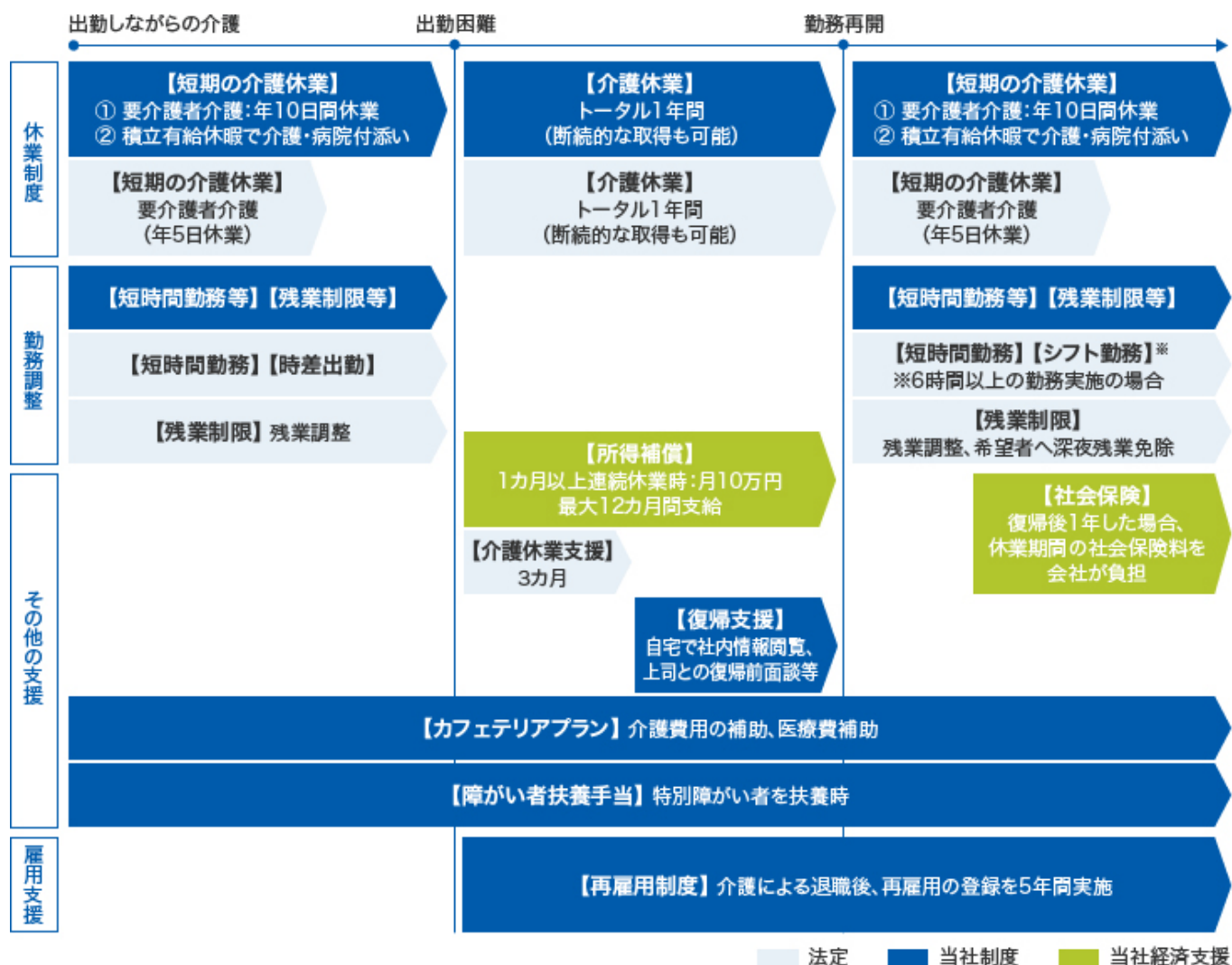
その他のワークライフバランス支援制度

介護や社会貢献活動などを支援

シスメックス株式会社では、従業員のワークライフバランスを実現するための制度の1つとして、連続7日以上療養が必要になった家族の病院受診や入院付添いのために短期の介護休業に積立有給休暇を利用することができます。2014年4月からは、介護休業を1カ月以上取得する際に、休業による収入減や突発的な費用発生に対応しやすいよう、会社独自で介護休業補償金を支給する所得補償制度を導入しています。また、介護でキャリアをいったん中断した従業員を再雇用する制度も運用しています。

このほかにも、社会貢献活動に参加する場合に年10日まで取得可能な「ボランティア休暇」（2日までは有給休暇として付与）や、骨髄移植などのドナーとなる場合、1件につき5日まで有給休暇として付与される「ドナー休暇」など、さまざまなワークライフバランス支援制度を設けています。

介護関連制度



休業後の職場復帰を支援

シスメックス株式会社では、育児・介護休業者がスムーズに職場に復帰できるよう支援する制度を2013年2月から導入しています。本制度では、社内メールやイントラネットに接続できるタブレット端末もしくはノートパソコンを貸与することで、休業者が復帰予定の3カ月前から自宅で社内情報を閲覧できるようにしています。利用開始時には上司と面談することを必須としているため、復帰後の働き方を事前に相談する機会を提供することにもつながっています。

休業中、職場と疎遠になることは、復帰後の円滑な職務の妨げにもなります。このしくみを利用すれば、休業者は家庭にしながら社内情報をリアルタイムに入手できるうえ、メールのやりとりを通じて職場とのコミュニケーションの強化が図れます。疎外感や孤独感にさいなまれることなく休業中を過ごし、生き活きと元の職場に復帰できるよう配慮した、IT活用型の支援制度です。

ワークライフバランス支援制度の利用促進

シスメックス株式会社では、イントラネット上の専用サイトでワークライフバランス支援制度についてわかりやすく解説しているほか、説明会なども開催し、周知を図っています。また、特に利用を推奨している制度については、メールで対象者に個別に案内を出しています。

従業員満足度向上に向けた取り組み

シスメックスでは、2年に1回、グループ全従業員を対象とした「企業風土調査」を実施しています。その中で従業員満足度についても調査を行っています。調査結果は各部門にフィードバックし、満足度向上に取り組んでいます。調査のスコアが伸び悩んだ部門に対しては、人事部門のメンバーが訪問して改善のためのアドバイスなどを実施しています。部門に対してだけでなく、個人に対しても人事部門のメンバーがインタビューを行い、風土改革に向けた課題の特定と改善策の検討を図っています。

また、日本人とは異なる感性や文化的背景を持った外国人従業員からの要望をヒアリングする場を設け、職場環境の改善に努めています。例えば、社員食堂でのベジタリアン向けメニューの導入や社内掲示物の英語化は、外国人従業員の要望で実現したものです。従業員満足度の向上は、CSR中期計画の目標にも掲げているシスメックスの重点課題のひとつであり、今後も取り組みを加速させていきます。

海外のグループ会社においても、それぞれ従業員満足度調査を実施し、満足度向上のための取り組みを実施しています。

海外事例（アメリカ）：ワークライフバランス管理に資するさまざまな制度を運用

シスメックス アメリカでは、多様な働き方を可能にする制度として、社員の在宅勤務を認めるとともに、必要な機器などを支給しています。また、希望する社員にはパートタイム、フレックスタイムでの勤務形態も選択肢として提示しています。

これに加えて、日々快適に仕事ができるよう、ドレスコードをカジュアルなものにするなどの配慮も行っています。また、有給休暇のほか慶弔休暇、家族休暇、医療休暇など各種の休暇制度を用意しています。このほか、外部サービス会社と契約し、急に家族が病気になった場合などにサポートが受けられるようにするなど、育児や介護と仕事の両立を支援しています。

働きやすい職場づくりに関するさまざまな取り組みが認められ、2015年度には、「Companies that Care Honor Roll 2016」に選出されています。米州地域ではこのほかにも、子会社のシスメックス ブラジルが「Great Place to Work Brazil」に選定されるなど、働きやすい会社としての評価を確立しています。



シスメックス ブラジルの従業員

海外事例（ヨーロッパ）：働きやすい環境づくりを推進

シスメックス ヨーロッパでは、フレックスタイムや短時間勤務制度を整備し、従業員の多様な働き方を支援しています。また、3歳以下の子どもを持つ従業員を対象として児童手当を支給しています。さらに、従業員の健康管理にも注力しており、トレーニングルームの併設をはじめ、スポーツや栄養管理のプロから指導を受けることができる健康管理プログラムなども充実させています。

これらのほかにも、本社内に従業員が憩談しやすい広いカフェスペースを設け、無料でランチを提供したり、オフィスの1部屋を1名～3名の少人数で利用し、私物を持ち込んで「個人のスペース」として利用できるようにするなど、従業員がリラックスして働けるようさまざまな工夫をしています。こうした取り組みが認められ、「Great Place to Work 2016」に選定されました。



働きがいのある会社
「Great Place to Work」
に選定（3期連続）

労働者の権利の尊重

組合結成の自由と団体交渉の権利の尊重

グローバル・コンパクトに参加するとともに、ILO中核的労働基準を支持

シスメックスは、グローバル・コンパクトに参加するとともにグローバルコンプライアンスコード内にILO中核的労働基準への支持を明記し、組合結成の自由と団体交渉の権利を尊重しています。

シスメックス株式会社の労働組合であるシスメックスユニオンには、正社員のうち、役職者や管理部門の一部を除く全員が加入しており、全従業員に占める組合員の割合は、2015年度は58.3%となっています。また、中国の済南シスメックス、シスメックス 無錫、シスメックス タイランド、シスメックス ベトナム、ハイフエンバイオメドにおいても労働組合が結成されており、定期的に団体交渉などを実施しています。

労使の対話

グループ各社で労働組合との対話を実施

シスメックス株式会社では、2015年5月にシスメックスユニオンとの団体交渉を実施し、賃金のベースアップに関して評価と資格給に応じた傾斜配分を行うと同時に、資格給の見直しを行うことを決定しました。

また、2015年度には労使協議会を8回開催し、賃金適正化や労働時間管理、厚生年金基金の改定、働きがいの向上などについて議論しました。また、海外のグループ会社においても、地域ごとの状況にあった方法で労使対話を実施しています。

従業員の声を経営に反映

シスメックスでは、2年に1回、グループ全従業員を対象とした「企業風土調査」を実施しています。全100項目以上の質問に対する回答を分析し、組織内にある暗黙のルールや価値観、また各種施策の効果を把握することで、当社グループが抱える課題の抽出と解決に役立てています。

安全と健康への配慮

職場の安全・衛生の確保

グローバルコンプライアンスコードにおいて、職場の安全・衛生の確保を明示

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコードに「職場の安全・衛生の確保」に取り組むことを明示し、さまざまな活動に展開しています。

グローバルコンプライアンスコード（抜粋）

8-4 職場の安全・衛生の確保

誰もが安心して働けるよう、各国・地域の安全・衛生関連法令等を遵守するとともに、心身の健康の維持向上に取り組み、安全で快適な職場づくりに努めなければならない。

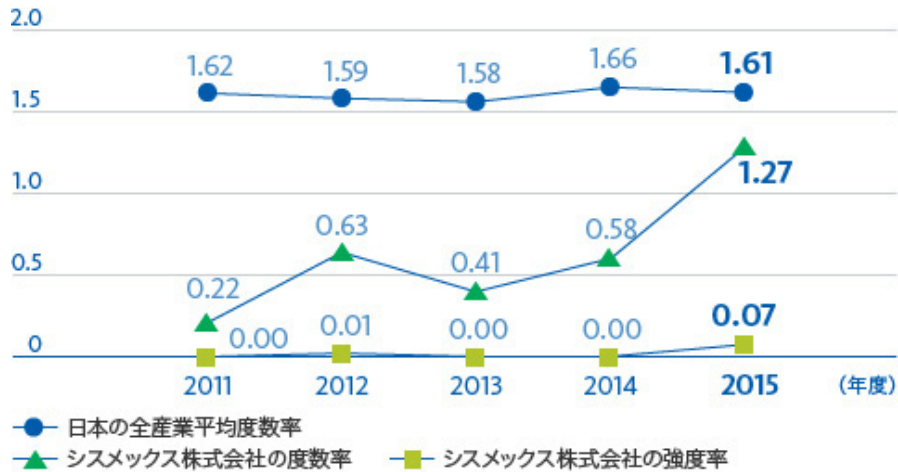
役員・従業員が協力して安全衛生の確保を推進

シスメックス株式会社は、従業員の安全衛生を確保するための指針として「安全衛生規程」を定め、事業所ごとに、各事業所長と従業員代表が参加する安全衛生委員会を定期的を開催し、安心して働ける職場づくりに努めています。同委員会では、ヒヤリハット事例や労働災害事例だけでなく、職場巡回を通じて把握されたリスクについても、リスクアセスメントの考えに基づいて、原因を洗い出し、短長期の対策を審議しています。さらに、労使協議会においても、安全衛生について協議しています。また、産業医面談の実施回数や休業者・過重労働対象者数の状況を、随時、人事担当役員に報告する体制をとることにより、健康と安全に関するリスクを経営層が把握し、対処するようにしています。

また、万一事故や急病人があっても対応できるよう、事故発生時の応急措置や退避方法、危険性のある機械や原材料の取り扱い方などについて教育を実施しているほか、AED研修、市民救急救命士講習も定期的を実施しています。災害時の対応に関する訓練も適宜実施しており、2015年度には新設のグローバルコミュニケーションセンターを含む各拠点で避難訓練などを行ったほか、有機溶剤を扱う工場などでは、溶剤の漏洩を想定した模擬訓練も実施しました。

2015年度の労働災害度数率は、1.27（負傷者7名、死亡者0名）、強度率は0.07となっています。

労働災害度数率/強度率（シスメックス株式会社）



注) 労働災害度数率: のべ労働100万時間あたりの死傷者数の割合。
労働災害強度率: のべ労働1,000時間あたりの労働損失日数の割合。

過重労働の防止

シスメックス株式会社では、心身の健康を妨げる要因となる長時間労働の防止にも注力しています。関連法令を遵守することはもちろんのこと、時間外・休日労働時間に関して厚生労働省の指針よりも厳しい社内基準を設け、この基準を上回った場合、その上長へ連絡して業務改善を図るとともに、本人から自己チェック票を提出させ、必要に応じて産業医との面談を実施しています。

海外事例（ブラジル）：OHSAS18001[※]の認証を取得

シスメックス ブラジルは、労働安全衛生マネジメントシステムの国際的な規格であるOHSAS18001の認証を取得しています。

※ OHSAS18001: 1996年にイギリス規格協会（BSI）が発行した規格BS8800をもとに、約30の各国審査登録機関、標準団体などが集まって1999年に発行された規格。

海外事例（中国）：工場での安全・快適な職場づくり

中国の2つの試薬生産工場の1つシスメックス 無錫では、OHSAS18001に基づく厳密な労働管理を実施。安全衛生委員会を設置して労働災害などの状況を把握し、業務改善や防災訓練などさまざまな取り組みを進めています。

もう1つの試薬生産工場、済南シスメックスでは、従業員が安心して快適に働ける職場づくりを目指して、安全で衛生的な労働環境の整備に努めています。例えば、重量物製品の搬送を機械化することで、労働災害の低減を図っています。また、快適な職場環境にするために、作業室はリフレッシュ効果が高いといわれる自然光を取り入れ、明るく健やかな空間を形成しています。さらに、食堂やレクリエーション室などの福利厚生施設も充実させるとともに、屋外にビオトープや散策小路なども設け、自然に触れることで気分をリフレッシュできるようにしています。

健康の維持・向上

心身の健康の維持・向上

シスメックス株式会社では、定期健康診断に加え、人間ドックや女性がん検診などを実施し、疾病の早期発見に努めています。医療機器を取り扱う当社の業態上、業務によっては病原菌などに接する機会もあることから、こうした業務の従事者に対しては、法定の特殊健康診断に加え、B型・C型肝炎検査を含む独自の健康診断を年2回の頻度で実施しています。また、2015年12月には、「がん対策推進企業アクション^{※1}」および「知って、肝炎^{※2}」パートナー企業に登録しました。

また、ストレスチェック法改正に先がけ、2009年度から継続して、従業員のメンタルチェックやハラスメントに関する状況把握を行う「ココロの健康診断」を年1回実施しています。この結果を人事委員会で役員に報告するほか、本部長・部長層へもフィードバックし、研修などの機会に振り返りを行うことで、労働環境の改善に役立てています。2015年度にはこの取り組みの対象範囲を国内グループ全体へ拡大しました。また、健康相談に関しては、全社的な窓口を設け、産業医、保健師と面談できる体制を整えており、メンタルヘルスについては外部相談機関（EAP）も設置しています。

こうしたメンタルヘルスケアに関する施策をグループとして充実させていけるよう、2015年度に「心の健康づくり計画」を策定しました。この計画に基づき、メンタルヘルス推進担当者を対象として関連資格の取得支援を進めているほか、産業カウンセラーによる「メンタルヘルス研修会」などを随時実施しています。

また、万が一長期的な休業が必要になった場合も、経済的な補償制度や、復帰時の「ならし出社制度」を設けるなど、安心して働ける環境を整えています。さらに、健康維持のための福利厚生施設として、ソリューションセンターの敷地内にグラウンドやテニスコート、トレーニング設備を備えた体育館なども設けています。また、従業員自身に健康への関心を持ってもらうためのイベント・セミナーや、社員食堂でのヘルシーメニュー提供も実施しています。

※1 がん対策推進企業アクション：厚生労働省の委託によるプロジェクト。職場での取り組みを通して、日本のがん検診受診率を50%に引き上げることを目指す。

※2 知って、肝炎：肝炎に関する知識や肝炎ウイルス検査の必要性をわかりやすく伝えることで、早期発見・早期治療の実現を目指す厚生労働省のキャンペーン。

健康イベントの実施

シスメックスでは、従業員の健康への関心を高めるためのキャンペーンなどを実施しています。2015年度には、12月と2月に「ウェルネスフェア」と題してパネル展示や管理栄養士による相談などを実施。骨粗しょう症や高血圧についての情報提供に努めました。

こうした取り組みのほか、インフルエンザの予防方法を周知するなど、健康管理に役立つ情報を随時社員に提供しています。



ウェルネスフェア

海外事例（アメリカ）：従業員が無料で利用できるフィットネスセンターを設置

シスメックス アメリカでは、健康増進への配慮として、従業員が無料で利用できるフィットネスルームを設置しています。

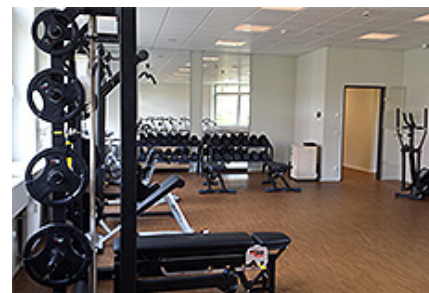
また、毎年フィットネス手当・健康手当を支給し、必要な機器の購入などを支援しています。さらに、健康診断やインフルエンザ予防接種の費用なども補助しています。



フィットネスルーム

海外事例（ヨーロッパ）：スポーツを通じて健康を増進

2014年度、シスメックス ヨーロッパでは各種スポーツ器具を備えた「シスメックスジム」を開設しました。本施設では、キックボクシングやピラティスをはじめ、さまざまなスポーツ教室を開催しています。また、多くの従業員にスポーツに興味を持ってもらえるよう、プロのコーチによる入門トレーニングや専門家によるマッサージも提供し、楽しみながら健康管理にも取り組める環境を整えています。



シスメックスジム

社会貢献活動

行動基準

法令遵守はもとより、常に高い倫理観にもとづいた事業活動を推進し、社会の全ての皆様に安心を届けます。環境問題をはじめ地球や社会が抱える様々な問題の解決に、社会と共に取り組みます。



> 社会貢献方針

シスメックスは、健康社会や地域社会に積極的に貢献するとともに、従業員の主体的な活動を支援します。

> 地域社会への貢献

事業拠点を置く世界各地で、地域の課題解決に貢献するためにさまざまな活動を展開しています。

> 健康社会づくり活動

医療産業都市構想への参画をはじめとして、医療の発展や健康な社会の構築に貢献するさまざまな活動を展開しています。

> 従業員の社会貢献活動の推進

「社会貢献ポイント制度」を制定し、従業員に対して積極的なボランティア参加を促しています。

社会貢献方針

社会貢献活動の方向性を示した方針を制定

社会貢献方針

シスメックスは、豊かな健康社会、生き活きとした地域社会作りにつながる社会貢献活動を積極的に行うとともに、従業員の主体的な社会貢献活動を支援します。

- **豊かな健康社会への貢献**

ヘルスケア企業としての特徴を活かした社会貢献活動を積極的に展開し、より豊かな健康社会づくりに貢献します。

- **生き活きとした地域社会への協力**

「企業市民」として社会と価値観を共有し、社会貢献活動への賛助ならびに自らもその活動に参画することにより、生き活きとした地域社会の実現に協力します。

- **従業員の社会貢献活動への支援**

従業員がグループの一員であることに誇りをもち、市民として社会貢献活動を主体的に実践できるように支援します。

2012年5月制定

健康社会づくり活動

国内での活動

神戸医療産業都市構想への参画

「神戸医療産業都市構想」は、産官学が協力して神戸市への医療・産業の集積を図るプロジェクトです。

シスメックス株式会社は、プロジェクトの中心的な拠点の1つである「臨床研究情報センター」内に「シスメックスIBRI」を2014年3月に開設し、さまざまな医療機関・企業等と共同研究を促進する場（オープンラボ）として、研究の幅をさらに広げています。

寄附講座の開設を通じた医療への貢献

2004年度から、神戸大学大学院医学研究科に寄附講座「立証検査医学（シスメックス）」を開設し、新規の臨床検査技術の共同研究を進めてきました。現在、同講座では、当社の中央研究所と共同で、HDL（高比重リポタンパク）機能の評価により心疾患のリスクを高精度かつ簡便に診断する技術の開発を行っています。今後も、科学的根拠に基づいた検査医学の研究を通じて、新たな検査技術の確立や技術の実用化を目指した研究開発に取り組むとともに、地元大学への支援などを通じて地域社会へも貢献していきます。



活動報告の様子

財団を通じた医療への貢献

電子計測技術の発展を支援するために設立した「中谷電子計測技術振興財団」は、2012年に公益財団法人に移行するとともに「公益財団法人中谷医工計測技術振興財団」と改称し、医工計測技術分野および関連技術分野についての研究助成と「中谷賞」による研究者の表彰を実施しています。

2014年度には設立30周年を迎え、新たに留学助成や中学・高校の科学教育振興助成をスタートさせました。さらに2015年度には、科学教育振興助成をグローバルに展開すべく理系大学生の国際交流プログラムを創設し、2016年夏にまず日米間で実施します。設立以来、2015年度までの技術開発研究の延べ助成件数は377件、累計助成金額は約9億5,000万円※となっています。

※ 累計助成金額は、2年にわたり助成する特別研究助成を含む。

献血への継続的な協力

献血時に用いる検査機器を提供しているシスメックスでは、従業員も積極的に献血活動に参加しています。2015年度は、14の事業所で献血を実施し、延べ約250名の従業員が参加しました。

また、ヘルスケア企業として日本赤十字社への支援を高めるために、2014年度から「献血サポーター企業」に登録しています。



献血活動（本社）



「がん対策推進企業アクション」推進パートナーへの登録

シスメックス株式会社は2014年度に剥離細胞分析装置「LC-1000」を発売し、将来的に子宮頸がん検診に活用いただくことを目指しています。これを踏まえて、社会貢献の分野においても、子宮頸がん検診の受診率向上を図る啓発活動を進めていく予定です。

この一環として、2015年度には、がん対策推進企業アクションに登録しました。これは、厚生労働省が統括・運営する国家プロジェクトで、企業・団体の協力のもと、国内でのがん検診受診率50%を目指すものです。登録企業は、社内での啓発活動や情報発信、本業における価値創造などを通して、がん検診の受診率向上を図ります。

当社では、子宮頸がん検診に関する社内教育などを積極的に実施する予定です。また、社外での関連イベントにも積極的に参加していきます。2016年4月には、「平成28年度子宮の日 LOVE49 in KOBE」に参加し、医療関係者や地域の大学生など他の参加者と交流し、今後の取り組みに役立つ多くのヒントを得ることができました。



がん対策推進企業アクション 登録証

市民救命士講習会の開催

シスメックス株式会社では、毎年、本社、テクノパーク、ソリューションセンターで「市民救命士講習会」と「AED研修」を開催しています。市民救命士講習とは、消防署や神戸市の認定を受けた民間救急講習団体（FAST）が実施する講習で、傷病者が発生したときにその場で適切な対処を行える市民救命士の育成を目的としています。

一人でも多くの従業員が救命に向けた知識と技術を身につけるよう促すことで、安心な社会づくりに貢献します。



市民救命士講習会での訓練

海外協力事業への協力

シスメックスでは、海外協力事業として、外務省やJICAなどによる新興国・途上国の医療水準向上に関わる事業への機材提供（円借款および無償援助案件等）に参加しています。

また、毎年、JICAの研修生を当社施設に受け入れ、研修を実施しています。

2015年度には当社のアイスクエアなどで計3回の研修を実施し、アフリカや大洋州、中央アジアなどからの研修生が受講しました。



JICA研修生

アトピー性皮膚炎に関する公開講座を開催

シスメックス株式会社は、アトピー性皮膚炎の重症度を確かめる上で有効な血液検査方法である「TARC検査」の重要性を一般の方に広く知っていただくため、2016年2月に広島で市民公開講座「アトピー性皮膚炎を正しく知る～要因から最新の治療まで～」を支援いたしました。この講座は、地元新聞社主催、日本臨床皮膚科医会広島県支部、広島皮膚医会共催により開催されました。

当日は、広島大学大学院より講師を招き、「アトピー性皮膚炎と汗の関係」のテーマで講演を実施。アトピー性皮膚炎に関する最新の研究結果をわかりやすく伝えました。さらに、大阪府立呼吸器アレルギー医療センターの医師による特別講演「もう迷わないで！アトピー性皮膚炎の正しい知識と治療」も行われ、患者やそのご家族の方など、約480名に参加いただくことができました。

今後も、高精度で使いやすい医療機器を供給するだけでなく、それを用いた検査の意義を周知することによって、事業を通じ社会に貢献していきます。



公開講座の様子

教育・啓発のための絵本を作成

病気や検査に関する教育・啓発のための絵本を作成し、病院・診療所などの医療機関に配布して、待合室などに置いていただいています。病気の特徴や検査・治療の方法について、わかりやすく紹介したもので、医学の知識が少ない方や子どもにも興味を持って読んでもらえるよう、物語形式としています。



絵本

海外での活動

がんの予防や研究を支援する団体に継続して寄付を実施（アメリカ）

シスメックス アメリカでは、健康な社会づくりへの貢献を目指して、がんの予防や研究を支援している団体に継続して寄付を実施しています。

2015年度は、アメリカとカナダの癌学会、アメリカ心臓協会、白血病リンパ腫協会に合計で8万ドル以上（約900万円）※を寄付しました。

また、これらの団体が開催するイベントに、従業員がボランティアとして積極的に参加しました。



チャリティーウォークに参加した従業員

※ 募金活動で集めた寄付金を含む。2016年3月末レート 1ドル=113円換算。

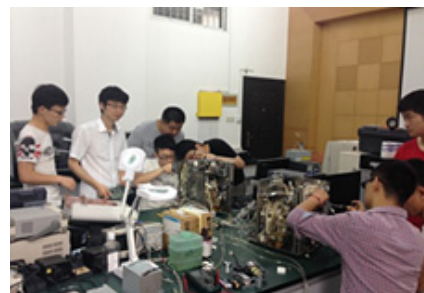
がん撲滅を目指したキャンペーンを展開（ヨーロッパほか各地）

2015年度から2016年度にかけて、EMEA※の従業員ボランティアが中心となって、がん撲滅を目指したキャンペーン「Sysmex Against Cancer」を展開しました。各地域の従業員が自ら募金イベントを企画・開催し、がん予防に関する啓発や研究支援に取り組む非営利団体「世界がん研究基金」に約3,150万円の寄付を実施しました。その寄付金は、がん予防に関するさまざまな研究プロジェクトや研究報告書の発行、啓発キャンペーンなどに活用されました。

※ 欧州・中東・アフリカ地域。

大学と共同でエンジニアを育成（中国）

検査ニーズが急速に高まっている中国では、専門的な知識と技術を備えた臨床検査機器のエンジニアの育成が急務となっています。そこでシスメックス 上海は、Shanghai Medical Instrumentation College (SMIC) との共同プロジェクトとして、エンジニアを養成する研修拠点を運営しています。2015年度は、同拠点で検査機器のリペアとメンテナンスの教育を受けた30名以上の受講者が卒業後にヘルスケア分野の仕事に就くことができました。



エンジニア育成風景

尿検査を無償で提供（フィリピン）

フィリピンでは、公衆衛生意識の向上を目的としたテレビ番組「Salamat Dok（ありがとうお医者さん）」が放送されています。

シスメックス フィリピンは、同番組が2015年9月に開催したイベント「尿の日」に協力し、フィリピン医療技術者協会と共同で約100名の方に無償の尿検査を提供しました。



検査を提供したシスメックス フィリピンの従業員

海外での献血活動（各地）

シスメックスのグループ会社では、身近な医療課題の解決に少しでも貢献したいとの考えから、献血に積極的に協力しています。2015年度は以下の活動を実施しました。

- 献血キャンペーンを実施（2015年8月、シスメックス アメリカ、シスメックスリージェンツ・アメリカ、シスメックス アイノスティクス）
- 世界献血者デー2015にあわせて献血を実施（2015年6月、シスメックス ニュージーランド）

心臓疾患を抱える子どもたちを支援（ニュージーランド）

シスメックス ニュージーランドは、先天的な心臓疾患を有する子どもたちを支援するため、毎年、社内で募金活動を実施しています。

多発性硬化症患者の支援活動に参加（ニュージーランド）

シスメックス ニュージーランドは、多発性硬化症[※]の患者さんを支援する団体が開催した募金活動および啓発を目的としたイベントの支援を行いました。

※ 脳や脊髄、視神経などの神経細胞が同時多発的に異常を生じ、さまざまな症状を引き起こす病気。

医療体制構築に取り組むNPO法人を支援（ケニア）

ケニアでHIV/AIDSの医療体制構築に取り組んでいるNPO法人「イルファア」に対して、シスメックスは2010年度に血液分析装置を寄贈して以来、継続的な支援を行っています。同団体はHIV/AIDSに関する教育活動や無料診療を現地で定期的実施しており、2015年9月にケニア・プムワニ村などで実施した無料診療には2,700名以上の地域住民が訪れました。シスメックスは2015年度、1,190名分の検査費用に相当する金額を同団体に寄付しました。



シスメックスが寄贈した血液分析装置

地域社会への貢献

コミュニティ発展への貢献

第5回神戸マラソンに協賛

シスメックス株式会社は、阪神・淡路大震災からの復興に手を差し伸べていただいた皆様への感謝の気持ちを込めて毎年神戸で開催されている「神戸マラソン」に、第1回大会から特別協賛しています。

2015年11月に開催された第5回大会にも特別協賛するとともに、ランナーゼッケンなどの提供やボランティアによる運営支援を実施しました。また、同時開催の「神戸マラソンEXPO」にも出展しました。

同大会による経済効果額は、兵庫県内だけで約75億円と算出されています。



従業員による給水ボランティア

地域の方々との交流イベントを開催

シスメックス株式会社は、地域住民の方々を当社施設にお招きし、交流を深めるイベントを毎年開催しています。2015年5月にはテクノパークの庭園を開放し、近隣住民の方に散策を楽しんでいただくイベントを開催し、約500名の方々にご来場いただきました。当日は「やさしくわかる糖尿病とその検査」というテーマの講演会や、採血せずに血液中のヘモグロビン推定値が測定できる当社製品「ASTRIM FIT」による健康チェックなども実施し、医療や検査に興味を持っていただけるよう努めました。



テクノパークの庭園開放

新設のグローバル コミュニケーション センターでも、7月の地域合同防災訓練にあわせて内覧会を開き、会社紹介プレゼンや学術資料の展示、

「ASTRIM FIT」による健康チェック体験を実施。約70名の方にご来場いただきました。このほかソリューションセンターでも、施設内に展示している地元出身の画家・西村功画伯の絵画約60点を一般公開するイベントを10月に実施し、約140名の方にご来場いただきました。

また10月には、前年度に引き続いて「みなと異人館」を一般公開しました。みなと異人館は1906年に建造された神戸市の歴史的建造物で、老朽化のため2008年から閉鎖されていました。これを2012年9月に当社が借り受



みなと異人館

け、修繕した上でゲストハウスとして活用しています。一般公開では、館内を公開するだけでなく、神戸の歴史を紹介する写真展や、一般の方に気軽に楽しんでもいただけるジャズコンサートなどのイベントを併催し、約350名の方々にご来場いただきました。今後も定期的に地域の皆様へ公開していく予定です。

さまざまなイベント・団体を支援し、地域振興・文化の発展に貢献

シスメックス株式会社は、地元兵庫県の地域振興と文化の発展を目的とするイベントや団体に対して寄付や協賛を通じて支援しています。

例えば、1995年阪神・淡路大震災で亡くなられた方々の鎮魂の意を込めるとともに神戸の復興・再生への夢と希望を託して始まった「神戸ルミナリエ」に毎年協賛しています。また、神戸市立王子動物園の「動物サポーター制度」に協力しています。「動物サポーター制度」は、企業や個人が動物のサポーターとなって動物園の運営を支援するもので、当社はパンダのサポーター企業となっています。その他にも、以下のような団体やイベントを支援しています。

地域振興の支援

- 第45回神戸まつり
- こうべ海の盆踊り
- 第88回兵庫県小・中・高校絵画展
- ジャパン・ヴィルトゥオーゾ・シンフォニー・オーケストラ 第4回兵庫公演（ほか）

文化関連事業の支援

- 兵庫県立美術館（ほか）

その他

- 公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）
- 官民協働海外留学支援制度「グローバル人材育成コミュニティ」
- 国際連合世界食糧計画WFP協会
- 公益財団法人計算科学振興財団
- セーブザチルドレン
- 中谷医工計測技術振興財団
- 神戸医療産業都市
- 加川広重 巨大絵画が繋ぐ東北と神戸2015（ほか）

地元のスポーツチームに協賛

シスメックス株式会社は、地元神戸のスポーツチーム活性化を目的に、Jリーグ所属のサッカーチーム「ヴィッセル神戸」に協賛しています。

こうした取り組みによって地域振興を図るとともに、スポーツを通じた健康な社会づくりにも貢献していきたいと考えます。

海外事例（アジア・パシフィック）：地域の課題解決に向けてさまざまな活動を実施

アジア・パシフィックのグループ各社では、各地域の課題解決に貢献するためにさまざまな取り組みを展開しています。2015年度は、各地で以下のような活動に取り組みました。

- CEOや従業員が地元の老人介護施設を訪問。入居者とともに歌を楽しんだり、写真フレームづくりや折り紙などのアクティビティを実施。（シスメックス アジア・パシフィック）
- 近隣地域の障がいを持つ子供たちとの交流会を開催。ラマダンあけの夕食や、音楽演奏などのパフォーマンスを提供。（シスメックスマレーシア）



老人介護施設訪問（シスメックス
アジア・パシフィック）



障がいを持つ子供たちとの交流会
（シスメックス マレーシア）

海外事例（アメリカ）：「Companies That Care Honor Roll」を8年連続受賞

シスメックス アメリカは、「Companies That Care Honor Roll 2016」（米国NPO法人「Companies That Care」主催）を受賞しました。同賞は、リーダーの育成や従業員の報酬・福利厚生の充実、ワークライフバランス・働きやすい職場環境の推進、および地域でのボランティア活動などで優れた取り組みを実施している企業が選定されるもので、当社は、2009年以降連続で受賞しています。



海外事例（ドイツ）：障がい者支援団体に一部業務を委託

シスメックス ヨーロッパは、試薬工場での材料選別などを、障がい者の自立支援に取り組んでいる団体に業務委託し、障がい者の方々に自社の製造ラインで作業に取り組んでいただいています。

災害被災地の支援

熊本地震の被災地を支援

2016年4月、熊本県を震源とする震度7の地震が起こり、本震以降も熊本県や大分県などで大規模な地震が相次いで発生しました。シスメックス株式会社は、この地震による被災者の救済と被災地の復興に役立てていただくため、日本赤十字社を通じて1,000万円を被災地に寄付しました。また、グループ従業員による募金活動も実施し、約130万円を寄付しました。

次世代育成への貢献

青少年の育成支援

シスメックス株式会社では、兵庫県下の中学生を対象に実施されている職場体験プログラム「トライやるウィーク」や、兵庫県下の理数系の高校生が研究成果を発表し、企業、大学、研究機関と交流するイベント「サイエンスフェアin 兵庫」に毎年参加しています。

2016年1月に開催された「第8回サイエンスフェアin兵庫」では、採血せずに血液中のヘモグロビン推定値が測定できる当社製品「ASTRIM FIT」による健康チェックや事業紹介のポスター掲示などを実施しました。約200名の方々に測定を体験していただき、好評を博しました。

インターンシップ・企業見学の受け入れ

シスメックス株式会社では海外の学生も積極的に受け入れており、2015年度は、インド工科大学の学生4名をインターンシップ生として受け入れたほか、アメリカのUC Berkeleyから1名を受け入れ、シスメックス独自の技術を学んでもらいました。

また、2015年4月には、官民協働留学制度「グローバル人材育成コミュニティ」に参画することを決定しました。この制度は独立行政法人日本学生支援機構が創設したもので、意欲と能力のある若者に留学機会を提供できるよう、企業、国、大学などが協力して、留学機運の醸成や留学参加者のネットワークづくりなどを支援するものです。

このほか、フランスのグループ会社、ハイフェン バイオメッド（HYPHEN BioMed）でも、現地の学生20名による企業見学を受け入れました。

自然保護・クリーン活動

森林保全活動・清掃活動

シスメックスでは、地域の水源涵養と生物多様性保全への貢献を目指し、森林保全活動を推進しています。また、各地で清掃活動に取り組んでいます。

従業員の社会貢献活動の推進

社会貢献活動ポイント制度

従業員のボランティア活動を推進

シスメックスは「社会貢献ポイント制度」によって 従業員のボランティア活動を促進しています。この制度は、従業員が地域のボランティア活動に参加したり、会社主催の社会貢献イベントに参加するとポイントが付与され、そのポイントに応じて会社が寄付を実施するものです。2015年度は、清掃活動や古本回収などの活動が活発に行われ、その結果、2014年度の97万円を上回る126万円分を開発途上国の子どもたちに寄付することができました。



(c) UNICEF/NYHQ2014-0987/Campeanu 提供：（公財）日本ユニセフ協会



清掃活動

国内グループ従業員の約31%、1,042名が参画
合計12,655ポイント=1,265,500円分を寄付

子ども向け教材 440 名分
栄養素パウダー 62,250 包分
ポリオワクチン 34,560 回分

環境保全活動

行動基準

法令遵守はもとより、常に高い倫理観にもとづいた事業活動を推進し、社会の全ての皆様に安心を届けます。環境問題をはじめ地球や社会が抱える様々な問題の解決に、社会と共に取り組みます。



＞ 環境マネジメントの取り組み

環境方針に基づき、長期・中期の目標を設定し、目標達成に向けてグループで環境負荷低減を意識した活動に取り組んでいます。

＞ 事業所活動の環境配慮

直接および間接の温室効果ガス排出、廃棄物の排出や水の使用など、事業所で生じる環境負荷を把握し、低減に努めています。

＞ グリーン調達

「グリーン調達基準」を制定し、サプライヤーの皆様と協力して製品の環境負荷低減に取り組んでいます。

＞ 製品・サービスのライフサイクルにおける環境配慮

製品・サービスのライフサイクルの視点から環境に関する法規制への対応や、環境負荷低減に向けた取り組みを進めています。

＞ その他の環境活動

地球環境問題を深刻な課題と認識し、各地域で従業員ボランティアによる環境保全活動を展開しています。

＞ パフォーマンスデータ集

環境パフォーマンスデータを定量的に把握し、環境負荷低減につながる活動の成果確認や目標設定に活用しています。

環境マネジメントの取り組み

環境方針

環境方針

私たちは、ヘルスケア分野にかかわる企業として、地球環境保全活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

行動基準

1. 環境保全を重視した事業活動を行い、社会の全ての皆様に安心をお届けします。
2. 製品のライフサイクルの各段階において、環境への影響を考慮し、環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
3. すべての事業活動において、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、リサイクルを推進し、化学物質の適正管理に努めます。
4. あらゆる国または地域の適用される環境に関する法令、規制、協定などを遵守します。
5. 環境保全活動の継続的な改善を行い、汚染を予防し、私たちの製品が環境に与える影響を最小限にするように努めます。
6. 環境教育・啓発を通じて環境意識の向上を図るとともに、地域・社会の一員として環境保全活動を通じた社会貢献に取り組みます。
7. 環境方針から環境目的・目標を設定し、計画的に目標達成に取り組みます。

2009年5月改定

環境マネジメント体制

グループで環境マネジメントに取り組む

シスメックスは、グループ各社の責任と役割を明確化した「グローバル環境マネジメント規程」を制定し、シスメックス株式会社の専務執行役員が務める環境マネジメントオフィサーの統括・管理の下、グループで環境マネジメントに取り組んでいます。環境マネジメントオフィサーを委員長とする「環境管理委員会」では、方針やグループ環境目標などの重要事項の審議、マネジメントレビューなどを実施しています。

長期・中期の環境目標を設定

シスメックスは、長期的な環境マネジメントの指針として、2020年度を達成期限とする長期環境目標「シスメックスグループ環境行動計画（シスメックス・エコビジョン2020）」を策定し、目標達成に向けてグループで継続的に環境影響の改善に取り組んでいます。

環境行動計画は、気候変動・資源循環などの環境問題に関する社会情勢やニーズ・期待、当社の及ぼす環境影響およびその範囲を考慮して取り組むべき課題を抽出し、2010年度に環境管理委員会での審議を経て設定しました。内外の環境変化にともない2015年度に一部改訂し、国内・域間物流のCO₂排出量削減の目標値について、単位を従来の「トンキロ原単位」から「単体売上高原単位」に改め、積載効率の向上による効果が反映されるようにしました。

また、グループの経営戦略の更新にあわせて、3年ごとに環境行動計画の目標達成に向けた「中期環境目標」を策定しています。現在は、2017年度を最終年度とする「中期環境活動計画（2015～2017年度）」の達成に向けて取り組みを進めています。

シスメックスグループ環境行動計画（シスメックス・エコビジョン2020）

中期環境目標の目標と実績

	シスメックス・ エコビジョン2020の 長期環境目標 (改訂版)	中期環境目標 (2015～2017年度)	2015年度の活動・実績
製品・ サービス 等の環境 配慮	環境に配慮した製品・ サービスの提供	環境に配慮した製品・ サービスの提供	- 対象製品のRoHS指令適合宣言を完了。 - 免疫測定や凝固測定の新製品開発において、省電力、小型化の取り組みを継続。 - 免疫測定や凝固測定の試薬において、脱動物由来原料の開発を継続。 - 免疫測定の濃縮試薬採用により、試薬交換回数を低減して廃棄物の削減を実現。 - 廃棄物の削減につながるリユース梱包材の対象機種を追加。 - お客様からお問い合わせやサービス依頼に対する電話およびネットワークサービス（リモート接続対応）での解決率の向上（自動車訪問件数の低減によるCO₂排出量削減）
	国内・域間物流のCO ₂ 排出量50%削減 (単体売上高原単位) ※1 基準年度 2010年度	国内・域間物流のCO ₂ 排出量45%削減 (単体売上高原単位) ※1 基準年度 2010年度	海外への輸出について、航空便から海上輸送への切り替えを推進。 実績（売上高原単位）： 2015年度: 3.794 (t-CO₂/億円)

			基準年度: 7.252 (t-CO₂/億円) 対基準年度: 48%削減 (排出量は、基準年度の5,400 t-CO₂に対して、5,435 t-CO₂の1%増加に抑制。)
事業所の 環境配慮	事業所における温室効果ガス排出量50%削減 (連結売上高原単位) ※2 基準年度 2008年度	事業所における温室効果ガス排出量40%削減 (連結売上高原単位) ※2 基準年度 2008年度	- 生産効率の改善および電力監視システム導入による電力消費削減を実現。 (シスメックス国際試薬) - 工場内照明の約1/2にLED照明を導入して電力消費削減を実現。(シスメックスRA) - 太陽光発電の利用によるCO₂排出量削減。(ドイツ試薬生産工場、アイススクエア) - 自然エネルギーを利用した季節間蓄熱空調システム「Ice thermal storage system※5」を導入(ドイツ試薬生産工場) 実績(売上高原単位) : 2015年度: 7.26 (t-CO₂/億円) 基準年度: 10.07 (t-CO₂/億円) 対基準年度: 28%減
	事業所のリサイクル率 93%以上の達成 ※3	事業所のリサイクル率 92%以上の達成 ※3	- 埋め立て処理していた「ガラスくず」を道路舗装材料へ再生処理することで100%リサイクルが実現。(テクノパーク) - 購買品の包装材料の再利用。(シスメックス 無錫) 実績 : 2015年度 : 89.0%
	試薬工場の水使用量10%削減 (生産量原単位) ※4 基準年度 2008年度	試薬工場の水使用量7%削減 (生産量原単位) ※4 基準年度 2008年度	- 新純水装置の導入。(済南シスメックス) - 浄化処理後の工場排水の再利用。(シスメックス インディア) 実績(生産量原単位) : 2015年度: 25.9 (m³/千箱) 基準年度: 21.5 (m³/千箱) 対基準年度: 20%増

※1 集計範囲: シスメックス株式会社

※2 集計範囲: 工場および主要事業所（13工場、7事業所）

[工場] シスメックス株式会社（加古川工場、アイスクエア）、シスメックス国際試薬（小野工場、西神工場）、シスメックスメディカ、シスメックスRA、ドイツ試薬生産工場、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫

[主要事業所] シスメックス株式会社（本社、テクノパーク、ソリューションセンター）、シスメックス ヨーロッパ、シスメックス アメリカ、シスメックス 上海、シスメックス アジア・パシフィック

※3 集計範囲: 工場および主要事業所のうち製品・化学物質を取り扱う事業所（13工場、3事業所）

[工場] シスメックス株式会社（加古川工場、アイスクエア）、シスメックス国際試薬（小野工場、西神工場）、シスメックスメディカ、シスメックスRA、ドイツ試薬生産工場、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫

[主要事業所] シスメックス株式会社（本社、テクノパーク、ソリューションセンター）

※4 集計範囲: 試薬工場（9工場）

シスメックス国際試薬（小野工場、西神工場）、ドイツ試薬生産工場、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫

※5 地中に埋めた水を冬期の外気で製氷し、その氷を夏期の冷房に利用、冬期は外気よりも暖かい地中の水から熱を吸収し、暖房に利用するシステム。

環境教育・訓練の実施

シスメックスは、グループの環境活動および、それぞれの業務がどのように環境に影響を及ぼすかを周知するために、年に一回全従業員に対してe-ラーニングなどによる一般教育を実施しています。

また、事業活動と関わりの深い部門、もしくは専門的な知識・スキルが必要な部門については、環境マネジメントシステム推進責任者および担当者を設置し、実務知識を習得するための法規制セミナーや内部環境監査員養成セミナーなどの専門教育を実施しています。また、各部門で必要に応じて専門教育や緊急事態訓練などを実施しています。

ISO14001認証の取得を推進

シスメックスでは、グループの主要な関係会社で環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の取得を進めています。2016年4月末現在、14認証（23拠点）を取得し、認証取得拠点の従業員数がグループ全体の従業員数に占める比率は67%となっています。

国内については、2013年度、シスメックス株式会社とシスメックス国際試薬の認証にシスメックスRAとシスメックスメディカの認証をあわせて、ISO14001の認証を統合しました。また、2014年度は新たに稼動した新工場「アイスクエア」を加え、国内グループ各社9拠点の環境活動を一元化して、活動の進捗状況や問題点をグループとして把握することでマネジメント活動の強化を目指しています。

会社名	事業所	取得時期
シスメックス ヨーロッパ	ドイツ試薬生産工場	1999年11月
	本社	2011年10月
シスメックス株式会社	加古川工場	2000年4月
	テクノパーク	2002年2月
	本社	2002年2月
	ソリューションセンター	2005年11月
	アイ スクエア	2015年2月
シスメックス国際試薬	小野工場	2001年3月
	西神工場	2007年6月
シスメックスメディカ	-	2001年3月
シスメックスRA	-	2008年6月
シスメックス ブラジル	-	2006年5月
シスメックス アメリカ	-	2009年12月
シスメックス リージエンツ・アメリカ	-	2009年12月
シスメックス ニュージーランド	-	2011年5月
シスメックス ドイツ	-	2011年10月
シスメックス フランス	-	2012年2月
シスメックス インディア	-	2012年3月
シスメックス アジア・パシフィック	本社試薬、工場	2012年4月
シスメックス スペイン	-	2012年4月
シスメックス ミドルイースト	-	2013年3月
シスメックス 無錫	-	2013年6月

環境リスクアセスメントの実施

シスメックスは、リスクマネジメント体制の中で、2年に1回のリスクアセスメントを実施していますが、その中で、地球規模で深刻化する環境問題に対する事業活動の影響を評価し、リスクの低減および事業機会の創出に取り組んでいます。

環境監査の実施

2015年度は、認証統合している国内グループ4社9拠点で、法規制の「順守評価」に加え、「内部環境監査」、さらに外部審査機関による「外部環境監査」を実施しました。

内部環境監査で2件不適合が見つかりましたが、是正対応を完了しています。また、外部環境監査での不適合はありませんでした。

製品・サービスのライフサイクルにおける環境配慮

環境に配慮した製品・サービス

有害物質関連法規制への対応

2011年7月に改正RoHS指令[※]が発効し、これによって当社の製品では2016年7月から検体検査機器、動物用検体検査機器に同指令が適用されることとなりました。

シスメックスは、この改正RoHS指令への適合に向けて、欧州へ出荷している製品の部品調査および代替品への変更を完了して、2015年度から改正RoHS指令への適合を宣言しました。

※ RoHS指令: EU（欧州連合）で販売される電気電子機器に含まれる有害化学物質の使用禁止を定めた指令。重金属（鉛、カドミウム、水銀、六価クロム）と、ダイオキシン類の発生原因となる特定臭素系難燃剤（PBB、PBDE）の使用全廃を要求したもの。

製品設計における環境配慮

シスメックスでは、お客様先での省エネルギーや廃棄物の低減に貢献するため、検体検査機器の省電力化、試薬使用量の低減などに向けた技術開発に取り組んでいます。

例えば、多項目自動血球分析装置「XNシリーズ」は、濃縮試薬の使用を前提に設計。濃縮化によって試薬のコンパクト化を実現し、容器・包装材料を削減して省資源化に寄与するとともに、検査室で発生する廃棄物を大幅に削減できるようになりました。さらに、従来製品よりも重量や容積が小さくなったことで、輸送効率が向上し、製品のライフサイクルを通じたCO₂排出量削減にも貢献しています。試薬のパッケージを従来のポリエチレンから紙パックに変更したことで、石油資源保全にもつながっています。

また、2015年9月に発売した全自動尿中有形成成分分析装置「UF-5000/4000/3000」においては、環境・安全性に配慮した試薬に切替えたことで、廃液の中和剤処理が不要になりました。

XNシリーズの試薬は従来試薬の25倍濃縮試薬



原料物質の生産における環境配慮

シスメックスでは、診断薬における動物由来原料のタンパク質に関して、遺伝子組み換えをしたカイコによる生産手法を確立しました。またこの技術を用いて、2012年度から受託生産ビジネスも本格的に開始しており、すでに多くの製薬企業から注文をいただいています。

従来、これらの原料は、無菌状態を保ち、温度・酸素濃度などを調整できる環境制御タンクなどの機械設備で哺乳類などの細胞から生産していたため、多くのエネルギーを消費していました。一方、遺伝子組み換えをしたカイコは一般室内飼育が可能であり、容器内で人工餌を与えるだけでよいいため、省エネルギーや廃棄物削減が期待できます。



タンパク質生産に用いられるカイコ

環境に配慮した物流体制

サービスの効率化により人の輸送に伴う環境負荷を低減

シスメックスでは、サービスを効率化することで環境負荷の低減を図っています。例えば、カスタマーサポートセンターの充実を図るとともに、SNCSによるお客様との双方向ネットワークをグローバルに構築し、検査装置のダウンタイムの最小化を図っています。

ネットワークや電話サービスを通じて、お問い合わせやサービス依頼について適切なアドバイスを提供して解決することができ、また機器状況の事前診断によって当社担当者がお客様を計画的・効果的に訪問することができるため、自動車での訪問回数を抑えて、CO₂排出量の抑制につなげています。

製品の国内・域間物流のCO₂排出量削減活動

グローバルに事業拡大を続けているシスメックスは、物流の多様化に対応した物流プロセス・体制の見直しおよび梱包改革に取り組んでいます。その中で、海外への製品輸送の航空便から船便への切り替え、製品の梱包サイズ適正化や積載シミュレーションの徹底によるコンテナ積載率向上を推進し、CO₂排出量の削減を進めています。2015年度は、新たに中国向け免疫試薬の輸送方法を航空便からリーファーコンテナ^{※1}を活用した船便へ切り替えました。

さらに、繰り返し利用できるリユース梱包などの導入や、積載シミュレーションの強化により、コンテナ積載率が、2013年度の52%から、71%まで改善され、輸送回数削減につながりました。

このような取り組みにより、CO₂排出量（売上高原単位）^{※2}は、エコビジョン2020の目標に対して、2010年度から48%減少しました。



リーファーコンテナ

※1 内部を一定の温度に保つ設備を持つコンテナ。

※2 物流におけるCO₂排出量（売上高原単位）については原単位の見直しにともない昨年度の報告数値から一部修正しています。

物流におけるCO₂排出量



集計範囲：国内物流倉庫から国内顧客および海外各地域の港、空港までのCO₂

梱包資材の見直しによる省資源化

シスメックスでは、梱包資材の見直しによる省資源化に取り組んでいます。たとえば、国内輸送においては、繰り返し利用できるリユース梱包などの導入により、段ボール廃棄物を年間で20t削減しました。2015年度は、新たに6機種にリユース梱包を追加しました。

さらに、海外輸送用に導入したスチール製の梱包材は、輸送強度を高めるだけでなく、届け先でリサイクルができ、環境負荷低減にも貢献しています。



段ボール梱包



リユース梱包

グリーン調達の推進

取引先と協力して環境に配慮した調達を推進

シスメックスでは、「グリーン調達基準」を制定し、取引先とともに環境に配慮した調達を推進しています。また、環境に配慮した部品・材料の調達を目指し、製品への使用を制限・削減する化学物質をウェブサイトで公開しています。

事業所活動の環境配慮

温室効果ガスの排出量削減

事業所の温室効果ガス排出量の削減活動

各事業所の事業活動に伴って、直接的または間接的に発生する温室効果ガスの排出量を削減するために、さまざまな活動を進めています。

工場を含む各事業所では、夏期・冬期の室温管理の徹底、階段照明などへの人感センサーの設置、省エネ空調設備への更新、LED照明の導入など、それぞれの事業所の特性にあった省エネ対策を実施しています。一部事業所では電力監視システム（デマンド監視機能）※1も設置し、電力使用量を総量で管理しています。2015年度には、シスメックス国際試薬の小野工場でプレハブ冷蔵庫の運用方法を見直し、常時稼働する台数を4台から2台に減らし、年間で39t-CO₂の排出量削減を実現しました。このほかにも、グループ会社のシスメックスRAでは、工場内照明の約1/2にLED照明を導入するなどして電力消費を抑え、CO₂排出量を7t-CO₂削減しました。

また、需要拡大にともない2015年度に拡張したドイツの試薬生産工場でも、太陽光パネルや、自然エネルギーを利用した季節間蓄熱空調システム「Ice thermal storage system」※2を導入し、エネルギー使用量・CO₂排出量の削減に努めています。

これらの取り組みの効果もあり、2015年度の温室効果ガス排出量原単位は、前年度比で約0.2%削減することができました。エコビジョン2020の目標に対しては、基準年度（2008年度）排出量（連結売上高原単位）から28%削減できました。

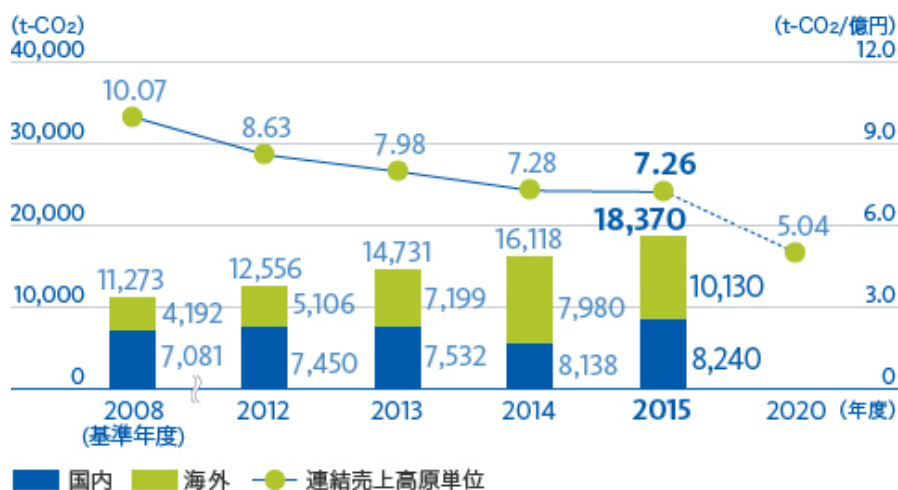


LED照明（小野工場）

※1 24時間連続して最大需要電力（デマンド値）を計測し設定した目標値を超過しそうになると警報を発信したり、電気の使用状況を日報、月報で報告する機能。

※2 地中に埋めた水を冬期の外気で製氷し、その氷を夏期の冷房に利用、冬期は外気よりも暖かい地中の水から熱を吸収し、暖房に利用するシステム。

事業所での温室効果ガス排出量



集計範囲: 工場および主要事業所

[工場]

シスメックス株式会社（加古川工場、アイスクエア）、シスメックス国際試薬（小野工場、西神工場）、シスメックスメディカ、シスメックスRA、ドイツ試薬生産工場、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫

[主要事業所]

シスメックス株式会社（本社、テクノパーク、ソリューションセンター）、シスメックス ヨーロッパ、シスメックス アメリカ、シスメックス 上海、シスメックス アジア・パシフィック

国内社用車のCO₂排出量削減

約400台ある国内の社用車からのCO₂排出量を削減するために、イントラネットを利用して各車両の走行量、使用ガソリン量を「見える化」し、ドライバーの意識向上を図っています。また、低燃費車やハイブリッドカーの導入も進めています。

国内支店、営業所については運転講習会（エコドライブ講習）を通じた燃費改善の効果や低燃費車の導入などにより、ガソリン使用量が前年比約3%低減しましたが、シスメックスメディカでの部品組立の増加にともない自社運用しているトラック配送回数が大幅に増加したことで、軽油使用量は前年比68%増加し、結果として、2015年度の国内社用車からのCO₂排出量は、前年度比で約1%増加しました。

関連法規制の順守

シスメックスは、コンプライアンスおよび環境保全の視点に立ち、環境関連法規制の順守に取り組んでいます。

その一環として、省エネ法に基づき、シスメックス株式会社の年間エネルギー使用量を集計した定期報告書とエネルギー削減計画をまとめた中長期計画書を経済産業省へ提出しています。今後も努力目標達成の維持を目指して、全社の省エネルギー活動を推進していきます。また、2015年4月1日に改正施行された、フロン排出抑制法に対応するために、国内グループ各社で対応手順マニュアルに基づいた、対象機器の明確化と点検の実施、算定漏えい量の把握を実施しました。

化学物質管理

有害物質の貯蔵・使用状況の把握と管理

事業領域の拡大や組織変更にとまなう化学薬品管理にまつわる事故などのリスクを低減するため、2013年度、研究開発拠点のテクノパークに薬品管理委員会を設置し、薬品管理体制を強化しました。当委員会の管理のもと、関連部門への教育を徹底しています。

また、ソリューションセンターの学術実験室においては「学術本部実験室管理基準」にもとづいて薬品管理を徹底しています。

紙使用量の削減

資料の電子データ化を推進

シスメックス株式会社では、タブレット端末を導入し、ペーパーレス会議を推進しています。これによって紙の使用量・廃棄量削減、印刷・配布などの事前準備の工数削減に取り組んでいます。また、事前に資料のデータを出席者に配付できるようになったことで、会議の効率化にもつながっています。また、サプライヤー向けの製品部品図面を、紙ではなく電子データで提示することでも紙使用量を削減しています。

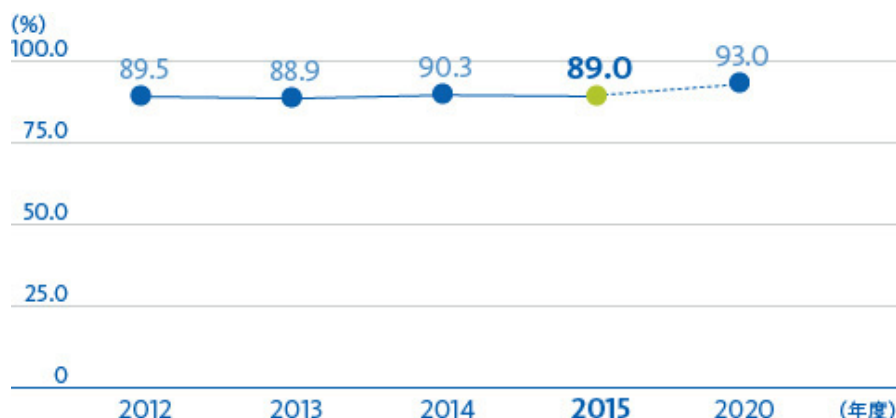
廃棄物の管理とリサイクル

廃棄物量の削減と安定したリサイクル率の維持

シスメックスは、廃棄物の削減やリサイクル率向上にも継続的に取り組んでいます。例えば、シスメックス 無錫では購買品の包装用PE袋を生産・開発の場で使用したり、生活用ごみ袋として再利用するなど廃棄物の削減にも取り組んでいます。また、済南シスメックスでは、製造ラインの自動化によって廃棄物排出の削減を実現しています。このほか国内では、社員食堂など生ごみが多く出る場所で生ごみ処理機の活用を進め、生ごみを肥料に変えるなど、各拠点でさまざまな取り組みを継続的に実施しています。2015年度には、テクノパークで埋め立て処理していたガラスくずを道路舗装材料へ再生処理するリサイクルを開始しました。

これらの取り組みにより、グループのリサイクル率は、89.0%となりました。エコビジョン2020の目標を達成に向けてさらに取り組みを進めていきます。

事業所のリサイクル率



集計範囲: 工場および主要事業所のうち製品・化学物質を取り扱う事業所

[工場]

シスメックス株式会社（加古川工場、アイスクエア）、シスメックス国際試薬（小野工場、西神工場）、シスメックスメディカ、シスメックスRA、ドイツ試薬生産工場、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫

[主要事業所]

シスメックス株式会社（本社、テクノパーク、ソリューションセンター）

有害廃棄物の管理・処理

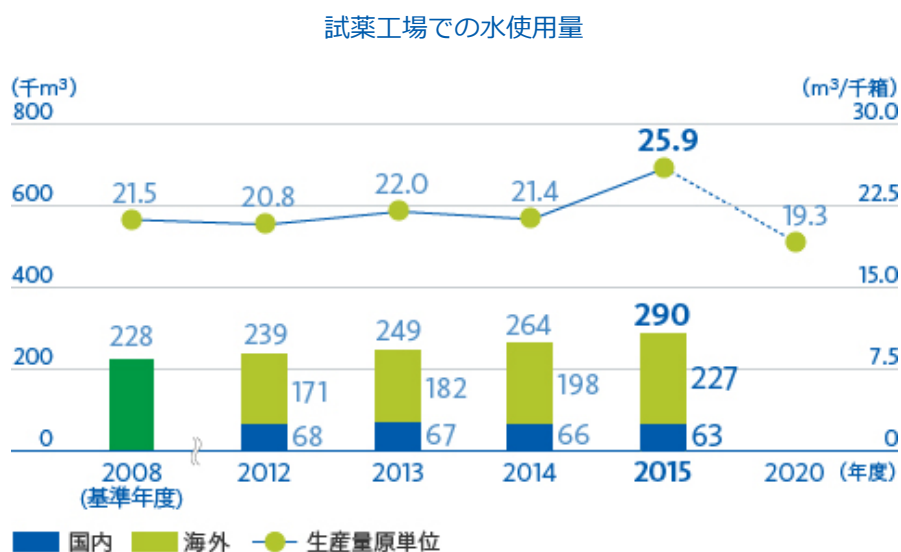
シスメックス国際試薬では製品の原材料として、テクノパークでは研究開発の実験材料として、生物由来の物質を取り扱っています。これらは感染の危険性があるため、万が一に備え、マニュアルに基づいて保管・使用場所を制限するなど厳重に管理するとともに、一般廃棄物とは厳格に分別して適切に処理しています。

また、その他の有害物質についても、飛散の抑制、流出や地下浸透がないように設備・管理手法の両面から対策を講じ、排出を法規制の基準値以下に抑えるよう努めています。2014年度には西神工場で廃棄物置場を改修したほか、小野工場では新たにBOD（生物化学的酸素要求量）の警報機を設置するなど、有機物を含む廃液の流出を未然に防ぐシステムを導入しました。

水資源の有効利用

水使用量削減と適切な排水処理

シスメックスは、水の使用効率を高め、水使用量を削減するため、各拠点で取り組みを進めています。国内試薬工場では、生産効率の改善を進め、工数削減を図るとともに、水使用量を低減しています。シスメックス インディアでは、浄化処理後の工場排水をリサイクルし、工場内の緑地へ引いて水やりを使用しています。2015年度は、生産量の増加にともなう試薬生産工場の拡張や、人員の増強により、水使用量（生産量原単位）は、エコビジョン2020の目標に対して、20%増となりました。



集計範囲: 試薬工場 (9拠点)

シスメックス国際試薬 (小野工場、西神工場)、ドイツ試薬生産工場、シスメックス ブラジル、シスメックス リージョン・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫

その他の環境活動

森林保全活動

各地で植樹などを実施し、生物多様性保全に貢献

シスメックスでは、中核事業の一つである試薬生産において水を原料として使用していることから、地域の水源涵養に寄与する森林の保全を重要な社会的責任の一つと位置づけるとともに、生物多様性保全への貢献を目指しています。

こうした考えにもとづいて、2013年度から、兵庫県が推進する「新ひょうごの森づくり」活動の趣旨に賛同し、森林整備活動をスタートさせました。試薬工場が立地する兵庫県小野市にある「かわい快適の森」（17ヘクタール）のうち、約2ヘクタールを借り受けて「シスメックスの森」と名づけ、従業員ボランティアによる間伐作業などを実施し、「人といきものがともに憩える里山づくり」を目指しています。2015年度は、9回の活動を実施して、延239名が参加しました。

この整備活動では従業員の家族の参加も推奨しており、なかでも子どもたちに対しては、自然との触れ合いを楽しめる専用のプログラムを用意しています。例えば、自分たちの手でペイントした小鳥用巣箱の設置や、さし木、野菜やシイタケ栽培などの活動を通して、未来を担う子どもたちに、人と自然との関係について考えてもらう機会としています。

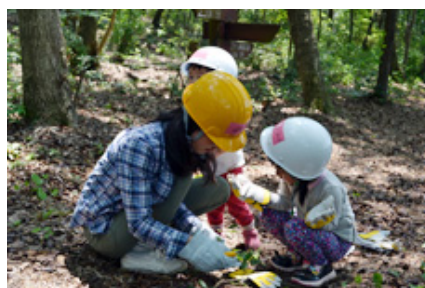
また、本活動においては生物多様性の観点から、絶滅が危惧される種、希少な野生植物の保存に取り組んでいます。たとえば、2013年度に見つかったカスミサンショウウオ※については、その生息環境を保全し、2年続けて卵囊の発生を確認しました。また、各地で個体数の減少が進んでいるササユリを栽培し、種の回復に向けた活動を実施しています。

海外でも、関係各社が周辺地域の状況を踏まえ、森林保全活動に取り組んでいます。例えば2015年度には、シスメックス ニュージーランドがモトゥタブ島で在来種の苗木、計902本を植樹しました。モトゥタブ島はニュージーランド北部に位置する島で、多くの自然が残ることで知られています。同社は昨年もモトゥタブ島で清掃活動を行うなど、継続的に自然保護への活動を実施しています。

※ 環境省レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている小型のサンショウウオ。



シスメックスの森（森林整備活動の参加者）



シスメックスの森（キッズプログラム）



ニュージーランドでの森林保全活動の参加者

清掃活動

事業所周辺のクリーン活動

シスメックスでは、日本全国の事業所で従業員ボランティアによる事業所周辺の清掃活動を実施しています。2015年度は29拠点で延べ778名の従業員がこの活動に参加しました。



清掃活動に参加した従業員（本社）



清掃活動に参加した従業員（アイスクエア）



清掃活動に参加した従業員（シスメックスメディカ）

グリーン調達

グリーン調達を推進

「グリーン調達基準」を制定

「グリーン調達基準」を制定し調達活動における環境配慮への基本的な考え方として、「グリーン調達基準」を制定しています。

グリーン調達基準

私たちは、ヘルスケア分野でのグローバルな企業活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

1. 目的

シスメックスグループは、地球環境保全を進めることにより企業の社会的責任を果たすという環境基本方針を基に、環境に配慮した製品づくりを推進するため、地球環境への負荷が少ない原材料・部品の調達を推進し、環境保全活動に意欲的なサプライヤーの皆様と共に持続可能な社会の発展を目指します。

2. グリーン調達の方針

シスメックスグループは、調達活動における、当社製品の環境負荷を低減することはもとより、サプライヤー様も含めた生産活動を通じた環境負荷を低減するため『グリーン調達』を実施します。グリーン調達の具体的な取り組みとして、以下の2項目を推進します。

- 1) 環境負荷が少ない原材料、部品の調達を推進します。
- 2) 環境保全に意欲的なサプライヤー様との取引を拡大します。

3. 適用範囲

シスメックスグループにおける原材料・部品および製品の調達活動に適用する。

4. 製品使用化学物質の管理

シスメックスグループは、開発・製造する製品に使用する原材料・部品の選定にあたっては、必要な品質・機能・経済的合理性に加え、環境負荷を低減するため、以下に示す化学物質を使用していない原材料・部品を採用するものとします。

- 1) 製品に使用する化学物質の制限で定めている禁止物質を含有していないこと
- 2) 製品に使用する化学物質の制限で定めている化学物質の含有量が把握されていること
- 3) 使用にあたり、化学物質、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染発生等の環境負荷が低いこと
- 4) 資材に関する環境情報を公開していること
- 5) 梱包材についても、上記内容と同様、化学物質の含有量削減等がなされていること

以上

2014年11月改定

サプライヤーの皆様へ

環境保全活動に意欲的に取り組んでいる調達先を高く評価

シスメックスは、社会が抱える重要な課題である地球環境の保全に積極的に取り組んでいます。当社活動の重要性を十分ご認識いただき、グリーン調達にご協力いただきますようお願い申し上げます。当社は、グリーン調達基準に基づき、品質、価格、納期、技術開発力などに加え、環境保全活動に意欲的な取り組みを実践されているサプライヤー様を高く評価いたします。サプライヤーの皆様には、以下のご協力をお願いしております。

1. 環境マネジメントシステムの構築と運用のお願い

シスメックスグループは、お取引を開始するにあたり、環境保全活動に意欲的な取り組みを実践されていることを明らかにしていただくため、第三者による環境マネジメントシステム認証の有無を確認させていただきます。

- 1) ISO14001の認証
- 2) 簡易版の環境マネジメントシステムの認証

2. 原材料、部品の環境情報提供のお願い

シスメックスグループは、シスメックスの環境保全活動にご協力いただくため、サプライヤー様に次に示す環境情報の提供をお願いしております。

- 1) 原材料、部品に含まれる有害化学物質データ
- 2) 欧州RoHS規制物質の不使用証明書
- 3) 欧州RoHS規制に適合した原材料、部品の情報

3. サプライヤー様の外注先様に対する環境対応のお願い

シスメックスグループは、サプライヤー様が取引されている外注先様につきましても、環境マネジメントシステムの構築と環境情報の提供にご協力いただくことをお願いしております。この外注先様につきましては、サプライヤー様が責任を持って管理いただくことをお願いしております。

以上
2014年11月改定

製品使用化学物質の制限

禁止物質、削減物質、対象国を明示

グリーン調達基準に基づき、生産および販売する製品を構成する部品、デバイス、材料などに含有される化学物質（環境負荷物質）への対応について、Webサイトに開示しています。

パフォーマンスデータ集

事業活動にともなう環境負荷



- ① 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場
[国内主要事業所]シスメックス株式会社（本社・テクノパーク・ソリューションセンター）
[国内機器工場]シスメックス株式会社（加古川工場・アイスクエア）、シスメックスメディカ、シスメックスRA
[国内試薬工場]シスメックス国際試薬（小野工場・西神工場）
[国内営業拠点]シスメックス株式会社
1支社（東京）、6支店（仙台・北関東・名古屋・大阪・広島・福岡）、13営業所（札幌・盛岡・長野・新潟・千葉・横浜（2015年度から対象）・静岡・金沢・京都・神戸・高松・岡山・鹿児島）、1サービスセンター（首都圏サービスセンター）、シスメックスCNA
[国内その他事業所]シスメックス株式会社（研究開発センター・たんぱく質開発センター・BMAラボラトリー・グローバルコミュニケーションセンター（2015年度から対象）・走心寮（2015年度から対象））
[海外主要拠点]シスメックスヨーロッパ、シスメックスドイツ、シスメックスアメリカ、シスメックス上海、シスメックスアジア・パシフィック
[海外試薬工場]シスメックスヨーロッパ、シスメックスブラジル、シスメックスリージェンツ・アメリカ、シスメックスインドia、シスメックスアジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス無錫
- ② 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内その他事業所、海外試薬工場
（1を参照）
- ③ 国内主要事業所（本社除く）、国内機器工場、国内試薬工場、国内その他事業所、海外試薬工場
（1を参照）
- ④ 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所
（1を参照）
- ⑤ 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場
（1を参照）
- ⑥ 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外試薬工場
（1を参照）

主な環境負荷に関わる指標と実績 (※1)

シスメックスグループ環境行動計画 エコビジョン2020 に関するデータ

側面	内容			単位	適用対象(※3)	基準年度			
						年度	データ		
製品・サービス等の環境配慮	温室効果ガス排出量 GHGスコープ3 (※2)	物流におけるCO ₂ 排出量	製品の国内への物流	t-CO ₂	シスメックス株式会社	2010	5,399.84		
			製品の海外への物流			2010			
		物流におけるCO ₂ 原単位排出量	製品の国内および海外への物流	t-CO ₂ /億円		2010	7.252		
		原単位分母	シスメックス株式会社単体売上高	億円		2010	744.60		
事業所の環境配慮	温室効果ガス排出量 GHGスコープ1 + スコープ2 (※2)	総排出量	都市ガス、LPG、LNG、重油、灯油、軽油、電力	t-CO ₂	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場	2008	7,080.93		
					海外主要拠点、海外試薬工場	2008	4,191.63		
		原単位総排出量	都市ガス、LPG、LNG、重油、灯油、軽油、電力	t-CO ₂ /億円	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、海外主要拠点、海外試薬工場	2008	10.079		
		原単位分母	連結売上高	億円		2008	1,118.42		
	廃棄物の排出量	総排出量		t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、海外試薬工場	2008	872.28		
		リサイクル(エネルギー回収を含む)廃棄物				2008	670.78		
		リサイクル率(エネルギー回収を含む)廃棄物		%		2008	76.90		
	水使用量		地下水	千m ³	国内試薬工場	2008	－		
					海外試薬工場	2008	－		
			水道		国内試薬工場	2008	－		
					海外試薬工場	2008	－		
			総使用量				2008	228.35	
			原単位総使用量		m ³ /千箱	国内試薬工場、海外試薬工場	2008	21.490	
			原単位分母	生産箱数	千箱		2008	10,625.87	

2012年度 データ	2013年度 データ	2014年度 データ	2015年度 データ カバー率(※4)		カバー率 母集団(※5)	算定方法など	G4 指標 番号
1,145.00	1,237.00	1,112.00	1,213.00	—	—	日本の各工場から物流倉庫まで、物流倉庫から国内顧客等(支店・営業所を含む)までの物流CO ₂ 排出量。輸送トンキロ(輸送重量×輸送距離)にCO ₂ 換算係数を乗じて算出。 換算係数(出典):「ロジスティクス分野におけるCO ₂ 排出量算定方法 共同ガイドライン」に従う。	G4-EN17 G4-EN18
4,528.00	4,251.00	3,971.00	4,222.00	—	—	物流倉庫から日本の港(空港)までの物流CO ₂ 排出量(海外顧客向け)、日本の港(空港)から海外各地域の港(空港)までの物流CO ₂ 排出量。輸送トンキロ(輸送重量×輸送距離)にCO ₂ 換算係数を乗じて算出。 換算係数(出典):「ロジスティクス分野におけるCO ₂ 排出量算定方法 共同ガイドライン」に従う。	
6.508	5.348	4.170	3.794	—	—		
871.71	1,026.17	1,218.94	1,432.43	—	—		
7,450.00	7,532.00	8,138.00	8,240.00	35.85%	7,909	エネルギーの種類ごとの使用量に排出係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典): (化石燃料) 地球温暖化対策法に基づく2008年度のCO ₂ 排出係数。都市ガスについては大阪ガスから供給されるガス(13A)を前提(海外事業所についても同じ係数を適用) (電力) 地球温暖化対策法に基づく、各工場・事業所の供給元の電力会社が公表する2008年度のCO ₂ 排出係数(クレジット調整前のもの)	G4-EN15 G4-EN18
5,106.00	7,199.00	7,980.00	10,130.00	28.08%	7,909	エネルギーの種類ごとの使用量に排出係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典): (化石燃料) 地球温暖化対策法に基づく2008年度のCO ₂ 排出係数。都市ガスについては大阪ガスから供給されるガス(13A)を前提(海外事業所についても同じ係数を適用) (電力) GHGプロトコル(WBCSD/WRI)に記載の国別排出係数(2005年)	
8.625	7.983	7.281	7.256	63.93%	7,909		
1,455.77	1,845.38	2,213.76	2,531.57	—	—		
962.60	1,056.90	1,341.20	1,502.80	40.97%	7,909		G4-EN23
863.50	941.60	1,212.60	1,338.00			廃棄物のうち、再使用、マテリアルリサイクル、熱回収(サーマルリサイクル)したものの量。	
89.70	89.09	90.41	89.03			リサイクル率(%)=(廃棄物再資源化量+有価物売却量)÷(産業廃棄物+一般廃棄物+有価物売却量)×100(%)	
0.00	0.00	0.00	0.00	28.77%	949	自家用地下水使用量。	G4-EN8
9.37	8.46	9.25	9.70	42.68%	949		
67.89	66.72	66.00	63.00	28.77%	949	上水使用量、工業用水使用量。	
161.88	174.02	188.56	216.90	42.68%	949		
239.14	249.20	263.81	289.60	71.44%	949		
20.814	22.044	21.401	25.910				
11,489.00	11,305.00	12,327.00	11,177.00	—	—	試験工場で製造された当社専用試薬の年間生産箱数。	

環境パフォーマンスに関するデータ

側面	内容			単位	適用対象(※3)	
INPUT	エネルギー消費量	非再生可能エネルギー消費量	電力(非再生可能)	千kwh	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場	
			都市ガス	千m³		
			LPG	t		
			LNG	t		
			重油	kL		
			灯油	kL		
			軽油	kL		
		再生可能エネルギー消費量	電力(再生可能)	kwh		
		総消費量		GJ		
		その他非再生可能エネルギー消費量	ガソリン(社用車)	kL		国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所
			軽油(社用車)			
		非再生可能エネルギー原単位消費量	電力(非再生可能)	千kwh/億円		国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場
			都市ガス	千m³/億円		
			LPG	t/億円		
			LNG	t/億円		
	重油		kL/億円			
	灯油		kL/億円			
	軽油		kL/億円			
	再生可能エネルギー原単位消費量	電力(再生可能)	kwh/億円			
	原単位総消費量		GJ/億円			
	原単位分母	連結売上高	億円			
	エネルギー消費の削減量	非再生可能エネルギー消費削減量	都市ガス、LPG、LNG、重油、灯油、軽油、電力	GJ	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場	
		再生可能エネルギー消費削減量	電力			
		総消費削減量				
		非再生可能エネルギー原単位消費削減量	都市ガス、LPG、LNG、重油、灯油、軽油、電力	GJ/億円		
		再生可能エネルギー原単位消費削減量	電力			
		総単位消費削減量				
水使用量		地下水		千m³		国内主要事業所(本社除く)、国内機器工場、国内試薬工場、国内その他事業所、海外試薬工場
	水道					
	総使用量					
	原単位総使用量		m³/億円			
	原単位分母	連結売上高	億円			

2012年度 データ	2013年度 データ	2014年度 データ	2015年度 データ		カバー率 母集団(※5)	算定方法など	G4 指標 番号
				カバー率(※4)			
27,573.43	31,525.65	35,779.00	37,233.00	74.41%	7,909		G4-EN3
1,043.92	1,185.34	851.98	1,543.97				
11.65	12.38	15.11	19.39				
0.00	0.00	0.00	0.00				
0.00	0.00	0.00	0.00				
62.44	67.60	70.17	35.02				
19.04	18.72	18.91	18.84				
81.88	100.46	209.42	243.00				
322,405.78	368,227.36	395,042.86	439,653.70			エネルギーの種類ごとの消費量に排出係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」 (各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。	
748.47	794.69	777.51	749.86	43.66%	7,909	日本国内における社用車のガソリン消費量。	
3.34	11.72	19.68	23.53			日本国内における社用車の軽油消費量。	
18.941	17.084	16.162	14.707	74.41%	7,909		G4-EN5
0.717	0.642	0.385	0.610				
0.008	0.007	0.007	0.008				
0.000	0.000	0.000	0.000				
0.000	0.000	0.000	0.000				
0.043	0.037	0.032	0.014				
0.013	0.010	0.009	0.007				
0.056	0.054	0.095	0.096				
221.468	199.540	178.449	173.668				
1,455.77	1,845.38	2,213.76	2,531.57	—	—		
—	▲ 45,821.58	▲ 26,815.50	▲ 44,610.84	74.41%	7,909	(当年度の消費エネルギー) - (前年度の消費エネルギー) ▲は前年度からの増加を示す。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」 (各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。	G4-EN6
—	▲ 0.07	▲ 0.39	▲ 0.12			(当年度の消費エネルギー) - (前年度の消費エネルギー) ▲は前年度からの増加を示す。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」 (各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。	
—	▲ 45,821.58	▲ 26,815.50	▲ 44,610.84			(当年度の消費エネルギー) - (前年度の消費エネルギー) ▲は前年度からの増加を示す。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」 (各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。	
—	1.942	1.185	1.248	74.41%	7,909		
—	0.002	▲ 0.040	▲ 0.001			▲は前年度からの増加を示す。	
—	21.927	21.091	4.780				
48.86	44.47	51.24	50.29	37.96%	7,909	自家用地下水使用量。	G4-EN8
281.68	299.94	316.97	340.80			上水使用量、工業用水使用量。	
330.54	344.40	368.21	391.09				
227.054	186.630	166.329	154.486				
1,455.77	1,845.38	2,213.76	2,531.57	—	—		

側面	内容			単位	適用対象(※3)	
INPUT	OA用紙使用量			t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場	
	PRTRインプット	取扱量		t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所	
OUTPUT	温室効果ガス排出量 GHGスコープ1(※2)	国内	都市ガス、LPG、LNG、重油、灯油、軽油	t-CO ₂	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所	
		海外			海外主要拠点、海外試薬工場	
		総排出量			国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場	
		原単位総排出量		t-CO ₂ /億円		
		原単位分母	連結売上高	億円		
	温室効果ガス排出量 GHGスコープ2(※2)	国内	電力	t-CO ₂	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所	
		海外			海外主要拠点、海外試薬工場	
		総排出量			国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場	
		原単位総排出量		t-CO ₂ /億円		
		原単位分母	連結売上高	億円		
	温室効果ガス排出量 GHGスコープ3(※2)	物流におけるCO ₂ 排出量	製品の国内への物流	t-CO ₂	シスメックス株式会社	
			製品の海外への物流	t-CO ₂		
		物流におけるCO ₂ 原単位排出量	製品の国内および海外への物流	t-CO ₂ /億円		
		原単位分母	シスメックス株式会社 単体売上高	億円		
		社用車CO ₂ 総排出量		t-CO ₂	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所	
		社用車CO ₂ 原単位総排出量		t-CO ₂ /億円		
		原単位分母	シスメックス株式会社 単体売上高	億円	シスメックス株式会社	

2012年度 データ	2013年度 データ	2014年度 データ	2015年度 データ カバー率(※4)		カバー率 母集団(※5)	算定方法など	G4 指標 番号
53.14	50.46	48.79	44.48	35.85%	7,909		
7.16	7.88	0.15	0.13	46.33%	7,909	化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR取引量。	
917.40	1,096.70	806.50	865.00	46.33%	7,909	エネルギーの種類ごとの消費量に排出係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」 (各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。	G4-EN15 G4-EN18
1,613.90	2,147.70	1,430.20	2,892.10	28.08%	7,909	エネルギーの種類ごとの消費量に排出係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」 (各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。	
2,531.30	3,244.40	2,236.70	3,757.10	74.41%	7,909		
1.739	1.758	1.010	1.484				
1,455.77	1,845.38	2,213.76	2,531.57	—	—		
9,915.80	11,869.90	12,635.30	13,040.60	46.33%	7,909	各事業所の電力使用量に電力会社ごとの排出係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」 (各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。	G4-EN16 G4-EN18
3,540.40	5,099.30	6,559.20	7,237.50	28.08%	7,909	各事業所の電力使用量に国ごとの排出係数を乗じて、その総和をとったもの。 換算係数(出典):GHGプロトコル(WBCSD/WRI)に記載の国別排出係数(2005年)。	
13,456.20	16,969.20	19,194.50	20,278.10	74.41%	7,909		
9.243	9.196	8.671	8.010				
1,455.77	1,845.38	2,213.76	2,531.57	—	—		
1,145.00	1,237.00	1,112.00	1,213.00	—	—	日本の各工場から物流倉庫まで、物流倉庫から国内顧客等(支店・営業所を含む)までの物流CO ₂ 排出量。輸送トンキロ(輸送重量×輸送距離)にCO ₂ 換算係数を乗じて算出。 換算係数(出典):「ロジスティクス分野におけるCO ₂ 排出量算定方法 共同ガイドライン」に従う。	G4-EN17 G4-EN18
4,528.00	4,251.00	3,971.00	4,222.00	—	—	物流倉庫から日本の港(空港)までの物流CO ₂ 排出量(海外顧客向け)、日本の港(空港)から海外各地域の港(空港)までの物流CO ₂ 排出量。輸送トンキロ(輸送重量×輸送距離)にCO ₂ 換算係数を乗じて算出。 換算係数(出典):「ロジスティクス分野におけるCO ₂ 排出量算定方法 共同ガイドライン」に従う。	
6.508	5.348	4.170	3.794	—	—		
871.71	1,026.17	1,218.94	1,432.43	—	—		
1,746.58	1,830.26	1,856.25	1,802.01	46.33%	7,909	日本国内における社用車のガソリン、軽油の消費量にそれぞれ排出係数を乗じ、総和をとったもの。 換算係数(出典):「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」 (各年度最新版の係数を使用 環境省・経済産業省)による。	
2.004	1.784	1.523	1.258				
871.71	1,026.17	1,218.94	1,432.43	—	—		

側面	内容		単位	適用対象(※3)	
OUTPUT	廃棄物の排出量	総排出量	t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外試薬工場	
		総排出量(国内営業拠点含まない)	t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内その他事業所、海外試薬工場	
		マテリアルリサイクル廃棄物			
		リサイクル(エネルギー回収を含む)廃棄物			
		マテリアルリサイクル率	%		
		リサイクル率(エネルギー回収を含む)			
	水排出量	総排出量	千m³	国内主要事業所(本社除く)、国内機器工場、国内試薬工場、国内その他事業所、海外試薬工場	
	PRTRアウトプット	排出量	t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所	
		移動量			
コンプライアンス	環境法規制の違反	高額罰金の総額	億円	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外試薬工場	
		罰金以外の制裁措置総件数	件		
	重大な化学物質の漏出・紛失	総件数	件		
		総漏出量	t		

(※1) 一部事業所の実績値を訂正したため、昨年度の開示データと一部差異があります。

[訂正箇所] Input>エネルギー消費量>非再生可能エネルギー消費量>LPG

Output>温室効果ガス排出量GHGスコープ1>総排出量、温室効果ガス排出量GHGスコープ2>総排出量

Output>廃棄物の排出量>総排出量、リサイクル率(エネルギー回収を含む)

(※2) GHG スコープ1: 企業の施設や工場から直接排出される温室効果ガスを算定・報告する基準。(社用車の使用は含まない。)

GHG スコープ2: エネルギーの使用に伴う、企業から間接排出される温室効果ガスを算定・報告する基準。

GHG スコープ3: 商品・サービスに関わる企業群(サプライチェーン)全体から排出される温室効果ガスを算定・報告する基準。(社用車の使用を含む。)

2012年度	2013年度	2014年度	2015年度		カバー率 母集団(※5)	算定方法など	G4 指標 番号
データ	データ	データ	データ	カバー率(※4)			
1,163.91	1274.16	1,556.76	1,701.35	48.78%	7,909		G4-EN23
1,018.74	1,109.82	1,419.19	1,534.63	44.70%	7,909		
536.02	600.51	788.13	986.44	42.03%	7,909	廃棄物のうち、第三者による処理の結果、有価物になったものの量。 燃料化(RPFなど)したものも含む。	
907.96	988.45	1,282.60	1,410.97			廃棄物のうち、再使用、マテリアルリサイクル、熱回収(サーマルリサイクル)したものもの量。	
52.62	54.11	55.53	64.28				
89.13	89.06	90.38	91.94				
145.11	144.36	163.83	191.66	39.02%	7,909		G4-EN22
0.00	0.00	0.00	0.00	46.33%	7,909	化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR排出量。	
0.70	4.84	0.00	0.00			化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR移動量。	
0.00	0.00	0.00	0.00	74.41%	7,909		G4-EN29
0	0	0	0				
0	1	0	0				G4-EN24
0.00	0.00	0.00	0.00				

(※3) 国内主要事業所：シスメックス株式会社(本社・テクノパーク・ソリューションセンター)

国内機器工場：シスメックス株式会社(加古川工場・アイ スクエア)、シスメックスメディカ、シスメックスRA

国内試薬工場：シスメックス国際試薬(小野工場・西神工場)

国内営業拠点：シスメックス株式会社(1支社(東京)、6支店(仙台・北関東・名古屋・大阪・広島・福岡)、13営業所(札幌・盛岡・長野・新潟・千葉・横浜(2015年度から対象)・静岡・金沢・京都・神戸・高松・岡山・鹿児島)、1サービスセンター(首都圏サービスセンター))、シスメックスCNA

国内その他事業所：シスメックス株式会社(研究開発センター・たんばく質開発センター・BMAラボラトリー・グローバルコミュニケーションセンター(2015年度から対象)・走心寮(2015年度から対象))

海外主要拠点：シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ドイツ、シスメックス アメリカ、シスメックス 上海、シスメックス アジア・パシフィック

海外試薬工場：シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ブラジル、シスメックス リージョン・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫

(※4) カバー率は、従業員数を基に算出。

(※5) カバー率母集団は、グループ従業員数。ただし、シスメックス環境行動計画エコビジョン2020>事業所の環境配慮>水使用量のみ、グループ試薬工場従業員数。

会社情報

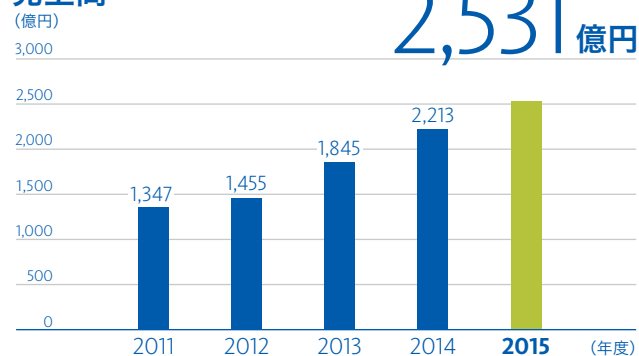
会社概要

(2016年3月31日現在)

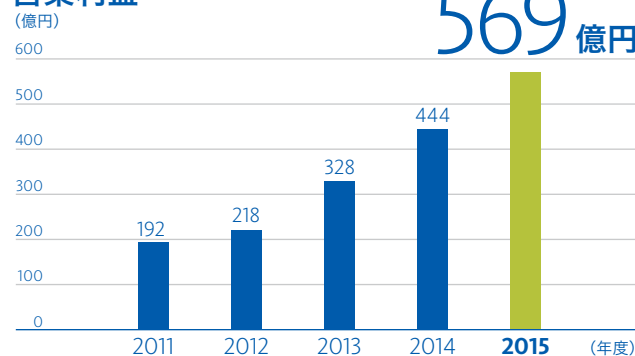
社名	シスメックス株式会社
設立	1968年2月20日
資本金	110.16億円
代表者	代表取締役会長兼社長 家次 恒

本社	〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
事業内容	臨床検査機器、検査用試薬ならびに 関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入

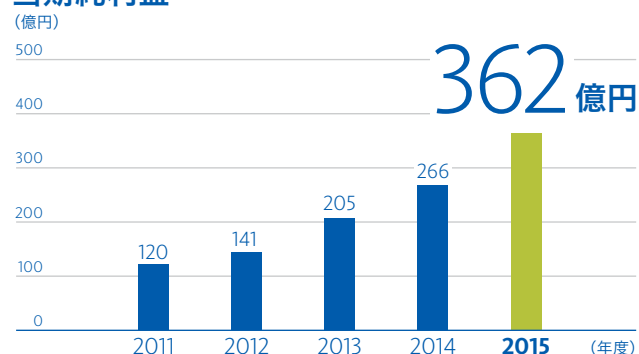
売上高



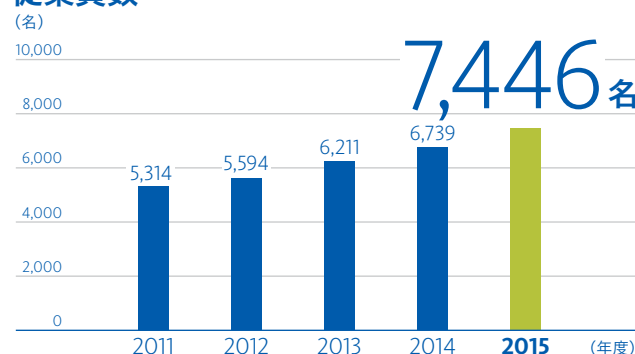
営業利益



当期純利益



従業員数



注) 嘱託社員・パート社員などを含む

ウェブ掲載情報

CSRサイトで網羅的に情報を開示

シスメックスCSR 検索



社長メッセージ

シスメックスのCSR

- CSRマネジメント
- CSR中期計画
- ステークホルダーとの対話実績
- CSRデータ一覧
- 社外からのCSR評価

コーポレート・ガバナンス

コンプライアンスの取り組み

リスクマネジメント

CSR活動特集(2016)

- 特集1** 社内外の知と技術を結集し
ヘルスケアの進化を加速
- 特集2** 新しい価値の創造に向けた
グローバルな人材育成・交流

ステークホルダーとの関わり

- **お客様との関わり**
品質・安全性の確保
サービス&サポート/学術活動
安定的な供給
お客様満足度・社外評価の向上
医療課題解決への貢献
- **株主様との関わり**
- **取引先との関わり**
- **従業員との関わり**
人権の尊重
評価・処遇・人材育成
ダイバーシティ推進
労働者の権利の尊重
安全と健康への配慮

社会貢献活動

- **社会貢献方針**
- **健康社会づくり活動**
- **地域社会への貢献**
- **従業員の社会貢献活動の推進**

地域別売上高／関係会社数

地域別従業員数



398 億円
10社



3,339 名



598 億円
9社



1,029 名



682 億円
27社



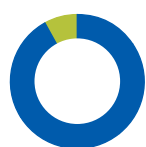
2,006 名



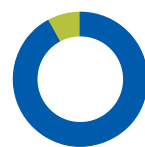
651 億円
4社



492 名



201 億円
13社



580 名

環境保全活動

- 環境マネジメントの取り組み
- 製品・サービスのライフサイクルにおける環境配慮
- 事業所活動の環境配慮
- その他の環境活動
- グリーン調達
- パフォーマンスデータ集

CSR報告書「シスメックスあんしんレポート」

ガイドライン等対照表



シスメックス株式会社

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 〒651-0073

Tel 078-265-0500 Fax 078-265-0524

www.sysmex.co.jp